

げんてん

(日本医科大学第一内科学教室・同窓会年報)

第十五号

(2003年度)

付 日本医科大学第一内科学教室業績集
(2003年4月～2004年3月)

付 日本医科大学第一内科同窓会名簿

日本医科大学第一内科学教室・同窓会発行

目 次

巻頭言	高野 照 夫	1
I. 就任あいさつ		
心筋梗塞後症候群に思う	田 中 啓 治	2
日本医科大学第一内科と私	新 博 次	6
第一内科助教授就任の御挨拶	畑 典 武	7
第一内科助教授を拝命して	小 林 義 典	8
ほそぼそとわが道をいっております	大 坂 元 久	9
第一内科講師を拝命して	福 間 長 知	10
II. げんてん会幹事に就任して	関 山 達 也	12
III. 波崎済生病院病院の近況について	笠 井 源 吾	13
IV. 地方都市における循環器救急医療体制の取り組み	横 山 広 行	15
V. 「付属病院における血管再生医療が高度先進医療に承認」	宮 本 正 章	17
VI. 「心臓病患者家族のための AED 心肺蘇生法全体講習会」を日本武道館にて開催	高 山 守 正	19
VII. 海外留学者の帰国報告		
アメリカ留学を終えて	奥 村 敏	21
マサチューセッツ病院、ハーバードメディカルスクールに留学して	高 野 雅 充	23
VIII. 第一内科学教室、同窓会（げんてん会）記録		24
IX. 医局員勤務表		25
X. CC・CPC		27
XI. 学位取得者		28
XII. 2003 年度研究業績		29
XIII. 同窓会会員名簿		60
現役医員名簿		72
IX. 編集後記		79

巻頭言

高野 照夫

本年の私のスタートは、1月5日 新博次教授の辞令交付式でした。新年の清々しい時、辞令を頂く彼は、希望に燃え、眼が輝いていました。とても誇らしく、幸先の良い出発でありました。

付属病院においては「千駄木地区開発のためのアクションプラン 21」の初年度の年でもありました。その内容は、大学の移転、その跡地に付属病院と共有施設を建設することです。128年の伝統と歴史に新しいページを加え、この計画を基盤として教育・研究・診療への新展開をもたらし、本学の発展のため再出発を期するものです。この計画の実現には第一内科の絶大な協力が必要とされるのは当然ですが、日常生活でも「第一内科は、本学を特色ある、また魅力ある大学・病院にする推進力なのだ」という自負心をさらに高揚することが期待される年でもありました。

「げんてん会」における本年の最も大きな事業は、故木村栄一学長の23回忌でした。2月7日（土）東京會館で先生の御親族や門下生約200人が参集し、先生の回診、抄読会の厳しい教訓の思い出や、対個人的になるととっても優しい方であったなど、当時を偲びました。先生のお人柄らしく和やかで楽しい会でありました。高野守人先生、清野友三郎先生、山崎登志夫先生、大林完二先生をはじめとするげんてん会幹事や平山医局長の多大な努力により執り行われました。新規医療改革による研修医制度がはじまり、残念ながら恒例の新入医局員歓迎会は新入医局員がいなかったため行われませんでした。2年後には盛大に挙行されることを望んでいます。

なお、3月23日には日本循環器学会役員改選が行われ、評議員に岸田浩、水野杏一、加藤貴雄の各教授、清野精彦助教授、高山守正講師が選ばれ、高野は理事に互選されました。田中啓治教授は、日本集中治療医学会理事として活躍中であります。第二病院では宗像一雄教授が副院長として皆をまとめ、中心的に働いています。これらの医師が、第一内科の若手医師とスクラムを組み、牽引者となって前進する姿勢を見守りたいです。さらに、これらの余勢をかって、本学の最大目標である「アクションプラン21」を成功に導きたいと考えます。

本年度の医局の顕著な業績として2つ挙げるができます。1つは、バージャー病、糖尿病性末梢血管障害による壊死に対する治療として骨髓細胞移植による血管新生療法高度先進医療に承認されたことです。これは、多くの患者に福音をもたらす画期的な治療法として期待されています。2番目は、「心臓病患者家族のための AED 心肺蘇生法全体講習会」の開催です。これは、高山守正講師が事務局長を務める東京都 CCU ネットワークが中心となって、「愛する家族を救うのはあなただ！」と題し、日本武道館に約650名の患者関係者と全国各地から約250名のインストラクターが集まり、台風襲来の10月20日（水）盛大に行われました。これは、全国で初めての試みの催し物であり、マスコミや救急医療業界から広く注目を集めました。

まだまだ書きたいことはありますが、また電話がなり、休む時ありません。本年もかかる状況のもとで過ぎようとしています。

最後に一言付け加えますと、医者という仕事は激務であることを、再認識した年でもありました。「医者の不養生」は、他山の石ではありません。自分の身体に様子を聞きながら、納得のいく仕事をしてください。来年は計画性をもって、第一内科の発展のためにさらに尽くしたいと思います。

心筋梗塞後症候群に思う

集中治療室（第一内科）教授 田中 啓治

どの医局にも“おはこ”と呼ばれる疾患がある。その医局が代々得意とし、世に誇る事の出来る疾患である。日本医大第一内科にあっては、異型狭心症であったり、洞不全症候群であったり、血管拡張療法であったりする。

心筋梗塞後症候群もその一つに上げられよう。

大概その疾患が“おはこ”となる為には、非常に熱心（マニアック）な、その病気が大好きな医師がいるのが普通である。しかし、時代が過ぎ若い医局員が文献だけを読んでも、過去の医師の熱意まではなかなか理解でない。

心筋梗塞後症候群は 1960～70 年に隆盛を極めた疾患である。従って我々が入局する 10 年前の先生方の研究テーマで、我々はその最後の研究を垣間見たに過ぎない。

最近私はラジオの短波放送でこの心筋梗塞後症候群についてしゃべる機会をいただいた。おそらくは大先輩の差し金であろう。短波であるので聞く人も少ないと考え私流に話した。しかし反応は直ぐにあった。木村内科の精鋭としてプライドをもって心筋梗塞後症候群をまとめられた大先輩からの電話である。文献まで送っていただき、当時の本当にホットであった時期を知らない私には大変勉強になった。

一言で“原点に返れ”と言うが、原点にある真実を知るのは大変なことである。先輩にお礼を込めてラジオ短波で述べたものを一部修正して以下に載せさせていただく。

心筋梗塞後症候群とは、1956 年に William Dressler が、心筋梗塞後しばらくして心膜炎、胸膜炎あるいは肺炎などを合併する症例を、Post-myocardial-infarction syndrome と名付けたことに始まる。したがって本症候群は、その頭文字から PMIS と呼ばれたり、報告者の名を取って、Dressler 症候群とも呼ばれている。

1959 年になると Dressler は 44 症例の梗塞後症候群をまとめ詳細な報告を行った。それによると、本疾患は、心筋梗塞発症後 2～6 週間後に発熱や胸痛を主訴として発症し、胸部レントゲンに胸膜炎や心膜炎あるいは肺炎の所見が認められ、血沈の促進や白血球増多、好酸球増多を伴い、しかも反復する傾向がある病態として述べられている。心筋梗塞症例の 2～4%にみられ、その原因は不明だが、壊死した心筋組織による sensitization” 感作” によるのではないかと考えられていた。その中で抗凝固剤を使用中に PMIS と診断された一人の患者が心タンポナーデで死亡したことから、抗凝固療法は本症候群に対しては危険で禁忌であると Dressler は結んでいる。

我が国における最初の症例は、1962 年に山崎登志雄らによって報告されている。梗塞発

症から2週間後に入院した62歳の女性で、抗凝固療法中に胸痛発作があり、両側の血性滲出性胸膜炎を認め、好酸球が増加していた。さらに1966年には林順一がこの症例を含む6例の本症を報告した。

Dressler の論文以後、少数例の報告は数多くなされたが、まとまった症例数を詳細に見当した報告は宗像純司の1980年の論文までほとんどなかった。宗像は、明らかに心筋梗塞と診断された症例のなかで発作後心膜炎や胸膜炎、肺炎を生じ、とくに反復性であった30例をPMISと考え、詳しく調べた。

本症の発生頻度について、宗像は全心筋梗塞症例の3.9%と述べており、Dresslerのおよそ3~4%とする報告と同頻度であった。梗塞発作からPMIS発症までの期間を宗像は数日から6ヶ月、半数は2~6週と報告したが、これもDresslerが心膜摩擦音の聴取時期を2~11週後としたのとはほぼ同じだった。宗像は心膜炎が全体の97%に、胸膜炎が83%に、肺臓炎が20%に認められたとしており、一方Dresslerは各々62%、68%、28%と述べている。この差は二つの時代の診断能力のちがいを考えて良からう。胸痛を訴え、その程度や部位は症例によって様々だが、心膜胸膜炎によく見られる深呼吸や体位変換などによって増強する胸痛が特徴である。穿刺液の性状は血性の場合と黄色浸出液の場合がほぼ半々であること、発熱や白血球増多、CRP値の上昇、血沈の亢進が高頻度にみられることも両者の論文に共通である。このことから本症候群の主体が炎症を主体とした疾患であることは明らかであった。

この炎症が何に基づいたものであるかという病因論についてDressler以来、免疫学的機序を介することが推測されてきた。ちょうどDresslerの発表があったころ、PMISではない通常の心筋梗塞において梗塞後に心筋抗体が陽性になることが報告された。しかし、報告された臨床論文をみると心筋抗体の陽性率にはかなりの開きがあった。その理由は報告者によって異なる抗心筋抗体の証明法が用いられていたからである。血球凝集反応を用いた報告では、その陽性率は35~55%、蛍光抗体法では23~32%、抗グロブリン消費試験では3%の陽性率と記載されている。

この陽性率は、ふつうの急性心筋梗塞にみられるものであり、しかも正常心筋に対する自己抗体であるので、PMISの発現機序を明確に示すものとは言えない。本症候群では心筋の壊死に伴って血中に遊離する抗原を捕らえることが必要であると考えられる。そこで、伊東邦昭は、梗塞心筋に対する抗体価を測定し正常心筋に対する抗体価と比較した。すると、正常心筋に対するものよりも梗塞心筋に対する抗体の陽性率のはるかに高かった。これをふまえて宗像は、PMIS患者に梗塞心筋抗原を用いて血球凝集反応により抗体価を測定することを試みた。その結果、ヒト梗塞心筋に対する抗体は普通の心筋梗塞では71%の症例に、またPMISでは75%と高率に認められ、とくにPMISではその抗体価が普通の心筋梗塞より優位に高いことが示された。

このように抗心筋抗体の抗体価が PMIS において明らかに高いことに加え、病状の推移に一致した抗酸球増多や免疫グロブリンの増加などは本症候群の本態が自己免疫疾患であることを強く示す所見である。

もう一つ、免疫学的機序が深く関与しているのではないかと考えられるポイントに治療の効果が挙げられる。心嚢や胸腔穿刺により得られた穿刺液からは細菌などは検出されず、抗生剤の投与は無効だが、ステロイド剤が著効する症例が多いことがその理由である。症状が軽ければ特に治療が必要なかったり、消炎鎮痛剤のみで有効なこともあるが、Dressler はステロイド剤が痛みや発熱を 24 時間以内にすみやかに消失させると述べており、宗像の症例も 3 分の 2 はステロイド治療が行われていた。ステロイドを減量すると再燃する症例もみられる。もし本症候群が自己免疫疾患であるならばステロイド剤が有効であるのは当然と言える。

しかし、一般の心筋梗塞でも、抗体価は低いものの、抗心筋抗体の陽性率が高いこと、組織への免疫グロブリンの沈着が証明されていないこと、かなり血液成分が多い浸出液が採取される場合があること、抗凝固療法で悪化し、とくに出血性タンポナーデで死亡する症例があること、などこの症候群に対する幾つかの疑問が残る。

最近の報告をみると、この PMIS の頻度はかなり減ってきている。1980 年に CCU に収容した 282 例の急性心筋梗塞について PMIS の頻度を調べた Lichstein らの報告では、6.4% に梗塞早期の反応性の心膜炎を認めたが、Dressler 症候群と考えられる症例は一例も無かったという。この報告における Dressler 症候群の診断基準は、前述のごとく抗心筋抗体の測定が絶対的な診断根拠にならないので、オリジナルな基準、すなわち心筋梗塞発作後に一週間以上続く発熱と心膜胸膜刺激症状がみられ、症状が再燃したり、3 日以上にわたり心膜摩擦音が聴取したものを PMIS としている。しかし、この基準に該当する症例は一例もなく、PMIS はすでに消滅してしまった疾患であると彼らは断言した。その理由は経口抗凝固薬がヘパリンに変わったこと、抗血小板療法としてアスピリンなどの積極的な投与が挙げられている。

しかし、本当に PMIS は根絶したのだろうか。PMIS と同様な機序は推測されている疾患に、心膜切開後症候群がある。やはり心臓手術後 10 日から数週間の間に発症する、発熱や心膜胸膜刺激症状、心膜摩擦音を伴う心膜胸膜炎で、再発しやすいことなど PMIS に酷似している。この症候群は現在でもよく見られるものであり、最近でも治療の有効性が無作為二重盲検法で検討されている。原因は自己免疫的要因だけでなく、slow virus infection や手術の機械的な侵襲なども挙げられている。また、ごく最近においても PMIS というタイトルで幾つかの症例報告がみられる。しかしそれは急性心筋梗塞症例ではなく、不整脈に対するカテーテル焼灼術や植え込み式除細動器の術後にこの症候群が認められたという報告である。このようにこの症候群は少し様変わりしながら、なお生き続けている様である。

いままで述べてきた PMIS について報告された論文の中で、注目しなければならないことがある。カテーテルアブレーションのあと 2 週間後に PMIS と全く同様の臨床症状を呈しステロイド剤が投与された症例報告なかで、この症候群の誘因として少量の血液が心嚢内に漏れ出したこと、カテーテルによる心臓穿孔が除外できなかったことが記載されている。また、PMIS から収縮性心嚢炎を来した症例の報告があるが、その症例を手術すると、心嚢内出血や心膜に癒着した血栓成分がみられるものがあったという記述もある。

我々は現在でもこの心筋梗塞後症候群として Dressler が報告した特徴に似た臨床所見を有する病態を見かける。それは心臓破裂を合併した症例においてである。

われわれは 77 例の心自由壁破裂の症例について報告した。自由壁破裂の頻度は急性心筋梗塞の 3.2% で、PMIS の頻度とほぼ同等である。この心破裂は梗塞後一気に破裂する blow out 型と、破裂の進行がゆっくりで血液成分が心室壁からしみ出てくるような oozing 型と呼ばれるタイプがある。blow out 型の破裂は 6 割が梗塞発症後 3 日以内に起きる。しかし、oozing 型が破綻をきたすのは発症から 1~2 週間後に多い。心膜摩擦音、心膜刺激症状、外膜のエコーフリースペースを伴い、高い発熱などはないが炎症反応の異常値は遷延している。oozing 型のなかには、心嚢液は数週間にわたり観察されますが、しだいに吸収され心膜が癒着補強され、blow out することなく生存退院する症例も稀ではない。心嚢液が少ない場合には、穿刺が難しく、はっきりと血液の漏出を証明できないこともある。この様な症例に対して抗凝固療法を行ったならば、Dressler が警告したとおり、血性心嚢液を伴った心タンポナーデを併発し、死に至ることは当然の帰結と考えられる。

以上のことから、古典的な心筋梗塞後症候群のなかには、oozing 型の心臓破裂症例が含まれていたのではないかと推察される。

近年の急性心筋梗塞に対する積極的なカテーテル治療によって、心破裂の頻度も減少した。しかし、現在行われている強力な凝固線溶療法が oozing 型の心破裂をタンポナーデに導く危険は十分ある。

心筋梗塞後症候群は原因の全てを免疫学的機序のみで説明するのには困難であり、幾つかの因子の関与した、心タンポナーデを惹起しうる症候群として現代に存続している。Dressler のならした警鐘として、心膜摩擦音などの重要性を忘れないためにも、本症候群はなお注目し続けなければならない病態と考える。

原点を知ること、原点を現在までに結びつけることの難しさについて述べたつもりである。しかし、我々に課せられたものはこれだけではない。さらに重要なのは新たな原点を作ることではなかろうか。この度、皆様のおかげを持ちまして第一内科（集中治療室）教授を拝命することができ、この点を自ら強く戒めているところである。

日本医科大学第一内科と私

新 博次

第一内科（木村内科）に入局し、あっという間に30年の歳月が経過してしまった。過去を振り返ると短く感じるが、ずいぶん長いこと医局に在籍していると思っている。現在付属多摩永山病院勤務であるが、ここでも既に5年が経過した。30年の間に何をしたかを思い出してみると、当初はよくわからなかったが、右心カテーテル法により右房、右室に電極カテーテルを挿入し、心内電位（His 束電位など）を記録し、発作性上室頻拍が誘発できた、できない、といった臨床電気生理学的検査なるものに従事して、学問より、よりうまく、より早くカテーテルを適所に挿入することを楽しみに検査室でカテーテルを操作していた。そのうちに木村教授から呼ばれ「群大の前川教授のところに勉強しに行く気はないか」と言われ、後日「行かせて頂きます」（当時、木村先生にはこのように返事をする様に教えられていた）と返事をした。しばらくしたら、今度は「このあいだは前川君の話をしたけれど、Surawicz が次をとってもいいと言っているようだけど、アメリカへ行く気はないか」と言われた。小生は前回と同様な返事をさせていただき、Kentucky 大学へ留学することになった。その後、Surawicz 先生が Indiana 大学に移動し、小生も引越しをした。Indianapolis へ突然、日本から初めての電話があり、木村先生が入院し、危ない状況であるとの連絡があった。その1~2週間後に今度は、亡くなったとの電話（2月11日）。2月11日は Dr. Surawicz の誕生日で彼はフロリダに休暇で不在。Western Union を探し休暇中の Surawicz 先生に電報を打った。小生はさっさと帰国することにして7月に帰国した。その後、イヌを使い吸引電極法を用いた実験を行ったが、大きな成果は難しく、もっぱら臨床研究を行い、1982年頃より心房細動の臨床研究を手がけてきた。その当時、日本循環器学会へ演題を応募し、しばしば落選した悔しい思い出がある。そこで落選演題は当時新生なった日本心電学会、日本心臓ペースング・電気生理学会にて発表してきた。また、早川先生の下で臨床心臓電気生理研究会、心臓性急死研究会などの研究会事務局を預かり、既に10年が経過している。そして、2000年から現在の多摩永山病院勤務。当時、永山は長澤先生が部長で小生は助教授で赴任。診療のみに追われている内科医員の皆様であった。何とか臨床データに興味をもってもらおうと、いろいろなことを企画したが、多くは未完のままで頓挫する状況であった。今日では決めたことは必ずやるようにと早朝カンファランスを続けることができるようになった。少しは前進できたかなと思っている。そして、2004年1月1日付けで第一内科教授を拝命した。第一内科の多くの教室員に支えられての今日だと思っている。第一内科、さらには日本医大の発展に寄与できるよう努力したいと考えている。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

第一内科助教授就任の御挨拶

日本医科大学付属千葉北総病院 集中治療室 助教授 畑 典武

平成 12 年 4 月に国立横須賀病院循環器医長を辞し、千葉北総病院集中治療室に配属されたと同時に第一内科講師に任命されて 4 年半経過しました。千葉北総病院では田中啓治先生の後任として部長職（代理）を勤めて参りましたが、殆ど全ての院内委員会に参加し、治験推進室室長、治験推進室運営委員会委員長、薬物治験審査委員会委員長、医療連携室副室長、医療連携委員会委員長、広報委員会委員長、集中治療室運営委員会委員長などの病院管理業務も経験して参りました。この度、平成 16 年 4 月より助教授に昇任後は、「部長代理」の「代理」が取れ、晴れて「部長」の肩書きを与えられました。その後、病院機能評価機構の審査を受けるに際し、千葉北総病院田中宣威院長から、対策実践部隊長（？）の大役を仰せつかり、大変苦勞しましたが無事機能評価も認定されホッとしております。さて、千葉北総病院集中治療室に赴任当初はスタッフ 3 名（今泉医局長、掃部君と品田君）に研修医 2 名の所帯でしたが、その後スタッフの働きぶりを認められ、また前任の田中啓治先生の御力添えと第一内科からの御援助を得て、現在はスタッフ 5 名（今泉医局長、横山真也君、石川昌弘君、椎葉邦人君、鈴木雄一朗君）、大学院生 1 名（品田卓郎君）と研修医 5 名での診療体制となりました。私を含めて 6 人でのスタートでしたが、12 名に倍増しました。この間、スタッフの増員により手狭になった医局スペースを拡張するために新に「ICU&CCU 医局」を開設し、ICU 内の当直室とカンファランス室も整備することができました。皆様の御協力を得て人材と学習スペースが拡張し、集中治療室としての論文等の作成も着実に進み、4 年半で英文原著 7 編、英文症例報告 3 編、和文 7 編となりました。まだまだ満足できたものではありませんが、今後も努力を続けたいと思っております。しかし、臨床研修医制度の変更により今後は、研修医は 2～3 名となります。また研修医の内訳も、今年度までは第一内科で 1 年目を研修した第一内科入局者にも来て頂いておりますが、このサポートが中断しますので正直なところパワーダウンが懸念されます。重症循環器疾患と集中治療学を研修医に教育する仕事量も大きくなります。教育や研究も必要ですが、日々の診療が第一でありますし、さらに病院経営にも問題山積であります。どここの付属病院に属していても病院経営は基本であります。一方では研究業績の積み重ねや教育も大学としての基本でもあります。これらを一手に管理することは非常に困難ですが、先輩諸先生方を手本として、第一内科の名を汚さぬ様、そして日本医科大学の名を汚さぬ様、精一杯仕事を進めたいと思っております。講師就任時の挨拶でも述べさせて頂きましたが、「終止一貫した、筋道の通った厳しさの中に感じる優しさ」が第一内科の魅力であると今も信じて疑いません。今しばらくはこの姿勢で教育・研究・診療に携わって行きたいと思っておりますので、今後とも宜しく御指導と御鞭撻をお願い申し上げます。

第一内科助教授を拝命して

小林 義典（昭和 56 年入局）

本年 10 月 1 日付けで、日本医大第一内科助教授に昇進させていただきました。第一内科という伝統のある医局で、私の様な若輩者がここまで仕事を続けてこられたのは、もちろん高野照夫主任教授、早川弘一名誉教授をはじめとする諸先輩方のご支援があったからこそであります。この場を借りて御礼を申し上げます。さて私の専門は臨床心臓電気生理学で、24 年前に入局後、日々不整脈診療、不整脈検査、カテーテル・アブレーションなどの不整脈治療に明け暮れてまいりました。この間、不整脈に対する新しい知見が続々と排出され、また新しい検査法、治療法が導入されて、その度にエネルギーが充填され、活力が湧いてくるわけです。しかしそれでも長年同じ分野で仕事をしていると、どうしても飽きがきます。この飽きが来ないように私が工夫していることは、ルーチンで行っている検査、例えば EPS 中に何か興味ある現象を発見したら、それまでの既存の常識に囚われないでそれを検証することです。これが結構大変で、実際にエビデンスを集積し、仮説を証明するためにはかなりの労力と時間が必要です。またこれらはあくまでも臨床研究ですので実際に原著論文まで到達できるのは、出てきたアイデアの内 2-3 割程度だと思います。偉そうなことを言うようですが、実際には心内で観察される微小な電位や、細かな電気生理学的現象を相手にしているわけですから、壮大なテーマと言える代物ではなく、ある人に言わせると重箱の隅をつつくようなテーマだとか、マニアックでわかりにくいなどとよく言われます。しかしながら今後もこれまでと変わらず、同様なスタンスで後進たちの研究テーマの発掘に努めていきたいと思います（言い換えれば、これ以上のことはできません）。また、私自身の仕事としては、現在低心機能における心臓突然死一次予防、その中でもリスク層別化における EPS の役割に関して、本邦から発信できるデータを集積しているところです。左室駆出率 40% 以下の低心機能例で、非持続性心室頻拍あるいは多形性の心室性期外収縮を合併する症例がいましたら、ご紹介宜しく願いいたします。

また、今後は教育の面でもこれまで以上の役割を果たしていかななくてはならないことも承知しております。今後とも諸先輩方には、ご指導、ご鞭撻のほど宜しく願いいたします。

ほそぼそとわが道をいっております

老人病研究所生体応答学部門 大坂 元久

もう千駄木の地をあとにし老人病研究所に配置替えになって4年が経とうとしています。生理学教室、情報科学センターをへての配置替えでした。わたくしのような一風変わった研究をしている者をなんとか活かしてくださった奥村英正先生、早川弘一先生、高野照夫先生のお陰で大学で研究をつづけてこれました。ほんとうに感謝しています。

いま取り組んでいるのはラットにおける高血圧メカニズムの解析です。慶応義塾大学医学部腎臓内科と共同研究しています。高血圧は独立した予後不良因子ですが、どうしてそのようなかは未だに判明していません。これだけ高血圧というものが目の敵にののようにされていますが、不思議なことです。それは高血圧の発症メカニズムがきちんと分かっていないからです。解明するための切り口はいくつかありますが、わたしはとくに自律神経の関連から検討しています。従来は予想されていても実証できなかった交感神経活動の 1Hz 以下のゆらぎに高血圧、腎血流に関わる成分があることを発見し、その成果は *Circulation* に掲載されました。これを指標として降圧剤の交感神経への関与を検討中です。高血圧は末梢動脈の血管抵抗が増すことによるだけでなく、中枢神経での交感神経の緊張状態が持続していることも主要な要因であることをつきとめました。高血圧の治療薬剤の選択方法は近い将来一変すると予想されます。

もともと心拍変動のゆらぎを研究していましたが、慶應のグループより提供された実験データより、心拍変動の $1/f$ ゆらぎがどうしてみられるのかという謎を解き明かすことができました。この実験データは、無拘束覚醒状態のラットから 100 分間以上にわたって心電図、血圧、腎交感神経活動を記録したものでおそらく世界ではじめてのデータです。これにわたしが、相互情報量という計算方法を指標として使えるように応用化したものを持ちいて、心拍変動の $1/f$ ゆらぎは交感神経活動、心拍数、血圧の3変数からなるダイナミクスから生じること、しかも低次元カオスになっていることを米国物理学会誌の *Phys. Rev. E* に掲載されました。心筋梗塞後の患者では $1/f$ ゆらぎの傾きが急峻になると突然死を起こしやすいことが分かっていますが、その機序もこの論文のなかで明らかにしました。そして、心拍変動の $1/f$ ゆらぎを再現する電気回路モデルを考案して論文に掲載されました。現在この電気回路の臨床応用をめざしているところです。こういうかわった研究も役立つことを理解していただけると幸甚です。

第一内科講師を拝命して

福岡 長知

今年9月に第一内科講師となるよう辞令があり、その重さを感じております。第一内科に入局後20年以上経ちましたが、このように長い間医局に在席することになるとは私としては予想していませんでした。自分なりに一生懸命に患者を診て、後輩と一緒に診療をし、研究を楽しんでいるうちにいつの間にか長い年月が経ったという感じです。またその中で、数多くの先輩先生方のお世話になり育ててもらったことや、私と一緒に研究班に属し研究をしてくれた後輩達に対し、本当に感謝しております。これからは講師という立場から第一内科に恩返しをしなければならないのだと考えています。ここでは講師着任の抱負を書くようにとの指示ですが、私たちのグループは医局内に対しアピール不足であると常々思っているのです、最初に研究班の話をさせて下さい。

私たちの研究班は運動生理や心臓運動療法をテーマとして活動しております。循環器病学における運動負荷は、皆様もご存じの通り古くからなされてきた分野であり、また諸先輩方の数々の業績により第一内科はその分野の中でも既に広く認められているところであります。それ故今さら運動負荷の研究が中心となるのだと思われる方もいらっしゃるかも知れません。もちろんこれまでに積み重ねられてきた知見を理解し発展させることは大切なことですが、近年の新たな展開により運動負荷の分野は注目され期待される分野となっています。

当科には平成12年夏に呼気ガス分析装置が導入され、私たちのグループが心肺運動負荷試験を行い、嫌気性代謝閾値(AT)や最大酸素摂取量(peak V02)等の様々な指標が利用可能な状態となりました。心肺運動負荷試験自体はそれほど目新しいものではないのですが、その指標の持つ意義が見直され、心疾患の病態生理を的確に反映することが理解され、またそれ故予後の強力な予測因子となることが明らかにされつつあります。近年では、心移植など先端医療の適応を検討するに当たって、より正確に心疾患の生命予後を予測する指標が必要となっており、その中でも心肺運動負荷試験の指標は必須のものとされています。また逆に、運動負荷の指標が予後を強力に規定することから、運動機能の改善を目指した治療が予後を改善するのではないかな等の期待がなされ、心臓運動病学に注目が集まっています。これらのことが、私たちが研究している分野です。

心臓運動療法も私たちの重要なテーマの一つです。心臓リハビリテーションは、心疾患の予後を改善する治療法としてevidenceが積み重ねられており、厚生労働省も推進する意向にあります。そのため全国の基幹病院においてなされるようになっております。第一内科においても、私たち研究班が中心となり、また本間講師が部長をされている臨床生理機能センターの積極的な支援があり、立ち上がりました。対象は、心筋梗塞、心不全、心臓手術後などの症例で、入院患者・外来患者に対して行っており、症例数も順調に増加して

おります。今後は、地域との連携を深めるなどをして、基幹病院としての展開を目指すことが私たちの夢であります。

私たち研究班の研究成果も、運動生理をテーマとしてから比較的短い期間であります、研究の成果が上がり始めております。学会発表は、国内では日本循環器学会、日本心臓病学会にそれぞれ年間3－5題程度、海外においてもACCやAHA等での発表の機会を得るようになっております。論文に関しては、本邦の雑誌はもとより、海外の雑誌にも accept されるようになりました。現在では、他施設から推薦もあり関連学会である日本臨床生理学会、日本心臓リハビリテーション学会の各評議員にして頂き、また当番幹事として臨床運動生理に関する研究会の開催を行うよう指示されるようになっていきます。もちろん第一内科として目指すべきはその分野での中心でありますので、まだまだ不十分な点が多く今後の努力が必要であることはいまでもありません。

研究班の宣伝は終わりにして、最後に、私の医局に対する思いを書きたいと思います。最近私は、第一内科の中で光り輝くものを持った後輩達に接すると、まぶしいような気持ちになることがしばしばあります。私も、他施設の研究者と様々な学会で接する機会がありますが、これらの人と比べても第一内科には勝るとも劣らないすばらしい可能性を持った若い人たちが数多くいるように感じます。是非とも若い人たちの才能を伸ばすシステムを確保して下さい。そうすれば研究においては第一内科の将来は安泰であると確信します。しかしまたその一方で、第一内科の伝統である臨床に対しての厳しさを守らなければと心配することがあります。私達の世代はまだ厳しく叱られて医者として育った世代であると思っています。学生気分が抜けない新入医局員であった頃の私としては人生観が変わるような出来事でしたが、そのような指導に対し今は感謝しています。患者に優しくなろうとすれば医者に対しては厳しくなるものだということを、年を取る毎に強く実感します。私としてはなかなか大変ことですが、先輩がたくさんのエネルギーを使い、時には怒りをもって後輩を指導し、それに後輩が応えようとする第一内科の伝統を大切にしたいと思います。堅苦しい話ばかりとなりましたが、機転の利いたことを話せないのが私の欠点であります。以上を講師着任の抱負とさせていただきます。

げんてん会幹事に就任して

昭和 52 年入局 関山達也

平成 11 年 4 月、実家の関山医院を継ぐために第一内科を退職して、もうすぐ 4 年が経ちます。第一内科では 22 年間お世話になりました。昭和 52 年、日本医科大学を卒業し、国家試験に合格するまでは消化器内科へ進もうと思っていましたが、いざ、医者として一人で田舎の医院を継いで行くことを考えると、やはり、命に直結している循環器内科を選択しようと思い第一内科（木村内科）へ入局しました。学生時代はラグビーに夢中になり、かろうじて卒業できたのが本当です。第一内科へ入局した当初は、検査のオーダーの出し方など何もわからず同じ病棟へ回ってきていた後輩の BST に教えてもらっていた次第です。一人前の医者としてやっていけるのも第一内科での厳しいながらも心のこもったご指導の賜物と感謝しております。当時、病棟回診を行っていたのは木村、奥村、早川の 3 先生でした。木村先生は何事についても博識であられ大教授でした。入局 1 年目の私など回診では何を言っても相手にされず話にならなかったのを覚えています。奥村先生は大学 5、6 年の担任をしていただいたおかげか、それとも余りにも私が不出来だったせいが見かねてカルテの書き方や、昼休みのとり方など細かく指導していただいたのを覚えております。早川先生の回診はいつも、あっと驚かされる様な質問を受けアイデアが一杯の回診だったのを覚えております。第一内科で教えていただいた一番大きなことは、一生懸命、患者を診るという事だと思います。開業してからも毎日が勉強です。今年から、新研修医システムが始まり 2 年間は新入医局員がいないという大変な時期ですが高野教授を中心に丸となってますます第一内科を発展させていただきたいと思います。私も、げんてん会の幹事として微力ながら協力させていただきたいと思っています。

波崎済生病院の近況について

波崎済生病院院長 笠井 源吾

社会福祉法人恩賜財団済生会波崎済生病院が第一内科・日本医大の関連病院になりましたのは、昭和 58 年 7 月 1 日で、私が院長に就任した日でもあります。当時、人口 35,000 人の小さな町で、鹿島開発に進出した企業とその従業員や家族のバックアップをするために 300 床の鹿島労災病院が完成。それが主因で経営不振になり、院長以下、医師が不在となった当院に、至急、院長を含めた医局員を出して立直しをして欲しいと、水戸済生会総合病院の丹野院長と鹿島白十字病院の八田院長が、奥村英正主任教授の所に頼みに来たことに始まります。

奥村先生は病院を視察され、建てて 2 年しか経たない綺麗な病院を潰してしまうのは大変な社会的損失であるし、立て直して使えば若い人の勉強の場になると考えられ、医局員の反対を押し切って、院長と医師の派遣を決められたと聞いております。そして私がその大役を仰せつかることになりました。その後、斉藤寛和君が、更に翌年 1 月に田中邦夫君が加わり、また飯田橋の第二外科、リュウマチ科、小児科、耳鼻科からもドクターを出して頂きました。当時の学長の乗木先生、理事長の永井先生も視察にこられてバックアップを約束されました。しかし日本医大のドクター派遣は各教室の教授が個別に決めることで、大学全体として病院をバックアップする訳ではありませんでした。従って、この病院に必要な診療科をそろえるためには、日本医大以外の、あちこちの大学に派遣をお願いして回りました。

以後 20 年にわたる紆余曲折を経ながら健全経営に努め、累積赤字を解消することが出来ました。「ローマは 1 日にしてならず」を実感しております。

当院は、昭和 28 年に診療所としてスタートして以来 50 年を迎え、建物の老朽化や狭隘化が進み、また近年のめまぐるしく変わる医療制度の施設基準を満たすために、平成 14 年から当院、茨城県済生会支部、済生会本部で、その対応について検討してまいりましたが、鹿島市郡医師会との調整も済み、移転新築の方針が決定されました。平成 15 年 1 月 4 日に会長の橋本昌茨城県知事の歎入れで地鎮祭を行い、(仮称)鹿行済生会病院新築工事として着工いたしました。

当院の移転先である神栖町は茨城県の東南部で、鹿島臨海工業地帯（住友金属工業・三菱化学・鹿島石油・東京電力・大日本インキ・トクヤマなどの日本を代表する 150 社を越す企業が操業中）の中心部に位置しております。東は鹿島灘に面し、西は利根川を挟んで千葉県側と対峙しており、近くに鹿島神宮や鹿島アントラーズのホームグラウンドの鹿島スタジアム、アヤメで知られた潮来市があります。

東京からの交通は、東京駅八重洲口から一日 70 往復出ている鹿島神宮行き高速バスで、東関東自動車道を約 1 時間 20 分東進し、成田空港の先、終点の潮来インターチェンジで下りて約 15 km のところです。

新病院は鹿島港の南の小高い丘の上にあり、見晴らしが良く、立地条件としても恵まれた環境にあります。診療圏は今までより大きく広がり、神栖町(人口 5 万 2 千人で、来年 4 月に波崎町と合併し、人口 9 万人の神栖市となります)はもとより、波崎町・鹿嶋市・潮来市など、約 20 万人の幅広い地域の方々に利用して頂くことになります。

新病院の概略は、地下一階、地上四階建てで、病床数は 179 床(一般 140 床、療養病床 39 床)、敷地面積は 2 万平米(約 6,000 坪)延べ床面積は 1 万 1 千 4 百平米で、診療科は内科・外科・整形外科・産婦人科・小児科・眼科・耳鼻科・皮膚科・泌尿器科・内分泌

甲状腺科・放射線科・理学療法科です。24時間体制で救急患者の受け入れを行うほか、週産期医療や小児救急医療の充実を図り、この地域の中核病院の役割を担う事を県や町から期待されております。従って、責任は重大ですが、その分、院長・副院長を出している第一内科や日本医大関連病院としては、飛躍の機会でもあります。

大学には、今年から臨床各科教授と特定関連病院院長で構成される関連病院協議会が発足し、私も参加させて頂いておりますが、ドクターの派遣や特定関連病院の現状についての話し合いの場が設けられ、今後、特に特定関連病院をバックアップする方針が出されましたので、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

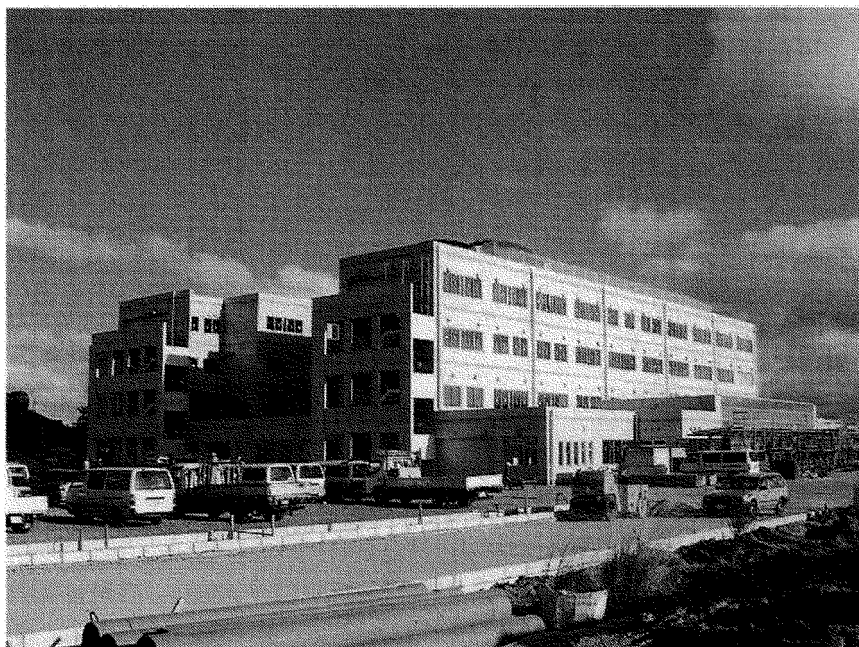
若いドクターがどしどし来られて、都会の医療だけでなく、地方の医療の現状も実践しながら知り、将来の医学・医療のリーダーとしての糧にして頂きたいと思います。

新病院は12月10日現在、約95%の工事が進み、平成17年1月27日に完成し、茨城県済生会に引渡しが行われ、2月に引越し、3月1日より開院し、現在地には診療所と在宅部門（訪問看護センターとヘルパーステーション）を残すことになっております。そして平成17年5月14日(土)に総裁寛仁親王殿下をお迎えして、竣工式を行います。

最後に、済生会という組織について簡単にご紹介いたします。

済生会は、明治44年2月11日、明治天皇が時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施薬救療し、済生の道を弘めるように」との済生勅語に添えて、お手元金150万円を下賜されました。桂総理大臣は、これを受けて恩賜財団済生会を創立しました。平成16年12月現在、本部を東京に置き、名誉総裁高松宮喜久子妃殿下・総裁寛仁親王殿下・会長豊田章一郎・理事長幸田正孝のもとに、全国に病院数79箇所（全国の32の国・公・私立大学が関連病院としております）、診療所・福祉施設・指定介護保険事業所などを含めて300を超える事業所と36,000人の職員を擁し、保健・医療・福祉のトータルケアに、日夜、広く活動しております。

以上のように、波崎済生病院と私の21年間、および近況のご報告をさせて頂きました。



地方都市における循環器救急医療体制の取り組み

静岡医療センター 循環器科医長 横山広行

静岡医療センターの地方都市における循環器救急医療に対する取り組み方をご報告いたします。

急性心筋梗塞に対する再灌流療法の有効性は明確ですが、その効果は梗塞発症から再灌流までの時間が短いほど有効であり、特に梗塞発症後 1 時間以内では再灌流療法による死亡率の軽減率は 30～50%と報告されています。しかし、再灌流療法の施行率は National Registry of Myocardial Infarction 2 において僅か 35.4%に過ぎず、非施行理由として時間的要因が強く関与しています。また急性心筋梗塞患者を循環器専門病院へ早期収容することにより、25～40%といわれる病院収容前心臓死も軽減出来る可能性があります。そこで静岡医療センターでは心筋梗塞患者の専門病院への早期収容を目指して、地域全体で循環器救急輪番体制を設立したので、その効果を検討してみました。

2001 年 4 月、静岡県東部地域（3 市 2 町、医療人口は約 50 万人）において、地方行政と地域医師会の支援のもと循環器専門病院と消防本部による循環器救急輪番制を設立しました。緊急冠動脈造影の制度が確立した全医療機関（5 病院）が参加し、平日夜間と土日祭日に当番病院を選定し消防本部、一次救急医療センター、一般開業医家に通達します。救急隊による直接搬送例と医療機関からの紹介による二次救急患者を循環器救急輪番制の対象とし一般市民に当番病院は公開していません。輪番制当番病院は最低 1 床の病床を確保し、二次待機病院は特に定めませんが、搬送を円滑に行うために収容医療機関と消防本部とで運営委員会（静岡医療センターに本部設置）を毎月開催しています。患者登録票は救急車に搭載し、救急隊により搬送された全ての循環器救急症例を輪番制運営本部で登録しています。

心筋梗塞発症 2 日以内に救急隊により搬送された症例を対象とし、循環器救急輪番制開始直後の 2001 年 4 月から 2002 年 3 月、2 年目の 2002 年 4 月から 2003 年 3 月、地域メディカルコントロール体制（MC）開始後の 2003 年 4 月から 2004 年 3 月の 3 年目で比較検討しました。3 年間の救急隊発動総件数は 41329 件、うち循環器疾患は 2564 件（6.2%）でした。調査票は 2105 件で提出され、疾患の主要な内訳は急性心筋梗塞 15.9%、心不全 16.8%、不整脈 15.3%、狭心症 10.4%でした。心肺停止例は 1 年目 5.6%、2 年目 8.2%、3 年目 10.6%に増加し、特に救急救命士による特定行為施行率は 2.2%、2.1%、4.8%と MC 開始後著明に増加しました。これは救急隊と搬送病院との関係がより密接になったことの現われと思います。急性心筋梗塞の発症から病院到着までの時間は図 1 に提示した通り、発症から 2 時間以内に病院に到着する割合は 51.3%から 59.5%、66.7%と著明に増加しました。再灌流療法施行率は 73.7%、81.1%、80.0%ですが、図 2 に提示した通り、再灌流療法施行例の心筋梗塞発症から病院到着までの平均時間は 89 分、72.5 分、64 分と確実に短縮されました。

病院収容までの搬送経緯を検討すると、輪番制開始前には 39%の症例が地域一次救急医療センターで急性心筋梗塞と診断され転院搬送されたが、輪番開始後は毎年 10%前後に低下し、救急隊直接搬送例は 10%から 39%に増加しました。

図 1 発症から病院収容の時間

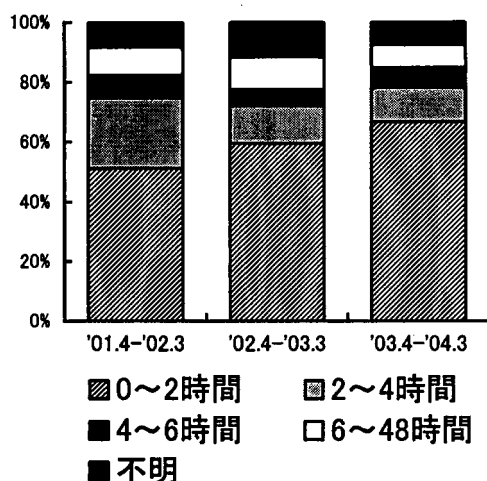
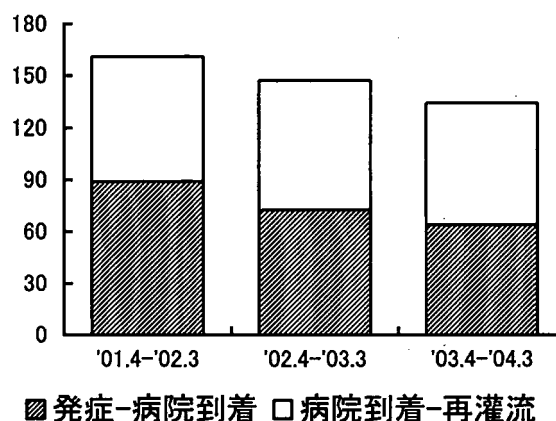


図 2 病院収容と再灌流時間（分）



欧米では心筋梗塞の急性期治療を救急医もしくは内科医が行う場合と比較し、循環器専門医が携わる場合に院内死亡率は 17%軽減すると報告されており、循環器専門病院へ収容という観点からも効果が認められました。

循環器救急輪番制を開始することにより、救急隊による直接搬送が有意に増加し、また最も治療効果の大きい心筋梗塞発症から病院収容が 2 時間以内の症例が多くなり、循環器救急輪番制は一定の効果が得られていることが示唆されました。

2000 年 1 月より第一内科から静岡医療センターへ 2 名で派遣が開始され、現在 7 名になりました。静岡医療センターでは循環器救急医療体制を充実させるために、循環器輪番制運営本部として救急隊と顔の見える関係を築くと共に、沼津医師会循環器医会を設立し代表世話人を務め医師会との病診連携を図り、救急救命士の事後検証の一環として静岡県東部救急医学会と名づけた研究会を設立し事務局を務め、研究会をすでに 12 回開催しました。教育としては看護師と救急隊を対象とした公開循環器救急研修会を毎年 10 回シリーズで開催、また地域医療従事者 70 名強を対象とした日本救急医学会認定心肺蘇生法講習会を 2004 年 7 月と 2005 年 2 月に開催、AHA 認定 BLS プロバイダーコースを 2004 年 9 月、11 月と 2005 年 2 月に開催予定しています。これら循環器救急医療体制への取り組みにより、年間の急性心筋梗塞患者は 40 例、47 例、63 例、82 例、100 例と増加しています。

最後に静岡医療センターの循環器科としての特性をご理解頂き、多くの素晴らしい人材を派遣して下さる第一内科医局に深謝いたします。また本研究により日本医科大学同窓会医学研究助成金を賜りました、御推挙いただきました同窓会関係の先生方に心よりお礼申し上げます。

「付属病院における血管再生医療が高度先進医療に承認」

宮本 正章

日本医科大学付属病院第1内科で施行中の再生医学分野わが国初の臨床応用である「自己骨髄細胞による血管新生療法」が、平成16年7月28日付で厚生労働省より全国4施設目として、高度先進医療に承認されました。今回の承認は、10数施設が申請しましたが、当院と岡山大学付属病院のみの承認で、前回の3大学と併せて計5大学となりました(表参照)。対象疾患は、閉塞性動脈硬化症(ASO)とパーリジャー病(公費負担難病指定疾患)です。当院では、すでに2年前より現在の医療では治療法のない他療法無効の重症慢性動脈閉塞性疾患であるASO、パーリジャー病、糖尿病性潰瘍、壊疽の計25例に当治療法を施行し(施行例として現在全国最多)、良好な結果を収めております。

高度先進医療承認

平成16年12月1日 現在

パーリジャー病, ASOに対する 骨髄細胞移植による血管新生療法	久留米大学病院 自治医科大学付属病院 関西医科大学付属病院 日本医科大学付属病院 岡山大学医学部付属病院
-------------------------------------	--

(医療機関名は承認年月日順)

高度先進医療は現在77種類
(日本医科大学付属病院は5種類承認)

他施設にない当院独自の方策として第2外科落雅美教授、麻酔科坂本篤裕助教授、放射線科汲田伸一郎助教授、第3内科田近賢二講師、形成外科水野博司講師、第1内科安武正弘講師の第一線の専門家を委員として「血管再生医療適応評価委員会」を組織し、1例毎の適応評価と共に、診療科を超えた全人的診療を実践しています。さらに第1内科主任高野照夫教授(付属病院院長)が、これらの治療法を模索する厚生労働省「難治性血管炎に対する調査・研究」班委員としても活躍しておられます。この治療過程で、形成外科水野講師との共同研究で「自己骨髄幹細胞浸透人工真皮による新しい創傷治癒法」を開発し

(Complication 8,31-37 2003),すでに下肢の壊疽により他大学病院より切断を宣告された最重症例に対してもその救肢に成功しています。さらに放射線科汲田助教授と共にシンチグラフィを利用した血管再生療法による新しい血流評価法(Cell Transplant 13,429-437, 2004)を提唱しております。これらの業績により平成14年度東京都医師会グループ研究賞(代表者),第2回日本再生医療学会総会優秀演題賞,第25回日本炎症・再生学会総会優秀演題賞を受賞致しました。

これらの実績を基盤として現在,心臓領域にも適応を拡大し,付属病院倫理委員会承認のもと「重症難治性慢性冠動脈疾患」に対しても自己骨髄細胞による心臓血管新生療法を現在まで8例実施し(全国最多症例),良好な結果を得ています。これは,重症狭心症,虚血性心筋症等により心不全,胸痛発作を頻発する症例に対して第2外科落教授と共に冠動脈バイパス術(CABG)と併用或いは単独で,骨髄細胞を心筋内注射して心臓の微小血管を新生する新治療法です。これも論文作成中であり,高度先進医療に申請予定としています。

さらに進化させた血管再生療法として京都大学再生医科学研究所田畑泰彦教授との共同研究で,細胞を使用せずに徐放化蛋白による(ゆっくり2週間かけて吸収される)全く新しい治療法である「徐放化増殖因子ハイドロゲルによる血管再生治療」を付属病院倫理委員会に承認頂き,実施準備中であります。これは塩基性線維芽細胞増殖因子(b-FGF)をハイドロゲルと混ぜ,患肢に注射するのみで施行可能な世界初の画期的血管再生治療法であります。すでに当大学と同法人である日本獣医畜産大学獣医外科多川政弘教授との共同研究として付属動物医療センターで獣医学領域において臨床応用致し,難治性のネコ,イヌの潰瘍が治癒し,全国の獣医師より極めて注目を集めております。

そして,付属病院倫理委員会の御承認を頂き,わが国2施設目となる「医療用無菌ウジによる難治性潰瘍・壊疽治療」を平成16年12月8日より開始しました。これは,糖尿病患者等の虚血肢に生じた,抗生剤耐性菌を有する重症難治性壊疽を医療用ウジによりbiological debridementを行う画期的limb salvage法であります。2004年1月FDAで生体材料として承認され,わが国初の「昆虫医療」の実践であり,将来有望な産学協同研究モデルともなる可能性があります。すでにバイオベンチャー企業との共同研究も開始し,2004年度「ハート昆虫研究奨励基金」ハート大賞優秀賞も受賞致しました。

本再生医療は,多くの共同研究者の先生方,看護師さん,医事課,庶務課をはじめとする事務職員の方々の御協力なければ成立しない医療であり,今後はさらに基礎研究を固めながら,確実に日本医科大学において再生医療を発展させていきたいと思っております。ありがとうございました。

「心臓病患者家族のための AED 心肺蘇生法全体講習会」を日本武道館にて開催

高山 守正

平成 16 年 10 月 20 日（水）午後に東京・九段の日本武道館にて『心臓病患者家族のための AED 心肺蘇生法全体講習会』（主催：東京都 CCU 連絡協議会、東京都医師会）が「愛する家族を救うのはあなたです！」をキャッチフレーズに開催されたのを新聞や TV などメディアを通してご覧になった方が多いかと思います。この講習会の目的は、心臓突然死のハイリスク群である心臓病患者の家族に一次心肺蘇生法と AED の使い方について学んでもらうことです。AED とは自動体外式除細動器であり、電極を貼るとコンピューター内臓の除細動器が音声で指示を出し、それに従ってボタンを押せば誰でも心室細動を直せます。

心臓病患者の多くは、突然死のリスクが高く、しかも心室細動を代表とする突然の心肺停止の 8 割近くは自宅で発生しています。心臓突然死の原因の大半を占める急性心筋梗塞をはじめ、救急心血管疾患の病院内死亡率は近年目覚しく改善しました。しかし、病院収容前での死亡についてはわが国での対策の遅れははなはだしく、欧米での 20%を超える社会復帰率に比べ、日本では 3%程度というのが現状です。心臓突然死への対策はバイスタンダーによる心肺蘇生（CPR）と迅速な除細動がキーです。そこで、救命率の向上のためには市民参加による心肺蘇生法・AED の使い方を市民が特に心臓病患者家族がマスターすることが重要であると考え、今回の講習会の開催となりました。そして、これからの東京都 CCU 連絡協議会（ネットワーク）の活動の一部とすべく、全体講習会として加盟 54 施設に通う多数の患者家族に参加していただきました。

当日は台風 23 号の接近で強い風雨でしたが、644 人の受講者と 250 人以上のインストラクターが集まり、広さを誇る日本武道館のアリーナが狭く感じられるほどで、熱気に満ちていました。

講習会は、唐澤祥人東京都医師会長による開会の挨拶で始まり、続いて高野照夫東京都 CCU 連絡協議会会長による基調講演「愛する家族を救うのはあなただ！！」が行われました。講演の要旨は、「今までは家庭で心肺停止が起こったら、救急車を呼んで待つしかありませんでした。しかし、今年の 7 月から一般市民の AED 使用が許可になり、救急車到着までの一番大事な数分間に、家族が救命のための積極的処置を行うことができるようになりました。倒れて数分以内の除細動こそが障害なく回復できるキーポイントです。愛する家族の命を救う可能性が大きく拡大するのです」と、患者の身近な人による心肺蘇生や AED による除細動の重要性が力説しました。さらに、患者家族にはホーム AED の所有を勧め、販売業者のブースを用意しました。

その後の実習は、各施設ごとのブースに分かれて、一次救命処置と AED 使用による除細動を受講者一人一人がインストラクターからマンツーマンで指導を受けました。受講者は突然死がより身近にある人ばかりであり、指導者の説明に真剣に聞き入り、実際の、具体

的な質問の連続で、AED についての関心の高さを思い知らされました。AED の実習では、メーカーの違いによる取り扱いの違いにとまどわないように国内販売全社の AED 計 270 台を集め、計 170 体の蘇生教習用人形を用いて順番に体験しました。さらに、会場に設けられた AED 製品展示ブースとインフォメーションルームにて、休憩時間には実物を手にとったり、担当者に説明を受ける受講者の姿が数多く見られました。

このような先進的な目的でこれほど大規模に心臓突然死の危険群に的を絞った講習は全国でも初めてであり、各方面から注目を集めました。心臓病患者家族への AED 心肺蘇生講習会は、東京都 CCU ネットワーク加盟医療機関にて今後定期的に実施される予定です。さらに、東京都 CCU ネットワーク加盟医療機関を通して、受講されたご家族である患者の今後の経過を定期的に調査する予定にしています。

日本医科大学付属病院では、この 6 月より外来及び主要病棟に AED を 15 台備え付けました。オレンジ色のマークがかなり目立つように設置されており、看護師から守衛、清掃会社員までも講習会で実習をつみ、非常事態にはすぐに使用できるような態勢を整えています。

日本医科大学付属病院では、2003 年 8 月より定期的に心肺蘇生法講習会が行われています。その普及活動は、当科 高山を代表に、第一内科、高度救命センター、麻酔科、集中治療室、看護部などの有志が科の枠を超えて組織した心肺蘇生フォーラムにより運営されています。看護師を主な受講対象とした AED/BLS(Basic Life Support)コース及び医師を主な受講対象とした ICLS(Immediate Cardiovascular Life Support)コースを 2 ヶ月毎に開催しており、さらに、今後は患者家族への AED 心肺蘇生教育が予定されています。心肺蘇生フォーラムの定期コースは、第一内科同窓会の先生方の受講も積極的に受け入れており、コース受講により日本医師会、日本救急医学会の認定も受けられます。これを機会に是非皆様も受講することをお勧めいたします。



アメリカ留学を終えて

奥村 敏

1997年8月末で鹿島白十字病院の勤務を終え、循環器専門医試験を受験した翌日の9月8日、私は意気揚々と、これから待ち構えている幾多のトラブルを知るよしもなくアメリカ留学へと旅たちました。留学先はペンシルバニア州西部のピッツバーグにある Allegheny General Hospital の Cardiovascular and Pulmonary Research Institute でした。第一内科からは子島先生以来これまで数多くの先生が留学している、Stephen F Vatner 先生が Harvard 大学から Director として赴任し、自身の専門である生理学以外に長年 Vatner 先生が Collaborate してきた分子生物学、生化学、電気生理学、病理学の専門家が集まった循環器研究の総合研究所でした。私は多少分子生物学の知識があった関係で、この研究所で分子生物学、生化学を担当されていた石川義弘先生（現横浜市立大学 循環制御医学講座教授）のラボで働くことになりました。石川先生のラボでは、1992年 Columbia 大学で石川先生が心臓に特異的に発現している5型アデニル酸シクラーゼを犬の cDNA library からクローニングして以来一貫して5型アデニル酸シクラーゼを主たる研究テーマにしてこれまで数多くの研究成果を著名な医学雑誌に発表されてきています。Vatner 先生とは、石川先生がポストドク時代に作られた Gα過剰発現マウスの解析等で長年 Collaborate されており、Vatner 先生の Pittsburgh 移転に伴い石川先生も Harvard 大学から Allegheny 大学へ移転されました。

私は留学後ははじめの数ヶ月は、いまだ未完成であった5型アデニル酸シクラーゼのN端側の cDNA のクローニング、前任の佐藤君の論文の追加実験で心不全の心筋組織の PDE(phosphodiesterase)の活性を測定したりしていました。留学後8ヶ月程したころ石川先生から5型アデニル酸シクラーゼのノックアウトマウスの作製ならびにその表現型の解析というテーマをいただきました。数年前日本の某医科大学の留学生がこのプロジェクトに取り組み、結局ノックアウトマウスの作製に失敗し2年間の留学を棒に振ったという話を聞き、このころすっかりホームシックにかかっていた私は簡単なプロジェクトで早めに仕事をまとめて首尾よく日本へ帰国したいという気持ちがつよくこのプロジェクトを引き受けるかどうか随分悩みましたが、せっかくアメリカに留学したからには日本ではなかなかできない仕事をしようと自分に言い聞かせて引き受けることにしました。アメリカで研究する上で一番大切なグラント（研究資金）は十分あったのですが、このプロジェクトを進めていく上で私を取り巻く環境は必ずしも恵まれているものではありませんでした。まず第一にノックアウトマウスの作製に経験のある研究者が一人も同じ Institute にはおらず、実際の実験を進めていく上でアドバイスや助言を経験者から期待することはできませんでした。また石川先生自身も私が留学を始めた4ヶ月後には日本に帰国、同じラボで働いていた日本人とドイツ人の二人の留学生もその数ヶ月後には全員帰国してしまいました。石川先生には帰国後も月に3日程ではありましたが忙しい中アメリカへ来ていただき、週に1回ビデオカンファレンスで私の実験のサポートをして頂きました。しかしながらいろいろ過去の文献を調べたりして試行錯誤で実験を始めたものの、初めの1年半ほど実験は全くうまくいきませんでした。体重はストレスで10キロも痩せてしまい、実験途中でこっそり帰宅して何十年ぶりで涙を流したこともありました。悪いときには悪いことが重なるもので、私が留学した直後こそは使い放題であった研究費も、留学後半年ほどしたところから急に研究費が切り詰められ、さらにその1年後なんと Allegheny General Hospital が倒産してしまいました。支払い能力がない病院ということでブラックリストに載ってしまい、病院の Purchasing office を通して、試薬、器材等をオーダーしても物品が配達されなくなっていました。結局自分で直接 Company に電話をして、自分の Credit Card を使ってオ

ーダーをしなくては物品が購入できなくなっていました（最終的には全額払い戻してもらいました）。Vatner 先生は次の移転先を、ペンシルバニア州中部の田舎町 Danville にある当時 PennState 大学の付属病院であった Geisinger Hospital 付属の Weis Research Center という小さな研究所に決め、我々は 1999 年 7 月に移転いたしました。しかし移転後数ヶ月で Geisinger Hospital が Pennstate 大学から独立することが決定し、PennState 大学の職員であった我々の立場は非常に不安定なものとなってしまいました。PennState 大学も Vatner 先生にはいろいろ他の移転先を提示したものの、条件面で折り合いがつかず次第に大学との関係も悪化、しばらく Weis Research Center に居座っていたのですが、ついに PennState 大学から Vatner 先生の一族郎党は全員解雇され 2000 年 6 月いっぱい Weis Research Center をいかなる理由があろうとも出て行くように通達されてしまいました。最後は裁判ざたにまでなりましたが結局我々は Weis Research Center を追い出され、次の移転先が決まるまで自宅待機という状況に置かれてしまいました。この年の 4 月旭川医科大学から留学生が加わり一人ぼっちの実験生活が解消され、このころようやくすこしずつではありましたが実験もうまくいき始めたころであっただけに時間的ロスは大変残念ではありましたが、いま思えばこの年の 2 月に生まれた長男を含めて家族とゆっくり過ごすことができた有意義な数ヶ月であったように思えます。8 月末に移転先が New Jersey Medical School に決まりました。われわれが所属したこの医科大学の Department of Medicine は当時リサーチ部門がかなり立ち遅れておりその巻き返しの期待を込められて Vatner 先生が招聘されたようでした。我々が移転したとき実験室は何年間も使われておらず、物置小屋のようになっていました。急に移転が決まったため、実験室の改装が終わるまで、他の Department の空いている実験室を間借りしての実験がはじまりました。我々は Pathology の使われていなかった実験室を借りて実験を始めましたが、現実には居候の状況で必ずしも居心ちはいいものではありませんでした。約 1 年程してラボの改装が終わり我々は、Department of Medicine のフロアーに移転することができました。New Jersey へ移転後もこうした度重なるハプニングがありましたが、2001 年 4 月ようやくノックアウトマウスが完成しました。完成したマウスと対面したときの感激はいまでも忘れられません。結局このマウスを使った解析から自律神経とカルシウムイオンによる心機能の調節ならびに心不全をおこす原因として近年注目されている心筋細胞のアポトーシスの発症 5 型アデニル酸シクラーゼが大切な役割を演じていることを *in vivo* で明らかにすることができました。AHA に始めて発表できたのは 2002 年の留学生生活最後の年、論文が受理されたのは 2003 年 8 月日本に帰国してからという自分でも飽きれるくらいの回り道の留学生活でしたが、5 型アデニル酸シクラーゼノックアウトマウスを完成させ、ごくごく僅かではありましたが循環器病学の領域に新しい知見を吹き込むことができたことは、これから生きていくうえで多少なりとも自信と誇りを持つことができるようになった気がします。

以上のように仕事のほうはトラブル続きではありましたが、私生活のほうは大変充実していました。Pittsburgh、Danville、New Jersey のいずれの時代も私たちと家族ぐるみの付き合いをしてくれた友人ができ、クリスマスやサンクスギビングのパーティーやキャンプに誘ってくれアメリカ文化に触れることができました。また外国生活に不慣れな我々に貴重なアドバイスや手助けをしていただきました。

最後に長期間の留学生生活を許可していただき、留学中たびたび励ましのお手紙を送っていただいた高野教授、アメリカへの留学の機会を与えていただいた故遠藤孝雄先生に感謝いたします。

帰国報告：マサチューセッツ総合病院、

ハーバードメディカルスクールに留学して

高野 雅充

私は2001年7月から2002年9月まで、アメリカ合衆国のボストンにあるマサチューセッツ総合病院、ハーバードメディカルスクールに留学する機会を得ました。帰国して1年以上たったためか、今では遠い過去のように思い出されます。短期間旅行で行くのと異なり、海外での生活は大変なことがいろいろありました。長男のアトピー性皮膚炎と食物アレルギーがひどく、小児科、皮膚科、アレルギー外来にまめに足を運ぶのを余儀なくされました。振り返ると現地で医療システムを患者の家族としてかいま見ることができ、また普段あたりまえのように考えていた家族の健康の有り難さを実感する良い機会でした。さて、留学の目的は、ボスであるIK-Jang先生のもとで、新しい冠動脈の画像診断法である光干渉断層法(Optical Coherence Tomography: OCT)について学ぶことでした。OCTは1300nmの単色のレーザー光を組織に当てた際の干渉波を光干渉計により画像化するシステムです。このシステムの最大の特徴は、解像度が約 $10\mu\text{m}$ であり、現在臨床で普及している血管内超音波の解像度 $100\sim 150\mu\text{m}$ に比べて極めて高いことです。留学先では既に臨床応用が始まっており、カテラボで冠動脈インターベンションの際にOCT画像を記録、編集するのが主な仕事内容でした。OCTにより生体での正確な病理組織診断が可能で、冠動脈疾患の更なる病態把握、治療への応用に利用されることが期待されています。日本でもこのOCTシステムの臨床治験がこの12月から始まろうとしています。今後もOCTを用いて研究を行っていきたいと考えています。

留学を終えて、アメリカ人の発想の自由さ、研究に対するシビアな面、常に新しいものを創り出そうとするフロンティア精神のようなものを強く感じました。また日本の良さも再認識させられました。最後になりましたが、テロ後という微妙な時期に留学の機会を与えて下さった第一内科学教室主任教授 高野照夫先生、北総病院内科部長 水野杏一先生、第一内科学教室の諸先生に心から感謝いたします。

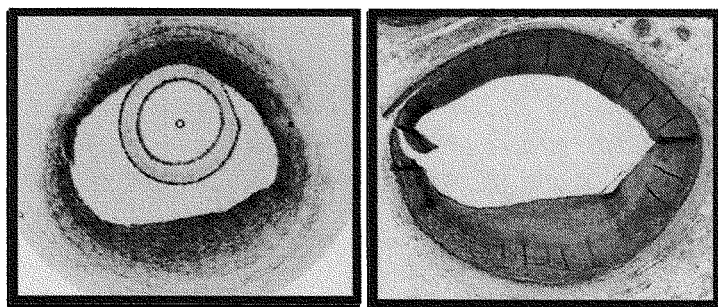


写真1：線維性プラークのOCT画像（左）と病理組織標本（右）。



写真2：ダンディーでジェントルなボスのIK-Jang先生とカテラボで。

げんてん会報告

1. 故木村栄一教授 23 回忌のご報告

平成 16 年 2 月 7 日（土）午後 6 時より東京會館でしめやかに厳かに、しかし和やかに 23 回忌を執り行わせていただきました。木村 公様、ご親族の方々そして第一内科の現役医局員はもちろん遠方からも多くの先生方がかけつけてくださり、総勢 126 人ものご出席をいただきました。

故木村教授への献杯の後、多くの先生方よりスピーチを頂戴しました。木村先生のご幼少の頃の話、学生時代の逸話、教授回診の様子、学位論文の厳しい指導の合間にお見せになる優しいお心遣い、などなど様々なお話が披露されました。また、“第一内科は秀才の集まりだが、僕は天才だよ”と木村先生がおっしゃったエピソードを懐かしそうに早川先生が話してくださり、また、女性には特にお優しく、東京會館をこよなく最上に乗っていた話などを奥村先生が披露してくださり、時のたつのも忘れるほどでした。そしてとどこおりなく 23 回忌を終えさせていただきました。ありがとうございました。

2. げんてん会幹事会報告

平成 16 年 12 月 4 日（土）、第一内科忘年会に先立ち、げんてん会幹事会が東京ドーム虹の間で開かれました。会長山崎登志雄先生、清野友三郎先生、大林完二先生、笠井源吾先生、関山達也先生そして高野教授御出席のもと、以下のことが決まりましたので御報告申し上げます。

1) 平成 17 年度げんてん会総会日程

平成 17 年 5 月予定（詳細は後日、御報告いたします。）

2) 雑誌げんてん投稿のお願い

現役だけでなく OB の先生方からも近況報告など、どんなことでも結構です、自由に幅広く、原稿を募集させていただくことになりました。

毎年 11 月末までにお寄せいただいた原稿を年末の雑誌げんてんに掲載いたしますので、どしどし医局あて御応募ください、お待ち申し上げます。

そしてぜひ、この雑誌を皆様の情報交換の場としてもご活用ください。

宛先：〒113-8603

東京都文京区千駄木 1-1-5

日本医科大学第一内科医局

3) げんてん会会費納入状況

お陰様で平成 16 年も 98 人の先生方から会費を頂戴でき、財務状況は良好です。引き続き年会費 5000 円をお願いいたします。

2003 年 4 月

異動 研修医 大学院生

付属病院

外来(5)

八島、塚田、福本、田中古、清水一、
(安武ひ、柏木、馬場、福岡祐、高木郁、西垣、横島、岡松、
小野い、木村、太良、**徳泉**、)

A6(12)

中込、小原俊、清水治、山根、土田、堀江、加藤良、谷口、
館岡、**岡崎**、山下、加藤活、

C6(12)

古明地、浅井、**宮内**、大野忠、馬淵、小川晃、川嶋、愛須、
牛島、東、**神谷**、**春日**、

E5(12)

福岡、青木、高野仁、長戸、岩崎、**阿部**、淀川、平澤、美浦、
細川、**宮地**、**青木亜**、

CCU(6)

小野、山本、藤田進、坪、高木啓、森田、

生理機能

本間、

研修

没井(**丸子消化器病センター**)、**小鹿野**(**麻酔**)、

丸子(18)

寺田、岩原、内田、星野、鯨澤、西垣朝、高橋直、山口、
網谷、竹永、伊佐治、酒井行、**吉川真**、**本郷**、**岩本**、
石渡、**板倉**、**大野大**、

健康管理科

山中、

北総内科(11)

佐野、野村、酒井俊、高木元、大場、清宮、稲見、
田近、小川友、**小林宣**、**菅田**、

CCU(9)

今泉、横山真、吉田博、三浦、**品田**、徳山、**三松**、**稲見**、
佐々木、

永山(15)

田寺、小谷、宮本、緒方、松本、佐藤越、笠神、
丸山、大塚、石井、亀山、**加藤浩**、**伊藤**、**岡田**、**藤本**、

北村山

金村、佐伯、福島、吉川、上野、

鹿島

関戸、石川正、村上、

駒込

説田、荒尾

波崎

笠井、長野、**掃部**、石川昌、

登戸

洪、**大村**、林、椎葉、**村井**、

大倉山

長江、後藤、川口、

博慈会

小川剛、田中邦、高橋保、鈴木、

東京都リハビリ

石川貴

東京白十字

小川紅、

国立東静

横山広、上村、田邊潤、時田、山本英、金澤、**宗像**、

鶴見歯科

磯田

同愛記念

櫛方、小原啓、原田、

久我山

高山英、

基礎大学院

第2生化：高橋啓、田辺浩、微免：高久

留学生

張、イゴール、ジハード、石橋(北総内科)、尹

留学(5)

奥村、**遠藤&育**、大野則、高野雅、

2004 年 3 月

異動 研修医 大学院生

付属病院

外来(4)

八島、奥村、福本、阿部、
(安武ひ、柏木、馬場、福間祐、高木郁、西垣、横島、清水一、
岡松、小野い、宮内瑞、加藤祐、加藤和、太良、徳泉、)

A6(13)

中込、小原俊、清水治、山根、小川晃、堀江、館岡、上野、
細川、山下、茂井、篠田、宮元、

C6(14)

古明地、浅井、宮内、大野忠、馬淵、川嶋、愛須、平澤、
淀川、春日、木股、鈴木浩、白壁、菊池、

E5(13)

福間、青木、高野仁、田中古、高木元、丸山、岩崎、
土田、加藤良、藤本、稲見徹、村田、山本哲、

CCU(8)

小野、山本剛、藤田進、坪、高木啓、森田、宮地、小杉、
本間、

生理機能

研修

佐々木(CGM)、板倉(丸子放射線)、岡田(永山麻酔)、中村(放射線)、

丸子(21)

寺田、岩原、内田、星野、鯨澤、西垣朝、高橋直、山口、網谷、
竹永、伊佐治、酒井行、吉川真、本郷、岩本、伊藤、大野次、東、
工藤、大塚、花岡、

健康管理科

山中、

北総内科(12)

佐野、野村、酒井俊、川口、大場、清宮、高野雅、稲見、田近、
三船、小鹿野、

CCU(9)

今泉、横山真、品田、徳山、石川昌、椎葉、富田、加藤浩、北村、

永山(14)

田寺、小谷、宮本、緒方、松本、佐藤越、石井、亀山、吉田博、
石川正、加藤浩、岡崎、奥田、青木亜、

北村山

金村、佐伯、吉川、小川紅、牛島、

駒込

説田、荒尾

波崎

笠井、長野、掃部、福島、

登戸

洪、大村、林、時田、鈴木雄、

大倉山

長江、後藤、三浦、

博慈会

小川剛、田中邦、高橋保、神谷、

東京リハビリ

石川貴

国立東静

横山広、田邊潤、山本英、金澤、宗像、村上、村井、

鶴見歯科

磯田

同愛記念

櫛方、小原啓、原田、

久我山

高山英、

八丈島

小林宣、

基礎大学院

第2生化：田辺浩、

留学生

張、イゴール、ジハード、

留学(8)

塚田、遠藤&育、上村、大野則、高橋啓、高久、
谷口(土浦協同病院で6月まで研修)、

CC・CPC

CCとCPCは、下記の時間に行われます。是非ご参加ください。

CC: 毎週火曜日午後5時30分～

場所: 第一講堂

CPC: 金曜日午後12時30分～(不定期)

場所: 病理学資料室

CC

年 月 日	症 例	病歴番号	担 当 医	司 会	診 断 名
平成15年4月22日	56歳、女性	294723	加藤活人	小原(俊)	Systemic sclerosis with peripheral ulcers
	71歳、男性	299393	小鹿野	小原(俊)	DM(type 2) with gangrene
6月10日	58歳、男性	305929	春日	古明地	Leriche syndrome
6月17日	68歳、男性	306085	青木(亜)	岩崎	Familiar AV block
9月16日	70歳、男性	305571	東	古明地	Portopulmonary hypertension
10月14日	33歳、男性	311989	菊地(有)、村田	青木聡	Mixed connective tissue disease
10月21日	52歳、女性	308773	小杉	小原(俊)	Cardiac tamponade associated SLE
11月18日	87歳、女性	313486	北村	浅井	体腔原発性リンパ腫(PEL)
12月2日	75歳、男性	314794	渋谷	小原(俊)	Parapneumonia pleuritis
12月9日	61歳、女性	310696	板倉	田中(古)	腸管ペーチェット病
平成16年1月13日	77歳、女性	315820	渋谷	清水(治)	Gastrointestinal stromal tumor(GIST)
1月27日	30歳、女性	315192	篠田	山根	特発性慢性膵炎
2月10日	59歳、男性	313984	佐々木、白壁	浅井	高ACTH血症
2月24日	77歳、女性	318319	村田	田中(古)	Liddle症候群

CPC

年 月 日	症 例	病歴番号	担 当 医	司 会	診 断 名、演 題 名
平成15年4月14日	57歳、男性	4科合同	山本(剛)	福岡(長)	慢性腎不全患者に発症した急性心筋梗塞
6月20日	66歳、男性	297199	稲見	簡易型CPC	HCC, LC with bone metastasis
6月23日	74歳、男性	4科合同	第4内科		心筋虚血、脾腫、汎血球減少を呈し呼吸不全で死亡した不明熱の一例
7月4日	72歳、男性	297248	宗像	簡易型CPC	Pneumonia, CRF, Old MI
7月11日	66歳、男性	296088	小原(俊)	簡易型CPC	VT, VF, CHF, CRF
10月6日	76歳、女性	4科合同	第3内科		脳梗塞を契機に診断された感染性心内膜炎の一例
10月10日	50歳、男性	298711	愛須	簡易型CPC	Alcoholic LC, Esophageal varices
11月7日	65歳、男性	299995	小鹿野	簡易型CPC	Amyloidosis
平成16年2月2日	74歳、男性	4科合同	第2内科		胃癌術後に嚥下障害、顔面・手指の紅斑を呈した一例

*内科4科合同CPCが1, 4, 7, 10月の年4回開催される予定です。

病理医と各科専門医を中心に討論が行われます。

一部のCPCは雑誌「内科」に掲載されます。

学位取得者

氏 名	取得年月日 (学位記番号)	論 文 名	雑誌名、巻、 頁、発行年
亀山 幹彦	平成15年 4月14日 (乙第1711号)	Possible contribution of the sarcoplasmic reticulum Ca ²⁺ pump function to electrical and mechanical	J Electrocardiol 36(2):125-135,
小野寺 威夫	平成15年 5月16日 (乙第1713号)	発作性上室性頻拍におけるST低下の臨床的特徴とその発生機序	心電図 23(3):262-270,
清水 秀治	平成15年11月14日 (乙第1719号)	Hepatic chymase level in chronic hepatitis: co-localization of chymase with fibrosis	Hepatol Res 27(1):62-66, 2003
磯田 麻里	平成15年11月14日 (乙第1720号)	冠動脈疾患患者におけるレプチンおよびインスリン抵抗性の役割: グルコーススクランプ法を用いた検討	J Cardiol 40(2):51-58, 2002
張 雪君	平成15年12月12日 (乙第1725号)	Intrapulmonary vascular dilatation and nitric oxide in hypoxemic rats with chronic bile duct ligation	J Hepatol 39(5): 724-730,
馬淵 浩輔	平成16年 1月16日 (乙第1727号)	Detection of myocardial ischemia by analysis of the shape of exercise-induced ST elevation in infarct-	J Cardiol 43(1):1-9, 2004
宮内 瑞穂	平成16年 3月 5日 (甲第1111号)	Parasympathetic blockade promotes recovery from atrial electrical remodeling induced by short-term rapid atrial pacing	Pacing Clin Electrophysiol 27(1):33-37, 2004
Jihad Zreikat	平成16年 3月 5日 (甲第1119号)	Chewed aspirin is more effective than combined oral antiplatelets administration on acute inhibition of platelet aggregation in normal subjects	Jpn J Appl Physiol 34(2):101-108, 2004
岡松 健太郎	平成16年 3月 5日 (乙第1738号)	Elevated troponin T levels and lesion characteristics in non-ST elevation acute coronary syndrome	Circulation 109(4): 465-470, 2003

著 書

著者、所属	論文・章名	図書名	出版社	年	開始頁	終了頁
【分担】						
岩崎雄樹	心房細動の分子生物学	心房細動（山下武志）	メジカルビュー社		52	61
小林義典	心房細動のレートコントロール	EBM循環器疾患の治療2004-2005（三田村秀雄）	中外医学社	2003	466	475
加藤祐子，清野精彦	生化学的指標により予後を推定できるか？	EBM循環器疾患の治療2004-2005（三田村秀雄）	中外医学社	2003	236	244
田中啓治	補助循環はどのタイミングで開始するのか：内科の立場から	EBM循環器疾患の治療2004-2005（三田村秀雄）	中外医学社	2003	428	435
清野精彦，加藤祐子，小川晃生，山下照代	神経体液因子測定は心不全診療に必要なか？	EBM循環器疾患の治療2004-2005（三田村秀雄）	中外医学社	2003	250	258
小川晃生，山下照代，清野精彦	心不全	内科学レビュー（酒井紀、早川弘一、西崎 統、小林祥泰、福井次矢）	総合医学社	2003	46	51
岩崎雄樹，山下武志1）{1}心臓血管研究所第三研究部}	甲状腺機能亢進症の不整脈	抗不整脈薬のすべて（小川聡、大江 透、井上 博）	先端医学社	2003	262	266
田中啓治1）{1}集中治療室}	心筋梗塞の初期症状	急性心筋梗塞を見逃さないために（島崎修次、高野照夫、田中啓治）	杏林大学医学部救急医学教室	2003	3	6
清野精彦	急性心筋梗塞を見逃さないために：血液検査による心筋梗塞の迅速診断	急性心筋梗塞を見逃さないために（島崎修次、高野照夫、田中啓治）	杏林大学医学部救急医学教室	2003	15	20
佐藤直樹1）{1}集中治療室}	重傷度や合併症のチェック	急性心筋梗塞を見逃さないために（島崎修次、高野照夫、田中啓治）	杏林大学医学部救急医学教室	2003	32	40
高山守正	なぜ緊急冠動脈造影が必要か	急性心筋梗塞を見逃さないために（島崎修次、高野照夫、田中啓治）	杏林大学医学部救急医学教室	2003	53	57
安武正弘	冠動脈集中治療室（CCU）の機能	急性心筋梗塞を見逃さないために（島崎修次、高野照夫、田中啓治）	杏林大学医学部救急医学教室	2003	62	64
高野照夫，高山守正	東京都CCUネットワークの機能と活動状況	急性心筋梗塞を見逃さないために（島崎修次、高野照夫、田中啓治）	杏林大学医学部救急医学教室	2003	78	86
岸田浩	虚血性心疾患治療薬の臨床薬理	臨床薬理学（日本臨床薬理学会）	医学書院	2003	360	369
雪吹周生，岸田浩	昇圧薬	治療薬ガイド2003～2004（和田攻、大久保昭行、矢崎義雄、大内恵義）	文光堂	2003	275	281
加藤貴雄，堀江格	右脚ブロックと左脚ブロックでは臨床症状や予後に差がありますか？また2～3枝ブロックの典型的な心電図所見と、その意味を教えてください	不整脈 診療ガイダンス（相沢義房）	メジカルビュー社	2003	57	59
林明聡1），佐藤直樹1），高野照夫{1}集中治療室}	急性心不全の薬物療法	心不全治療への挑戦（堀正二）	メジカルビュー社	2003	98	107
岸田浩	薬はどのように管理すれば飲み忘れませんか	虚血性心疾患診療ガイダンス（上松瀬勝男）	メジカルビュー社	2003	226	226

著 書

著者、所属	論文・章名	図書名	出版社	年	開始頁	終了頁
草間芳樹, 安武正弘	再灌流と不整脈	新不整脈学 (杉本恒明、井上 博)	南江堂	2003	81	83
加藤貴雄	心室遅延電位	新不整脈学 (杉本恒明、井上 博)	南江堂	2003	137	140
加藤貴雄	管理・治療の進め方	新しい診断と治療のABC15 心房細動 (笠貫宏)	最新医学社	2003	99	109
加藤貴雄	心臓の働きとしくみ	心臓ペースメーカー・埋込み型除細動器 (田中茂夫)	医薬ジャーナル社	2003	6	9
小林義典	不整脈とは	心臓ペースメーカー・植込み型除細動器 (田中茂夫)	医薬ジャーナル社	2003	10	17
加藤貴雄	Sicilian Gambitに基づく抗不整脈薬の分類	今日の治療指針2004 (山口 徹、北原光夫)	医学書院	2004	246	247
清野精彦	不安定狭心症, 非ST上昇型梗塞	今日の治療指針2004 (山口 徹、北原光夫)	医学書院	2004	258	261
高野照夫	急性心筋梗塞 (内科)	今日の治療指針2004 (山口 徹、北原光夫)	医学書院	2004	261	264
加藤祐子, 清野精彦	オマパトリラート	新世代の循環器薬物療法 (北島 顕)	メジカルビュー社	2004	128	133
清野精彦, 加藤祐子, 山下照代	心不全	内科学レビュー (酒井紀、早川弘一、西崎 統、小林祥泰、福井次矢)	総合医学社	2004	43	50
小林義典, 高野照夫	急性心筋梗塞における不整脈と伝導障害	循環器疾患最新の治療2004-2005 (山口 徹、堀 正二)	南江堂	2004	60	65
高山守正	閉塞性肥大型心筋症へのPTSMA	循環器疾患最新の治療2004-2005 (山口 徹、堀 正二)	南江堂	2004	18	23
雪吹周生, 岸田浩	昇圧薬	治療薬ガイド2003~2004 (和田 攻、大久保昭行、矢崎義雄、大内慰義)	文光堂	2003	275	281
井上博1), 新博次 {1)富山医科薬科大学第二内科}	心房細動の治療と管理	心房細動の治療と管理	医学書院	2004		
新博次	薬理学的徐細動と電氣的徐細動	「心房細動-予防・管理・治療」(永井良三、西村敬史編)	南江堂	2004	102	107
新博次	不整脈	内科学レビュー-2004 (酒井紀、早川弘一、西崎 統、小林祥泰、福井次矢監修)	総合医学社	2004	38	42
新博次	不整脈	新全科「家庭の医学」	社会保険出版社	2004	775	780
雪吹周生	心筋梗塞	ガイドライン外来診療2004 (泉 孝英)	日経メディカル	2004	358	360
高野雅充, 水野杏一	血栓溶解療法	Beyond Angiography (山口 徹・齋藤 穎)	南江堂	2003	152	155
水野杏一	急性冠症候群の診療に関するガイドライン	今日の治療指針2004 (山口 徹、北原光夫・相澤好治、飯田三雄)	医学書院	2004	1540	1544
水野杏一	生活習慣病が重複した場合の薬物療法	生活習慣病 (関原久彦)	中外医学社	2004	124	125

著 書

著者、所属	論文・章名	図書名	出版社	年	開始頁	終了頁
小野寺英貴，田中啓治	VI 冠動脈疾患患者の非心臓手術の周術期管理：9 周術期心筋虚血あるいは梗塞が疑われる場合	麻酔科診療プラクティス10 麻酔科医に必要な冠動脈疾患の知識（稲田英一）	文光堂	2003	180	183
田中啓治	I 虚血性心疾患 A 急性心筋梗塞 2 急性期のリスク層別化	EBM 循環器疾患の治療（三田村秀雄，山科 章，川名正敏，桑島 巖）	中外医学社	2003	11	20
田中啓治	II 心不全 C 急性心不全 5 補助循環はどのタイミングで開始するのか：内科の立場から	EBM 循環器疾患の治療（三田村秀雄，山科 章，川名正敏，桑島 巖）	中外医学社	2003	428	435
池田正孝 ¹⁾ ，木下勝之，木下順弘，国枝武義，小林隆夫，栗山喬之，佐久間聖仁，田中啓治，他 ^{1} 大阪大学病態制御外科	肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）予防ガイドライン～ダイジェスト版	（予防ガイドライン作成委員会編）	メディカル フロント インターナショナルリミテッド	2004	3	19

論文

著者、所属	論文名	雑誌名	年	巻号	開始頁	終了頁
【原著】						
Tanaka K, Seino Y, Ohbayashi K, Takano T	Cardiac Emergency Triage and Therapeutic Decisions Using Whole Blood Rapid Troponin T Test for Patients With Suspicious Acute Coronary Syndrome	Jpn Circ J	2001	65(5)	424	428
Hirayama Y, Kuruma A1), Hiraoka M2), Kawano S2){1)Brain Science Institute RIKEN, 2)Department of Cardiovascular Diseases Medical Research Institute Tokyo Medical and Dental University}	Calcium-Activated Cl ⁻ Current Is Enhanced by Acidosis and Contributes to the Shortening of Action Potential Duration in Rabbit Ventricular Myocytes	Jpn J Physiol	2002	52(3)	293	300
Buell HE, Stables RH, DeLong ER, Shuping KB, Killip DM, Lever HM, McKenna WJ, Rubin D, Sigwart U, Takayama M, Wagner GS, Eisentein EL, Spencer WH	Percutaneous transluminal septal reduction for hypertrophic obstructive cardiomyopathy:report from an international pilot study	J Med Syst	2002	26(4)	293	300
Seino Y, Hori M1), Sonoda T2){1)The First Department of Internal Medicine Osaka University, 2)Osaka Prefecture General Hospital}	Multicenter Prospective Investigation on Cardiovascular Adverse Effects of Tacrolimus in Kidney Transplantations	Cardiovasc Drugs Therapy	2003	17(2)	141	149
Ohmura K, Kobayashi Y, Miyauchi Y, Endoh Y, Atarashi H, Katoh T, Takano T	Electrocardiographic and electrophysiological characteristics of atrial fibrillation organized into atrial flutter by oral administration of class I antiarrhythmic agents	Pacing Clin Electrophysiol	2003	26(3)	692	702
Kameyama M, Hirayama Y, Saitoh H, Maruyama M, Atarashi H, Takano T	Possible Contribution of the Sarcoplasmic Reticulum Ca ²⁺ Pump Function to Electrical and Mechanical Alternans	J Electrocardiol	2003	36(2)	125	135
Tang X1), Kodani Y, Takano H, Hill M1), Shinmura K1), Vondriaka TM1), Ping P1), Bolli R1){1)Division of Cardiology, University of Louisville}	Protein tyrosine kinase signaling is necessary for NO donor-induced late preconditioning against myocardial stunning	Am J Physiol Heart Circ Physiol	2003	284(4)	1441	1448
Hamabe A, Okuyama, Y, Miyauchi Y, Zhou S, Park HN, et al (Cedars-Sinai Medical Center)	Correlation between anatomy and electrical activation I canine pulmonary veins.	Circulation	2003	107 (11)	1550	1555
Yamashita T1), Sekiguchi A1), Iwasaki Y, Sagara K1), Inuma H1), Hatano S1), Fu LT1), Watanabe H1){1)The Cardiovascular Institute}	Circadian Variation of Cardiac K ⁺ Channel Gene Exprssion	Circulation	2003	107	1917	1922
Seino Y, Ogata K, Takano T, Ishii J1), Hishida H1), Morita H2), Takeshita H2), Takagi Y3), Sugiyama H3), Tanaka T4), Kitaura Y4){1)Department of Cardiology Fujita Health University, 2)Osaka Mishima Critical Care Center, 3)Department of Clinical Pathology, Showa University	Use of a Whole Blood Rapid Panel Test for Heart-Type Fatty Acid-Binding Protein in Patients with Acute Chest Pain: Comparison with Rapid Troponin T and Myoglobin Tests	Ame J Med	2003	115(3)	185	190
Miyauchi Y, Zhou S, Okuyama Y, Hayashi H, Miyauchi M, et al (Cedars-Sinai Medical Center)	Altered atrial electrical restitution and heterogeneous sympathetic hyperinnervation in hearts with chronic left ventricular myocardial infarction	Circulation	2003	108(3)	360	366
Okumura S, Takagi G, Kawabe J, Yang G, Lee M, Hong C, Liu J, Vatner D, Sadoshima J, Vatner S1), Ishikawa Y1){1)Department of Cell Biology and Molecular Medical}	Disruption of type 5 adenylyl cyclase gene preserves cardiac function against pressure overload	PNAS	2003	100 (17)	9986	9990

論 文

著者、所属	論文名	雑誌名	年	巻号	開始頁	終了頁
Pak HN, Qayyum M, Kim DT, Hamabe A, Miyauchi Y, et al (Cedars-Sinai Medical Center)	Mesenchymal stem cell injection induces cardiac nerve sprouting and increased tenascin expression in a Swine model of myocardial infarction	J Cardiovasc Electrophysiol	2003	14(8)	841	848
Kumita S1), Tanaka K1), Cho K1), Sato N1), Nakajo H1), Toba M1), Fukushima Y1), Mizumura S1), Takano T, Kumazaki T1){1)Dept of Radiology}	Assessment of left ventricular function using solid-state gamma camera equipped with a highly-sensitive collimator	Ann Nucl Med	2003	17(6)	517	520
Hayashi H, Miyauchi Y, Chou C-C, Karagueuzian HS, Chen P-S, et al (Cedars-Sinai Medical Center)	Effects of cytochalasin D on electrical restitution and the dynamics of ventricular fibrillation in isolated rabbit heart	J Cardiovasc Electrophysiol	2003	14	1077	1084
Takahashi Y, Takayama M, Sato N, Nitta T, Tanaka S, Takano T	Restoration of endothelial function after repaired coarctation of the aorta: a case report	Angiology	2003	54(5)	609	611
Akira H, Chang CM, Zhou S, Chou CC, Yi J, Miyauchi Y, et al (Cedars-Sinai Medical Center)	Induction of atrial fibrillation and nerve sprouting by prolonged left atrial pacing in dogs	PACE	2003	26(12)	2247	2252
Hayashi H, Omichi C, Miyauchi Y, Mandel WJ, Lin SF, et al (Cedars-Sinai Medical Center)	Age-related sensitivity to nicotine for inducible atrial tachycardia and atrial fibrillation	Am J Physiol Heart Circ Physiol	2003	285(5)	H 2091	H 2098
Shimizu S, Satomura K, Aramaki T, Katsuta Y, Takano T, Omoto Y1)	Hepatic chymase level in chronic hepatitis: co-localization of chymase with fibrosis	Hepatol Res	2003	27(1)	62	66
Yamashita T, Ogawa S, Aizawa Y, Atarashi H, Inoue H, Ohe T, Okumura K, Kato T, Kamakura S, Kumagai K, Kurachi Y, Kodama I, Koretsune Y, Saikawa T, Sakurai M, Sugi K, Nakaya H, Nakayama T, Hirai M, Fukutani M, Mitamura H, Yamazaki T (J-RHYTHM Clinical Trial Center)	Investigation of the Optimal Treatment Strategy for Atrial Fibrillation in Japan: The J-RHYTHM (Japanese Rhythm Management Trial for Atrial Fibrillation) Study Design	Circ J	2003	67(9)	738	741
Hayashi M, Kobayashi Y, Morita N, Iwasaki Y, Ohmura K, Atarashi H, Katoh T, Takano T	Clinical Significance and Contributing Factors on Long-Term Variability in Induced Ventricular Tachyarrhythmias	J Cardiovasc Electrophysiol	2003	14(10)	1049	1056
Zhang X, Katsuta Y, Akimoto T1), Ohsuga M, Aramaki T, Takano T (1) Laboratory of Animal Medicine)	Intrapulmonary vascular dilatation and nitric oxide in hypoxemic rats with chronic bile duct ligation	J Hepatol	2003	39(5)	724	730
Yamashita T, Sekiguchi A, Iwasaki Y, Sagara K, Hatano S, Iinuma H, Aizawa T, Fu LT (The Cardiovascular Institute)	Thrombomodulin and Tissue Factor Pathway Inhibitor in Endocardium of Rapidly Paced Rat Atria	Circulation	2003	108	2450	2452
Satomura K, Yin M, Shimizu S, Kato Y, Nagano Y, Komeichi H, Ohsuga M, Katsuta Y, Aramaki T, Omoto Y1){1)Biologic Research Institute, Otsuka Pharmaceutical Co Ltd}	Increased Chymase in Livers with Autoimmune Disease: Colocalization with Fibrosis	J Nippon Med Sch	2003	70(6)	490	495
Katoh T, Yodogawa K, Ohno T, Hayakawa H1){1)Kugayama Hospital}	Improvement of the Diagnostic Accuracy in Computer-Assisted Differential Diagnosis for Wide QRS Premature Complexes	Circ J	2003	67(12)	1036	1040
Tang X L, Kodani E, Takano H, Hill M, Shinmura K, Vondriaka TM, Ping P, Bolli R (Division of Cardiology, University of Louisville)	Protein tyrosine kinase signaling is necessary for NO donor-induced late preconditioning against myocardial stunning	Am J Physiol Heart Circ Physiol	2003	284(4)	H 1441	H 1448
Yamashita T1), Ogawa S, Aizawa Y, Atarashi H, Inoue H, Ohe T (1) The Cardiovascular Institute)	Investigation of optimal treatment strategy for atrial fibrillation in Japan-The J-RHYTHM (Japanese Rhythm Management Trial for Atrial Fibrillation) study design	Circ J	2003	67(9)	738	741

論 文

著者、所属	論文名	雑誌名	年	巻号	開始頁	終了頁
Maruyama M, Kawaguchi N, Miyamoto S, Tadera T, Ino T, Atarashi H	Pseudotermination of Atrioventricular Nodal Reentrant Tachycardia Related to Isorhythmic Atrioventricular Dissociation	PACE	2003	26	2338	2339
Fujita M1), Mizuno K, Ho M2), Tsukahara R2), Miyamoto A3), Miki O4), Ishii atsuhiisa5), Miwa K5){1)The College of Medical Technology, Kyoto University, }	Sarpogrelate treatment reduces restenosis after coronary stenting	Am Heart J	2003	145 (3□)	H1	H4
Okuyama Y, Miyauchi Y, Park AM, Hamabe A, Zhou S, et al (Cedars-Sinai Medical Center)	High resolution mapping of the pulmonary vein and the vein of Marshall during induced atrial fibrillation and atrial tachycardia in a canine model of pacing-induced congestive heart failure	J Am Coll Cardiol	2003	42	348	360
Takano M, Seimiya K, Yokoyama S1), Okamatsu K, Ishibashi F, Uemura R2), Hata N1), Mizuno K{1)日本医科大学千葉北総病院集中治療室, 2)国立東静岡病院内科}	Unique Single Coronary Artery with Acute Myocardial Infarction Observation of the Culprit Lesion by Intravasculara Ultrasound and Coronary Angioscopy	Jpn Heart J	2003	44(2)	271	276
MacNeill D B1), Lowe C H1), Takano M, Fuster V1), Jang IK-K1){1)Division of Cardiology, Massachusetts General Hospital}	Intravascular Modalities for Detection of Vulnerable Plaque (Current Status)	Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology	2003	23(8)	1333	1341
Takano M, Seimiya K	Crater and cavity-like coronary plaque followed on the rupture	Euro Heart J	2003	25(1)	Cover Image	
Hata N, Imaizumi T, Shinada T, Yokoyama S, Ohba T, Yoshida H, Tokuyama K	Blood Purification and Cardiorespiratory Support in the Intensive Care Unit	International J Intensive Care	2003	10(2)	51	56
Takano M1), Mizuno K1), Yokoyama S, Seimiya K1), Ishibashi F1), Okamatsu K1), Uemura R1){1)Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital}	Changes in Coronary Plaque Color and Morphology by Lipid-Lowering Therapy With Atorvastatin: Serial Evaluation by Coronary Angioscopy	J Ame Col Cardiol	2003	42(4)	680	686
Sakai S1), Yokoyama S, Tanabe J1), Shinada T, Seimiya K1), Takano M1), Ohba T1), Tomimura M1), Uemura R1), Imaizumi T{1)Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital}	Morphologic Changes in Infarct-Related Plaque After Coronary Stent Placement	J Ame Col Cardiol	2003	42(9)	1558	1565
Takeda S, Matsumura J1), Ikezaki H1), Kim C1), Sato N, Nakanishi K1), Sakamoto A1), Ogawa R1), Tanaka K{1)麻酔科学}	Milrinone improves lung compliance in patients receiving mechanical ventilation for cardiogenic pulmonary edema	Acta Anaesthesiol Scand	2003	47	714	719
Kumita S1), Tanaka K, Cho K1), Sato N, Nakajo H1), Toba M1), Fukushima Y1), Mizumura S1), Takano T, Kumazaki T1){1)放射線医学}	Assessment of left ventricular function using solid-state gamma camera equipped with a highly-sensitive collimator	Ann Nucl Med	2003	17	517	520
Ohba T, Hata N, Ohaki Y1) {1)Pathology, Chiba Hokusoh Hospital}	The Coronary Angioscopic Appearance and Hystopathology of Coronary Artery Thrombi in Acute Coronary Syndrome	Asian Cardiovas Thoracic Annals	2003	11(3)	255	257
Jian W1), Tajima H1), Murata S1), Abe Y1), Hakozaiki K1), Kumazaki T1), Kasuga M, Takano T{1)Department of Radiology}	Renal artery stenosis in a patient with Leriche syndrome: brachial artery access for stent placement	Radiat Med	2004	22(1)	49	51
Hirayama Y, Atarashi H, Kobayashi Y, Takano T	Angiotensin-Converting Enzyme Inhibitors are not Effective at Inhibiting Further Fibrous Changes in the Atria in Patients With Chronic Atrial Fibrillation	Jpn Heat J	2004	45(1)	93	101

論文

著者、所属	論文名	雑誌名	年	巻号	開始頁	終了頁
Miyauchi M, Kobayashi Y, Miyauchi Y, Abe J, Morita N, Iwasaki YK, Hayashi M, Takano T	Parasympathetic Blockade Promotes Recovery from Atrial Electrical Remodeling Induced by Short-term Rapid Atrial Pacing	Pacing Clin Electrophysiol	2004	27(1)	33	37
Okamatsu K, Takano M, Sakai S, Ishibashi F, Uemura R, Takano T, Mizuno K	Elevated troponin T levels and lesion characteristics in non-ST-elevation acute coronary syndromes	Circulation	2004	109(4)	465	470
Seino Y, Tomita Y, Takano T, Ohbayashi K	Office Cardiologists Cooperative Study on Whole Blood Rapid Panel Tests in Patients With Suspicious Acute Myocardial Infarction: Comparison Between Heart-Type Fatty Acid-Binding Protein and Troponin T Tests	Circ J	2004	68(2)	144	148
Amano Y, Takayama M, Amano M, Kumazaki T	MRI of cardiac morphology and function after percutaneous transluminal septal myocardial ablation for hypertrophic obstructive cardiomyopathy	Am J Roentgenol	2004	182(2)	523	527
Seino Y, Ogawa A, Yamashita T, Fukushima M, Ogata K, Fukumoto H, Takano T	Application of NT-proBNP and BNP measurements in cardiac care: a more discerning marker for the detection and evaluation of heart failure	Eur J Heart Failure	2004	6	295	300
小野寺威夫, 小林義典, 井野威, 新博次, 加藤貴雄, 高野照夫	発作性上室性頻拍におけるST低下の臨床的特徴とその発生機序	心電図	2003	23(3)	262	270
宮本正章, 高野仁司, 藤田進彦, 小鹿野道雄, 百束比古1), 安武正弘, 高木啓倫, 太良修平, 水野博司1), 高野照夫{1)形成外科学}	糖尿病足病変の治療③重症難治性糖尿病性壊疽に対する自己骨髄細胞浸透人工真皮を用いた血管再生細胞治療	糖尿病と血管	2003	8(1)	31	37
宮本正章, 安武正弘, 高野仁司, 高木元, 高木啓倫, 水野博司1), 汲田伸一郎2), 落雅美3), 坂本篤裕4), 高野照夫{1)形成外科学, 2)放射線医学, 3)外科学第2, 4)麻酔科学}	難治性疾患への再生医療: 重症難治性心血管疾患に対する自己骨髄細胞を利用した新しい血管再生治療	麻酔	2003	52(増刊)	67	75
細川雄亮, 高野仁司, 大野忠明, Zreiqat J, 中込明裕, 高山守正	孤立性中流部閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的筋中隔焼灼術		2003	18(6)	549	556
大須賀恵美子, 玉地寛光, 早川弘一(久我山病院内科)	高血圧治療ガイドライン目標血圧値と通常外来における降圧療法の実態との差異	臨床薬理	2003	34(3)	283	288
山本剛, 高木啓倫, 亀山幹彦, 林明聡, 坪宏一, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野照夫, 田島廣之1), 隈崎達夫1){1)放射線医学}	重症急性肺血栓症に対する積極的カテーテル治療の効果	脈管学	2004	44(1)	1	5
津久井拓1), 坂根学2), 飯野靖彦3), 田村浩一4), 塩和夫1), 内藤善哉5), 青木宏3), 恩田宗彦4), 杉崎祐一4), 中塚雄久1), 福田悠4), 片山泰朗3), 金子礼志2), 清水章4), 清野精彦, 高野照夫{1)内科学第3, 2)リウマチ科, 3)内科学第2, 4)病理学第1, 5)病理学第2}	間接リウマチの長期経過中に合併した全身性エリテマトーデスの1例	内科	2003	92(5)	951	960
小林宣明1), 稲見茂信1), 石橋史行1), 清宮康嗣1), 大場崇芳1), 高木元1), 横山真也, 酒井俊太1), 野村敦宣1), 佐野純子1), 畑典武, 水野杏一1){1)千葉北総病院循環器センター}	肺血栓塞栓症を合併した急性大動脈解離症例	冠疾患誌	2003	9	171	172
村澤恒男, 酒井行直, 伊佐治剛, 網谷賢一, 山口朋禎, 宗像一雄	安定期維持透析患者の血液透析に伴う加算平均心電図の変動: 徐水率, 血液データ, 神経体液性因子との関連性について	日本透析医学会雑誌	2003	36	1685	1691
新博次	「AFFIRM試験」および「心房細動治療指針ガイドライン」に関するアンケート調査結果速報: リズムマネジメントに関する結果速報	心臓	2004	36(3)	256	259
新博次	アンジオテンシンII受容体拮抗薬バルサルタンの使用経験	臨床と研究	2004	81(3)	524	528

論文

著者、所属	論文名	雑誌名	年	巻号	開始頁	終了頁
坂本静樹1), 三富規行2), 田村浩一3), 内藤善哉4), 勝田悌実, 津久井拓2), 福田悠5), 他 {1)内科学第2, 2)内科学第3, 3)付属病院病理部, 4)病理学第2, 5)病理学第1}	出血性脳梗塞をきたしたクリプトコッカス髄膜炎合併アルコール性肝変の1例	内科	2004	93(2)	348	357
野村政則1), 本田喬2), 長村良章3), 高山守正, 平沢邦彦4), 牛島明子5) {1)藤田保健衛生大学, 2)済生会熊本病院, 3)山田循環器医院, 4)市立旭川病院}	急性冠症候群の専門医への紹介	日本内科学会	2004	93(2)	128	147
山本剛, 高木啓倫, 亀山幹彦1), 林明聡1), 坪宏一, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野照夫1), 田島廣之1), 隈崎達夫2) {1)内科学第1, 2)放射線医学}	重症急性肺塞栓症に対する積極的カテーテル治療の効果	脈管学	2003	44(1)	1	5

【研究報告書】

高野照夫	難治性血管炎に関する調査報告書	難治性血管炎に関する調査報告書 平成14年度総括・分担研究報告	2003		71	72
岸田浩, 児玉和久1), 平山篤志1), 田邊晃久2), 齋藤頌3), 他 {1)大阪警察病院, 2)東海大学医学部内科学, 3)第二内科, }	虚血性心疾患診療のための負荷試験による心電情報の有効性に関する委員会		2003	23(6)	665	667
川久保清1), 伊東春樹2), 勝村俊仁3), 岸田浩, 古賀義則4), 坂本静男5), 他 {1)共立女子大学家政学部栄養学科, 2)心臓血管研究所付属病院, 3)東京医科大学衛生学・公衆衛生学, 4)久留米大学付属医療センター循環器科, 5)早稲田大学スポーツ科学部スポーツ医科学科}	心疾患患者の学校、職域、スポーツにおける運動許可条件に関するガイドライン	Circ J	2003	67(SIV)	1261	1326
荒牧琢己, 清水秀治, 古明地弘和, 大須賀勝, 勝田悌実, 里村克章	都内自己免疫肝炎患者の実態調査に関する研究、とくに国内他地域との差について	平成14年度特殊疾病（難病）に関する研究報告書	2004		29	36

【2002年度追加分研究報告書】

Takano M1), Seimiya K1), Yokoyama S, Okamatsu K1), Ishibashi F1), Uemura R1), Hata N, Mizuno K1) {1)Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital}	Unique single coronary artery with acute myocardial infarction: observation of the culprit lesion by intravascular ultrasound and coronary angiography	Jpn Heart J	2003	44(2)	271	276
--	--	-------------	------	-------	-----	-----

【総説】

Maruyama M, Kobayashi Y, Kodani E, Hirayama Y, Atarashi H, katoh T, Takano T	Osborn Waves: History and Significance	Indian Pacing Electrophysiol J	2004	4(1)	33	39
岩崎雄樹, 山下武志1) {1)心臓血管研究所第三研究部}	心房細動におけるイオンチャンネルのリモデリング-心房細動にみられるさまざまなイオンチャンネルのリモデリングの機序と病態生理学的意義	医学のあゆみ	2002	2000(9)	701	705
岩崎雄樹他	抗不整脈薬による停止と薬剤選択	臨床医	2002	28(6)	669	703
説田浩一1), 清野精彦 {1)都立駒込病院循環器内科}	ESC/ACC心筋梗塞診断基準	臨床検査	2002	46(10)	1140	1143
岩崎雄樹, 山下武志1) {1)心臓血管研究所第三研究部}	心房細動, 心房粗動, 上室性頻拍	Mebio	2003	20(1)		
高野照夫	急性冠症候群: 診断と治療の進歩	日本内科学会	2003	93(2)	1	2
高山守正	急性冠症候群の診断	日本臨床	2003	61(増5)	303	311
加藤貴雄	不整脈診療の新しい展開	成人病と生活習慣病	2003	33(5)	535	544
高野照夫	急性心筋梗塞の診断・治療: 将来への期待	日本医事新報	2003	4126	1	14
林明聡, 加藤貴雄	心房粗細動の薬物療法	ICUとCCU	2003	27(5)	339	351
岸田浩	安全対策と薬剤性QT延長症候群	Jpn J Electrocardiol	2003	23(3)	251	252
清野精彦	心筋生化学マーカーによる梗塞サイズの評価	日本臨床	2003	61(増5)	417	425

論 文

著者、所属	論文名	雑誌名	年	巻号	開始頁	終了頁
佐藤直樹1), 高野照夫 (1)付属病院集中治療室)	急性心筋梗塞に対するニトログリセリン	ICUとCCU	2003	26(5)	369	373
林明聡1), 加藤貴雄 (1)集中治療室)	不整脈のマネージメント：最近の進歩	ICUとCCU	2003	27(5)	339	350
加藤貴雄	不整脈診療の新しい展開	成人病と生活習慣病	2003	33(5)	535	544
岸田浩, 鈴木健1) (1)多摩永山病院内科)	狭心症の臨床・狭心症に対する薬物療法	日本臨床	2003	61(増5)	93	97
高山守正, 高野照夫	東京都CCUネットワーク	救急医学	2003	27(6)	713	718
加藤貴雄	心房細動の治療戦略をめぐって	呼と循	2003	51(6)	535	535
高山守正, 高野照夫 (東京都CCU連絡協議会)	東京都CCUネットワークの2001年活動実績報告書	ICUとCCU	2003	27(6)	487	491
山下照代, 清野精彦	心不全と腎機能障害	腎と透析	2003	増刊	303	307
小林義典	心房細動と高血圧症	Heart View	2003	7(4)	30	35
小林義典	薬物併用の利点と問題点	治療学	2003	37(7)	49	52
岩崎雄樹, 山下武志1) (1)心臓血管研究所第三研究部)	心房細動の発生の分子メカニズム	Heart View	2003	7(4)	58	62
岩崎雄樹, 山下武志1) (1)心臓血管研究所第三研究部)	電気的リモデリングを治療に活かせるか?	Heart View	2003	7(8)	124	129
岩崎雄樹, 加藤貴雄	嚥下性失神と咳嗽失神	循環器科	2003	54(2)	162	166
岸田浩	心電図どこまで読めるか	Heart View	2003	7(9)	119	123
宮本正章, 安武正弘, 高野仁司, 高木元, 高木啓倫, 水野博司1), 汲田伸一郎2), 落雅美3), 坂本篤裕4), 高野照夫 (1)形成外科学, 2)放射線医学, 3)外科学第2, 4)麻酔科学)	重症難治性心血管疾患に対する自己骨髄細胞移植血管再生治療の現状	J Nippon Med Sch	2003	70(5)	436	441
加藤貴雄	臨床医のためのやさしい心電図の読み方 幅の広いQRS	総合臨床	2003	52(10)	2825	2830
加藤貴雄	臨床医のためのやさしい心電図の読み方 ST低下	総合臨床	2003	52(11)	3091	3095
宮本正章	糖尿病を合併したASOに血管再生療法は有効か	臨床医のための循環器診療	2003	2	17	23
清野精彦, 高野照夫	2000年ESC/ACC心筋梗塞再定義を受けて	検査と技術	2003	31(12)	1340	1342
佐藤直樹, 小林義典	難治性心不全の治療	東京内科医学会	2003	19(1)	33	42
堀江格, 松浦隆彦1), 山藤由明2), 五代和紀1), 足立晶子1), 前田直人2), 村脇義和2), 陶山和子3), 武地幹夫4), 近藤雅雄5), 荒牧琢己 (1)日野病院, 2)鳥取大学医学部, 3)西伯病院, 4)江尾診療所, 5)国立健康栄養研究所)	ポルフィリン症の相談窓口開設 1年3ヶ月の経験	Jpn Pharmacol Ther	2003	31(増1)	73	75
加藤貴雄	臨床医のためのやさしい心電図の読み方 ST上昇	総合臨床	2003	52(12)	3287	3293
宮本正章	小児難治性アトピー性皮膚炎に奏効した漢方エキス製剤合方の経験	漢方医学	2003	27(5)	18	18
高木元, 清野精彦	心肥大の降圧療法と臓器保護	成人病と生活習慣病	2003	33(12)	1515	1521
新博次	Brugada症候群の診断と予後	心電図	2003	23(suppl4)	s-4-5	s-4-8
新博次	QT延長	臨床薬理	2004	35(2)	305	308
小林義典	非薬物治療の役割：特にICDによる突然死一次予防について	Ther Res	2004	25(1)	98	110
加藤貴雄	臨床医のためのやさしい心電図の読み方 SIQIII型	総合臨床	2004	53(1)	189	194
岸田浩	1枚の心電図から	日本医事新報	2004	4159	69	72

論文

著者、所属	論文名	雑誌名	年	巻号	開始頁	終了頁
岸田浩	無症候性心筋虚血	今月の治療	2004	11(臨時増刊)	53	56
谷合信彦1), 秋丸琥甫1), 川野陽一1), 水口義昭1), 清水哲也1), 高橋翼1), 山本保博2), 田中啓治, 竹田晋浩 {1)外科学第1, 2)救急医学}	劇症肝不全に対する肝移植までの治療戦略: 生体肝移植症例の検討を中心に	日本腹部救急医学会雑誌	2003	24(3)	581	587
平澤泰宏, 加藤貴雄	洞不全症候群	今月の治療	2004	11(臨時増刊)	120	123
丸山光紀, 新博次	非持続性心室頻拍の対処法	臨床医	2004	30(1)	51	55
山本剛, 高野照夫	抗凝固療法・線溶療法(容量, 投与期間など)(特集: 急性肺血栓塞栓症: 予防ガイドライン制定の意義)	日本臨床	2004	61(10)	1757	1763
山本剛1), 高野照夫 {1)集中治療室}	急性発症の治療はどう行うか(特集: 急性肺塞栓診療の最前線)	臨床医	2004	30(3)	340	343
高野照夫	心臓突然死とprehospital care	東京都医師会	2004	57(2)	122	126
加藤貴雄	臨床医のためのやさしい心電図の読み方 QT延長	総合臨床	2004	53(2)	384	389
清野精彦, 高野照夫	心筋生化学マーカーによる評価: multimarker Strategy	日本内科学会	2004	93(2)	35	42
岸田浩, 平山悦之, 小林義典, 新博次1) {1)多摩永山病院内科}	心電学研究の進歩	循環器専門医	2004	12(1)	95	101
山本剛1), 高野照夫 {1)集中治療室}	急性発症の治療はどう行うか	臨床医	2004	30(3)	340	343
清野精彦	急性心不全治療のアルゴリズム	Heart View	2004	8(3)	66	73
田島廣之1), 村田智1), 隈崎達夫1), 山本剛, 田中啓治, 高野照夫 {1)放射線医学}	カテーテル血管内治療の効用と限界	ICUとCCU	2004	28(3)	181	184
新博次	Brugada症候群の診断とSCN5A変異	心臓	2003	35(4)	280	281
岸田浩, 鈴木健	狭心症の臨床: 狭心症に対する薬物療法	日本臨牀	2003	61(増刊号5)	93	97
新博次	Brugada症候群の予後: 日本と欧米で差はあるのか	Heart View	2003	17(8)	51	55
新博次	突然死予防の新しいstrategy: Brugada症候群について	心臓	2004	36(1)	3	8
丸山光紀, 新博次	非持続性心室頻拍の対処法	臨床医	2004	30(1)	51	55
新博次	Ca拮抗薬と不整脈	CLINICAL CALCIUM	2004	14(3)	454	456
新博次	心房細動	成人病と生活習慣病	2004	34(3)	193	196
佐藤直樹	難治性心不全の治療: 種々の新治療を試みた1症例	東京内科医学会誌	2003	19(1)	33	36
佐藤直樹	ICUにおける心不全治療の進歩 難治性心不全	ICUとCCU	2003	27(9)	807	811
山本剛, 高野照夫	抗凝固療法・線溶療法(用量, 投与期間など)(特集: 急性肺血栓塞栓症: 予防ガイドライン制定の意義)	日本臨床	2003	61(10)	1757	1763
林明聡, 田中啓治	新しい静注III群薬塩酸nifekalantの作用機序と臨床効果: 急性期致死性不整脈治療の切り札となりえるか	集中治療医学会雑誌	2003	10	327	330
中込明裕, 高野照夫, 田中啓治	心筋梗塞の臨床 梗塞後狭心症 早期梗塞後狭心症の病態と治療法の変遷(急性期経皮的冠動脈形成術導入前後での比較)	日本臨床	2003	61(5)	645	649
金徹, 田中啓治	麻酔科医の循環管理 循環器合併症の術前評価と術前準備	臨床麻酔	2003	27(12)	1879	1889
山本剛, 高野照夫	急性発症の治療はどう行うか(特集: 急性肺塞栓症診療の最前線)	臨床医	2003	30(3)	340	343
安武正弘, 宮本正章, 高野仁司, 高野照夫, 高木啓倫, 田中啓治, 落雅美1), 汲田伸一郎2) {1)外科学第2, 2)放射線医学}	重症冠動脈疾患に対する自家骨髄単核細胞移植治療	日本内科学会雑誌	2003	93(臨時増刊号)	213	216

論文

著者、所属	論文名	雑誌名	年	巻号	開始頁	終了頁
中沢賢1), 田島広之1), 村田智1), 市川和雄1), 阿部豊1), 福永毅1), 高山守正, 田中啓治, 高野照夫 {1)放射線医学}	急性肺血栓塞栓症に対するIVR: 特に治療効果と血行動態の変化について	日本医学放射線学会雑誌	2003	64(2)	S113	S114
田島広之1), 村田智1), 隈崎達夫1), 山本剛, 田中啓治, 高野照夫 {1)放射線医学}	カテーテル血管内治療の効用と限界	ICUとCCU	2003	28(3)	181	184
田中啓治, 小野卓哉, 森田典成	必須手技を始めるとき, 止めるとき PCPS	救急・集中治療	2003	16(2)	187	191
田中啓治, 山本剛, 高野照夫	ハート・アタック—a state of the art— ハート・アタックへの対応: 都会型と 地方型 東京都CCUネットワーク	集中治療	2003	16(1)	42	46
畑典武	危険な不整脈 (徐脈性不整脈)	Emergency Nursing	2003	16(6)	500	506

学 会 発 表

演者、所属	演題名	学会名	年	月
【教育講演】				
田中啓治（付属病院集中治療室）	急性心筋梗塞を見逃さないために （厚生労働科学研究：心臓、脳卒中 の急性期における診療向上およびそ の研修のあり方に関する研究班報 告）	第31回日本集中治療医学 会総会	2004	3
水野杏一（千葉北総病院内科）	OCTのValidation	第17回日本心臓血管内視 鏡学会	2003	10
高山守正	薬物不応性HOCMへのPTSMA：治療 的心筋壊死作成による左室内閉塞の 解除	日本心臓病学会教育セミ ナー	2003	6
清野精彦	Acute coronary syndromeの治療スト ラテジー	第51回日本心臓病学会学 術集会	2003	9
【招待講演】				
宮本正章，安武正弘，高野仁司，高木元，高 木啓倫，水野博司1)，汲田伸一郎2)，落雅美 3)，坂本篤裕4)，高野照夫 {1)形成外科，2) 放射線科，3)外科学第2，4)麻酔科}	難治性疾患への再生治療：重症難治 性心血管疾患に対する自己骨髄細胞 を利用した新しい血管再生治療	日本麻酔科学会第50回学 術集会	2003	5
田中啓治（付属病院集中治療室）	循環器救急におけるChain of Survival	白河循環器懇話会	2003	12
【特別講演】				
浅井邦也	加齢によるエンドセリンB受容体由来 の血管収縮奇異性亢進とアポトーシ スを介した血管内皮細胞障害	第71回日本医科大学医学 会総会	2003	9
加藤貴雄	心臓微小電位研究におけるウェーブ レット変換法の応用	第14回体表心臓微小電位 研究会	2004	2
勝田悌実	慢性肝疾患における肺循環異常	第36回臨床肝臓懇話会	2004	3
田中啓治（付属病院集中治療室）	循環器救急におけるChain of Survival	第22回日本蘇生学会	2003	11
【要望演題】				
宮本正章，安武正弘，高野仁司，高木啓倫， 藤田進彦，汲田伸一郎1)，田近賢二2)，坂本 篤裕3)，水野博司4)，落雅美5)，高山守正， 高野照夫 {1)放射線科，2)内科学第3，3)麻酔 科，4)形成外科，5)外科学第2}	重症難治性心血管疾患に対する自己 骨髄細胞移植血管再生療法（再生医 療から臓器・組織移植医療へのアプ ローチ）	第39回日本移植学会総会	2003	10
【Featured Research Session】				
Ishikawa Y1), Yatani A, Kawabe J, Takano T, Okumura S {1)Department of Cardiovascular Research, Yokohama City University Graduate School of Medical Science)	The type 5 Adenylyl cyclase mediate Ca ²⁺ -mediated regulation of Ca ²⁺ channels in the heart	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Takayama M, Shibui T, Kawashima S, Hosokawa Y, Yoshikawa M, Zreiqat J, Yamane Y, Takagi G, Ohno T, Takano H, Aoki S, Asai K, Satoh N, Nakagomi A, Takano T	Excellent early and late clinical result of percutaneous catheter treatment with alcohol(PTSMA) for symptomatic hypertrophic obstructive cardiomyopathy	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
【Morning Lecture】				
Takayama M	Diagnostic Strategy of Chest Pain	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Kobayashi Y	Clinical characteristics and management of tachyarrhythmias associated with myocardial infarction and congestive heart failure	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3

学 会 発 表

演者、所属	演題名	学会名	年	月
【シンポジウム】				
Takeshita M1), Ohsuzu F2), HigashiK2), Yonemura A2), Sawada S2), Tabata S2), Obata T2), Mizuno K, Sano J, et al: {1)Health Care Products Research Laboratories No.1 Kao Corp, 2)1st Dept. of Internal Medicine, National Defense Medical College)	Effect of diacylglycerol oil containing plant sterols on serum lipid parameters in patients taking pravastatin (10mg/day)	第13回国際動脈硬化学会 (京都)	2003	9
Takayama M, Ohno T, Zreiqat J, Takano H, Nakagomi A, Takano T	Percutaneous catheter alcohol ablation for medically refractory patients with HOCM: The experience in Asia (Surgical vs non-surgical ablation)	5th European Workshop on Hypertrophic Cardiomyopathy (Schweinfurt, Germany)	2003	11
山本剛1), 坪宏一1), 藤田進彦1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 高山守正, 高野照夫, 酒井俊太2), 葉山修陽3), 水野杏一2) {1)集中治療室, 2)千葉北総病院内科, 3)内科学第2}	透析症例に対するPCIの問題点とその対策: 凝固系異常について (透析症例に対するPCIの問題点とその対策)	第9回日本血管内治療学会総会	2003	4
清野精彦	心筋トロポニンと全血迅速診断法 (心筋傷害と心筋/血管マーカー)	第12回日本臨床化学会関東支部総会	2003	5
青木聡, 中込明裕, 山根吉人, 高野仁司, 遠藤康美, 浅井邦也, 安武正弘, 草間芳樹, 高山守正, 清野精彦, 高野照夫	C反応性蛋白は急性冠症候群の発症に直接関与する (Acute Coronary Syndromeの病態を解明する)	第51回日本心臓病学会学術集会	2003	9
平山悦之	心電図オルタナンスの発生機序に関する研究 (交互脈: 心電図から細胞内分子へ: 新たな旅立ち)	第20回日本心電学会学術集会	2003	9
宮本正章	重症難治性糖尿病性壊疽および潰瘍に対する自己骨髄幹細胞浸透人工真皮を用いた血管再生療法 (人工臓器・臓器移植・再生医療のベストミックス)	第41回日本人工臓器学会大会	2003	10
高山守正, 安武正弘, 高野照夫, 佐藤直樹1), 田中啓治1) {1)集中治療室}	虚血性心疾患: 心臓救急診療にてガイドラインをどのように生かすか? (急性期治療のガイドラインと診療の実態)	第31回日本救急医学会総会・学術集会	2003	10
宮本正章, 安武正弘, 高野仁司, 高木啓倫, 藤田進彦, 渡田伸一郎1), 田近賢二2), 坂本篤裕3), 水野博司4), 落雅美5), 高山守正, 高野照夫 {1)放射線科, 2)内科学第3, 3)麻酔科, 4)形成外科, 5)外科学第2}	重症難治性心血管疾患に対する自己骨髄細胞移植血管再生療法 (血管新生療法を含む再生医療)	第65回日本臨床外科学会総会	2003	11
佐藤直樹1), 高木啓倫1), 山本剛1), 藤田進彦1), 坪宏一1), 森田典成1), 小野卓哉1), 高野照夫, 田中啓治1) {1)集中治療室}	急性心不全におけるサイトカイン測定意義: 重症度および治療効果判定の指標として (重症心不全の治療法は進歩したか?)	第31回日本集中治療医学会学術集会	2004	3
新博次	治療薬による重篤な有害反応の予測・予防: QT延長	第24回日本臨床薬理学会年会	2003	12
新博次	心房中隔欠損と心房細動 ASD&Af (10min)	第6回成人先天性心疾患研究会	2004	1
田中啓治 (付属病院集中治療室)	日本医大CCUの30年の変遷と, これから目指すべき未来像	第31回日本集中治療医学会総会	2004	3
田中啓治, 佐藤直樹, 山本剛, 坪宏一, 新田隆1), 落雅美1) {1)外科学第2}	難治性虚血性心不全の最新の治療~虚血性心不全の病型分類と病態に基づいた最新の治療	第17回日本冠疾患学会	2004	12
山本剛, 坪宏一, 藤田進彦, 佐藤直樹, 田中啓治, 高山守正, 高野照夫, 酒井俊太, 葉山修葉1), 水野杏一 {1)内科学第2}	透析症例に対するPCIの問題点とその対策: 凝固系異常について	第9回日本血管内治療学会総会	2003	4
竹田晋浩, 金徹, 池崎弘之1), 中西一浩1), 坂本篤裕1), 小川龍1), 田中啓治 {1)麻酔科学}	パルスオキシメトリー法の展開, forehead sensorの特徴と限界	第12回日本集中治療医学会関東甲信越地方会	2003	8

学 会 発 表

演者、所属	演題名	学会名	年	月
佐藤直樹, 高木啓倫, 山本剛, 藤田進彦, 坪宏一, 森田典成, 小野卓哉, 高野照夫, 田中啓治	急性心不全におけるサイトカイン測定意義: 重傷度および治療効果判定の指標として (重症心不全の治療法は進歩したか?)	第31回集中治療医学会学術集会	2004	3
大場崇芳, 酒井俊太, 三船俊英1), 小林宣明1), 田近研一郎, 小川友裕, 稲見茂信, 石橋史行, 清宮康嗣, 水野杏一 {1)千葉北総病院集中治療室}	冠動脈プラーク破綻(無症候性)の危険因子: 血管内視鏡	第35回日本動脈硬化学会総会	2003	9
酒井俊太, 高野雅充, 三船俊英, 稲見茂信, 田近研一郎, 清宮康嗣, 大場崇芳, 水野杏一	Angioscopic Plaque Stabilizationの提唱	第14回日本心血管画像動態学会	2004	2
【セミナー】				
Mizuno K (千葉北総病院内科)	ACS (Acute Coronary Syndrome) plaque stabilization by statin implication of the JUST and HPS study	Complex Catheter Therapeutics 2003 (Calgary)	2003	10
田中啓治 (付属病院集中治療室)	内科医からみたIABPの適応とその応用	第4回IABPに関するセミナー	2003	6
【パネルディスカッション】				
高山守正	PTSMA手技の実際	第12回日本心血管インターベンション学会学術集会	2003	6
高山守正	東京ハートライン (CCUと救急隊の医療連携: 現在の問題点および今後の方向性)	第23回東京CCU研究会	2003	11
林明聡1), 田中啓治1), 加藤貴雄, 森田典成1), 小野卓哉1), 佐藤直樹1), 武田晋浩1), 安武正弘1), 小林義典, 高野照夫 {1)集中治療室}	血行動態の破綻をきたし電気的除細動不応の心房細動に対する塩酸ニフェカレントを用いた新戦略	第31回日本集中治療医学会学術集会	2004	3
坪宏一1), 汲田伸一郎2), 佐藤直樹1), 高木啓倫1), 藤田進彦1), 山本剛1), 小野卓哉1), 隈崎達夫2), 田中啓治1), 高野照夫 {1)集中治療室, 2)放射線科}	微小循環評価における ^{99m} Tc-MAA心筋GATED-SPECTの有用性の検討	第31回日本集中治療医学会学術集会	2004	3
【コントラバナー】				
酒井俊太, 小林宣明1), 田近研一郎, 小川友裕, 稲見茂信, 石橋史行, 横山真也1), 大場崇芳, 岡松健太郎, 水野杏一 {1)千葉北総病院内科, 2)同集中治療室}	急性冠症候群に対するステント療法: 血管内視鏡の観察から見た知見	第35回日本動脈硬化学会総会	2003	9
【ファイアーサイドカンファランス】				
小林義典	非薬物治療の役割: 特にICDによる突然死一次予防について (低心機能例における不整脈とその治療戦略)	第20回日本心電学会学術集会	2003	9
安武正弘	虚血中, 再灌流各時相における細胞内イベントと心筋保護	第20回日本心電学会学術集会	2003	9
清野精彦	新しい心筋マーカーによる微小心筋傷害の診断 (急性冠症候群の心電図を読む: 心電図から病態がどこまでわかるか)	第20回日本心電学会学術集会	2003	9
【ラウンドテーブルディスカッション】				
水野杏一 (千葉北総病院内科)	Vulnerable Plaqueの診断と治療	第3回日本心血管カテーテル学会	2003	7
【ワークショップ】				
田中古登子, 太田眞夫, 高野照夫	正常アルブミン尿2型糖尿病における腎血行動態予備能(RFR)と各種関連因子の検討	第40回日本臨床生理学会総会	2003	10
水野杏一 (千葉北総病院内科)	冠動脈病変の血管内視鏡分類	第17回日本心臓血管内視鏡学会	2003	10
酒井俊太 (千葉北総病院内科)	冠動脈内視鏡の合併症, 適応, 禁忌	第17回日本心臓血管内視鏡学会	2003	10

学 会 发 表

演者、所属	演題名	学会名	年	月
【一般講演】				
Seino Y, Fukushima M, Kumita S, Cho K, Kumazaki T, Takano T	Ongoing myocardial damage in non-ischemic cardiomyopathy is related to impaired mitochondrial retention of sestamibi	6th International Conference of Nuclear Cardiology (Florence, Italy)	2003	4
Yodogawa K, Morita N, Takayama H, Ohara T, Tateoka K, Taniguchi H, Horie T, Hirasawa Y, Abe J, Iwasaki Y, Hayashi M, Ohmura K, Hirayama Y, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T	A novel approach for detecting Brugada syndrome	North American Society of Pacing and Electrophysiology 2003 (Washington, DC, USA)	2003	5
Miyauchi Y, Hayashi H, Oh Y-S, Miyauchi M, Mandel WJ, et al (Cedars-Sinai Medical Center)	Heterogeneous cellular repolarization and action potential duration restitution in rats pulmonary veins.	North American Society of Pacing and Electrophysiology 2003 (Washington, DC, USA)	2003	5
Miyauchi M, Miyauchi Y, Zhou S, Fishbein MC, Mandel WJ, et al (Cedars-Sinai Medical Center)	Chronic nicotine exposure promotes reentrant atrial flutter in dogs with chronic ventricular myocardial infarction	North American Society of Pacing and Electrophysiology 2003 (Washington, DC, USA)	2003	5
Chou C-C, Zhou S, Miyauchi Y, Pak H-N, Okuyama Y, et al (Cedars-Sinai Medical Center)	Computerized mapping of thoracic veins and left atrium during procainamide administration in a canine model of chronic pacing-induced sustained atrial fibrillation	North American Society of Pacing and Electrophysiology 2003 (Washington, DC, USA)	2003	5
Zhou S, Miyauchi Y, Kanavari D, Miyauchi M, Kar S, et al (Cedars-Sinai Medical Center)	Increased transcardiac nerve growth factor concentration during acute myocardial infarction in dogs	North American Society of Pacing and Electrophysiology 2003 (Washington, DC, USA)	2003	5
Tateoka K, Iwasaki Y, Ono T, Kobayashi Y, Horie T, Taniguchi H, Abe J, Yodogawa K, Morita N, Hayashi M, Kawaguchi N, Ohmura K, Ohara T, Hirayama Y, Saitoh H, Katoh T, Takano T	Useful method for the patients with alcohol related syncope	North American Society of Pacing and Electrophysiology 2003 (Washington, DC, USA)	2003	5
Ohno T, Honma H, Munakata R, Yoshikawa M, Matsuzaki T, Takayama M, Takano T	The new index of regional left ventricular function using strain rate imaging in patients with hypertrophic obstructive cardiomyopathy	14th Annual Scientific Sessions of the American Society of Echocardiography (Las Vegas, USA)	2003	6
Murasawa T, Sakai Y, Ono T1), Isaji G, Amitani K, Yamaguchi T, Nishigaki T, Munakata K {1)Coronary Cre Unit, Nippon Medical School Hospital}	Hemodialysis-associated increases in QT dispersion and ARIdispersion are related to changes in the renin-angiotensin system in patients undergoing maintenancedialysis	World Congress of Nephrology 2003 (Berlin)	2003	6
Hata N, Yokoyama S, Imaizumi T, Ohba T, Shinada T, Yoshida H, Tokuyama K, Mizuno K, Matsumori A1) {1)Cardiovascular Medicine, Kyoto University}	Hepatocyte Growth Factor and Cardiovascular Thrombosis in Patients Admitted to the Intensive Care Unit	2nd Asian Pacific Scientific Forum/ AHA (Honolulu)	2003	6
Yoshida H, Kusama Y, Yasutake M, Kato K, Takano H, Kishida H, Takano T	Pharmacological preconditioning with bradykinin affords myocardial protection not only through PKC-dependent, but also endogenous NO-dependent mechanisms	International Society for Heart Research European Section 2003 (Strasbourg, France)	2003	6

学 会 発 表

演者、所属	演題名	学会名	年	月
Tanaka K	Evaluation of renal functional reserve and related factors in Type 2 diabetes with normalbuminuria	18th International Diabetes Federation Congress (Paris, France)	2003	8
Zhang X-J, Katsuta Y, Akimoto T, Ohsuga M, Kato Y, Nagato T, Shimizu S, Komeichi H, Satomura K, Aramaki T	Intrapulmonary vascular dilation and nitric oxide in hypoxemic rats with chronic bile duct ligation	54th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (Boston, USA)	2003	10
Takayama M, Hosokawa Y, Kamiya M, Shibui T, Zreiqat J, Kawashima S, Yamane Y, Ohno T, Takano H, Nakagomi A, Takano T	Early and sustained efficacy of percutaneous catheter alcohol ablation for medically refractory patients with hypertrophic obstructive cardiomyopathy	Cardiomyopathy and Heart Failure 2003 (Sapporo, Japan)	2003	10
Hosokawa Y, Takayama M, Ohno T, Zreiqat J, Takano H, Nakagomi A, Takano T	Successful catheter treatment for hypertrophic cardiomyopathy with isolated mid-ventricular obstruction	Cardiomyopathy and Heart Failure 2003 (Sapporo, Japan)	2003	10
加藤祐子	Mitochondrial dysfunction occurs on skeletal muscle as well as on heart in adriamycin cardiomyopathy rats	第7回日本心不全学会学術集会	2003	10
Kato T, Takayama H, Yodogawa K, Ohara T, Takano T	A new noninvasive evaluation of arrhythmogenesis by wavelet transform analysis in patients with hypertrophic cardiomyopathy	2nd Sino-Japanese Conference on Transtelephonic ECG and 1st Sino-Japanese Symposium on Noninvasive Image Diagnostics in CVD (Shanghai, China)	2003	11
Iwasaki Y, Yamashita T1), Sekiguchi A1), Sagara K1), Hatano S1), Inuma H1), Fu L-T1), Kobayashi Y, Kato T, Takano T {1)The Cardiovascular Institute}	Glucocorticoid induces atrial arrhythmogenesis via modification of ion channel gene expression in rats: Molecular evidence for stress-induced atrial fibrillation	American Heart Association Scientific Sessions 2003 (Orlando, USA)	2003	11
Tateoka K	Useful provocation test for the pateints	EUROPACE 2003 (France)	2003	12
Takayama M	Effectiveness and safety of percutaneous septal alcohol ablation for medically resistant patients with hypertrophic obstructive cardiomyopathy: singlecenter experience	14th Asian Pacific Congress of Cardiology (Singapore)	2004	1
大塚俊昭, 雪吹周生, 徳山権一, 山科育子, 石井健輔, 亀山幹彦, 丸山光紀, 大野則彦, 笠神康平, 松本真, 緒方憲一, 宮本新次郎, 小谷英太郎, 遠藤康実, 田寺長, 鈴木健, 新博次, 岸田浩, 高野照夫 (多摩永山病院内科)	Trnsverse Trukを介した左前下行枝病変のカテーテル治療に成功した Single Coronary Artery合併狭心症の1例	第186回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2002	12
細川雄亮, 宮地秀樹, 渋井俊之, 川嶋修司, Zreiqat J, 高木啓倫, 山根吉人, 坪宏一, 山本剛, 藤田進彦, 高野仁司, 青木聡, 浅井邦也, 佐藤直樹, 中込明裕, 草間芳樹, 高山守正, 高野照夫 (多摩永山病院内科)	PTSMAを施行した孤立性左室中流部閉塞による閉塞性肥大型心筋症の3例	第22回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会	2003	4
稲見茂信1), 酒井俊太1), 小川友裕1), 石橋史行1), 掃部弘行1), 清宮康嗣1), 高木元1), 大場崇芳1), 畑典武2), 水野杏一1) {1) 千葉北総病院内科、2)同集中治療室}	SVG disease (TIMIO)に対するdistal protection device を用いたPCI後にショックに陥った狭心症の1例	第22回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会	2003	4
古明地弘和	自己免疫性肝炎における反復肝生検による肝組織所見の短期的, 長期的経過	第88回日本消化器病学会総会	2003	4

学 会 発 表

演者、所属	演題名	学会名	年	月
内田英二1), 田尻孝1), 相本隆幸1), 中村慶春1), 松下晃1), 鶴田宏之1), 勝野暁1), 竹田晋浩, 田中啓治 {1)外科学第1}	急性肺炎に対する動注療法: 動注単独と動注+CHDF+SDDの比較	第89回日本消化器外科学会総会	2003	4
大野忠明, 本間博, 時田祐吉, 宗像亮, 吉川雅智, 横島友子, 安武ひろ子, 福岡祐美子, 伊藤恵子, 菅原博子, 高山守正, 高野照夫, 松崎つや子	Strain rate imagingによる閉塞性肥大型心筋症の治療効果の新しい評価法	第14回日本心エコー図学会学術集会	2003	4
山本剛1), 高木啓倫1), 林明聡1), 坪宏一1), 藤田進彦1), 小野卓哉1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 高野照夫 {1)集中治療室}	トロポニンを用いた心筋梗塞再定義の問題点	第100回日本内科学会講演会	2003	4
田中啓治, 山本剛, 坪宏一, 高木啓倫, 小野卓哉, 林明聡, 藤田進彦, 佐藤直樹 (付属病院集中治療室)	急性心筋梗塞を発症したタクシー運転手の危険因子について	第100回日本内科学会総会	2003	4
今泉孝敬, 品田卓郎, 徳山権一, 吉田博史, 横山真也, 大場崇芳, 畑典武, 松本尚1), 益子邦洋1) {1)千葉北総病院救命救急センター}	千葉県におけるドクターヘリによる循環器救急疾患搬送とCCU受け入れの成果	第100回日本内科学会講演会	2003	4
高山守正1), 安藤岳史1), 川本雅司12), 中村隆3), 五十嶋一成14) {1)日本医科大学山岳医学研究会, 2)病理学第1, 3)中村病院, 4)自衛隊仙台病院内科}	北アルプス中高年登山者の登山時の疾病発症予防: 山小屋でのSpO2測定の意義	第14回日本臨床モニター学会総会	2003	4
ズレイガット ジハード, 高山守正, 高野仁司, 佐藤直樹1), 安武正弘, 高野照夫 {1)集中治療室}	抗血小板薬投与における血小板・止血機能のモニター: 血小板凝集能ならびにソノクロット法によるアスピリン単独と多剤併用投与の効果の検討	第14回日本臨床モニター学会総会	2003	4
中澤賢1), 田島廣之1), 村田智1), 安部豊1), 駒田康成1), 福永毅1), 小野沢志郎1), 隈崎達夫1), 山本剛, 高山守正2), 田中啓治, 高野照夫2) {1)放射線医学, 2)内科学第1}	急性肺血栓塞栓症に対するendovascular intervention: 特に血栓溶解・破砕・吸引療法について	第23回日本静脈学会	2003	4
酒井俊太1), 岡松健太郎1), 小川友裕1), 稲見茂信1), 掃部弘行1), 清宮康嗣1), 石橋史行1), 高木元1), 水野杏一1), 畑典武2) {1)千葉北総病院内科, 2)同集中治療室}	ACSによる冠血栓とPCI後のNo-Reflow現象との関連: 血管内視鏡による検討	第9回日本血管内治療学会	2003	4
山本剛1), 坪宏一1), 藤田進彦1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 高山守正2), 高野照夫2), 酒井俊太, 葉山修陽, 水野杏一 {1)集中治療室, 2)内科学第1}	透析症例に対するPCIの問題点とその対策: 凝固系異常について	第9回日本血管内治療学会	2003	4
酒井俊太1), 岡松健太郎1), 小川友裕1), 稲見茂信1), 掃部弘行1), 清宮康嗣1), 石橋史行1), 高木元1), 水野杏一1), 畑典武 {1)千葉北総病院内科}	ACSによる冠血栓とPCI後の No-reflow 現象との関連. 血管内視鏡による検討	第9回日本血管内治療学会	2003	4
小川友裕1), 岡松健太郎1), 稲見茂信1), 石橋史行1), 清宮康嗣1), 掃部弘行1), 高木元1), 酒井俊太1), 畑典武, 水野杏一1) {1)千葉北総病院内科}	血管内視鏡によるnon-ST-segment elevation acute coronary syndrome (NSTE-ACS)のトロポニンによるリスク層別化の立証	第9回日本血管内治療学会	2003	4
小林宣明1), 望月徹1), 松本尚1), 工廣紀斗司1), 原義明1), 上川雄士1), 阪本雄一郎1), 森田良平1), 益子邦洋1), 今泉孝敬, 畑典武 {1)千葉北総病院救命救急センター}	急性冠症候群 (ACS) 早期再灌流に対するドクターヘリの有用性	第6回千葉県救急医療研究会	2003	4
浜井俊之, 清水秀治, 小原俊彦, 中込明裕, 加藤良人, 古明地弘和, 大須賀勝, 里村克章, 勝田悌実, 辰口篤志1) {1)内科学第3}	出血源の同定に難渋し, 小腸内視鏡検査(double balloon法)により発見し得た小腸Gastrointestinal stromal tumorの1例	第279回日本消化器病学会関東支部例会	2003	5

学 会 発 表

演者、所属	演題名	学会名	年	月
淀川顕司, 小原俊彦, 清野精彦, 高山秀男, 舘岡克彦, 谷口宏史, 堀江格, 平澤泰宏, 阿部純子, 岩崎雄樹, 森田典成, 林明聡, 清水秀一, 小野卓哉, 八島正明, 大村和子, 平山悦之, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫	Late potential in sarcoidosis	第18回日本心臓ペースン グ・電気生理学学会学術集 会	2003	5
小原俊彦, 八島正明, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫, Chen Pen-S1, Karagueuzian Hrayr S1 {1} Cedars-Sinai Medical Center}	スパイラルエントリーの成因: 高解 像度マッピングからの所見	第18回日本心臓ペースン グ・電気生理学学会学術集 会	2003	5
丸山光紀1), 亀山幹彦1), 宮本新次郎1), 松本真1), 緒方憲一1), 田寺長1), 井野威1), 新博次1), 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫 {1} 多摩永山病院内科}	頻拍中の心房entrainment pacingが 心房頻拍との鑑別に有用だった Fast/Slow型房室結節リエントリー性 頻拍の1例	第33回臨床心臓電気生理 研究会	2003	5
川嶋修司, 馬淵浩輔, 古明地弘和, 大須賀勝, 高山守正, 高野照夫, 高木啓倫1), 藤田進彦1), 山本剛1), 田中啓治1) {1} 集中治療室}	不安定狭心症に対する冠動脈形成術 中に大量の冠動脈内血栓形成を認め たII型ヘパリン惹起性血小板減少症の 1例	第508回日本内科学会関 東地方会	2003	5
張雪君, 勝田梯実, 秋元敏雄1), 大須賀勝, 長戸孝道, 清水秀治, 古明地弘和, 荒牧琢己 {1} 実験動物管理室}	二次性胆汁性肝硬変ラットにおける 肺内血管拡張と低酸素血症	第39回日本肝臓学会総会	2003	5
網谷賢一, 竹永清人, 山口朋禎, 高橋直人, 星野公彦, 内田高浩, 岩原信一郎, 宗像一雄 (第二病院内科)	心臓カテーテル検査により後腹膜出 血をきたした1例	日本医科大学医学会第 110回例会	2003	5
村澤恒男, 酒井行直, 小野卓哉1), 伊佐治剛, 網谷賢一, 山口朋禎, 西垣朝裕, 宗像一雄 {1} (第二病院内科) 付属病院集中治療室}	維持透析患者の血液透析に伴うQTお よびARI dispersion の変動: RAA系 の関与	第46回日本腎臓学会学術 総会	2003	5
北村伸, 山室学, 劉春玲, 宗像一雄, 片山泰朗1) {1} 付属病院第二内科}	脳血流所見よりみた脳血管性痴呆に おけるアルツハイマー型痴呆の関与 についての検討	第44回日本神経学会総会	2003	5
横山真也, 吉岡正人1), 中村純子, 松下洋子, 神谷仁孝, 畑典武, 田中宣威1) {1} 千葉北総病院外科}	PMX-DHPおよびCHDFが有効であつ たARDS, DICを併発した重症急性肺 炎の1例	第4回千葉急性血液浄化 研究会	2003	5
淀川顕司, 森田典成, 高山英男, 小原俊彦, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫	Brugada症候群における心電図QRS 内異常高周波成分の検出	第42回日本エム・イー学 会大会	2003	6
田中古登子, 川嶋修司, 藤田進彦, 藤岡幹雄, 宮本正章, 橋本英洋, 太田眞夫, 高野照夫	2型糖尿病腎症の血管内皮障害関連因 子への加齢による影響の検討	第23回日本老年学会総 会, 第45回日本老年医学 学会学術集会	2003	6
藤田進彦1), 森田典成1), 高木啓倫1), 坪宏一1), 山本剛1), 小野卓哉1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 宮地秀樹, 岩崎雄樹, 安武正弘, 高野照夫, 渡辺淳2), 島田隆2) {1} 集中治療室, 2) 遺伝診療科}	発症から14年後に診断に至った心筋 症を合併したMELASの1例	第188回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2003	6
細川雄亮, 宗像亮, 東春香, 渋井俊之, 川嶋修司, Zreiqat J, 山根吉人, 大野忠明, 高野仁司, 青木聡, 浅井邦也, 佐藤直樹, 中込明裕, 草間芳樹, 高山守正	発作性心房細動により症状憎悪を繰 り返す閉塞性肥大型心筋症にPTSMA を施行した2例	第12回日本心血管イン ターベンション学会学術 集会	2003	6
渋井俊之, 藤本啓志, 細川雄亮, Zreiqat J, 川嶋修司, 山根吉人, 大野忠明, 高野仁司, 青木聡, 浅井邦也, 佐藤直樹1), 中込明裕, 安武正弘, 草間芳樹, 高山守正, 高野照夫 {1} 集中治療室}	心筋虚血判定困難なLAD近位部病変 をpressure wireで評価しCutting StentとPTSMAを同時施行した閉塞 性肥大型心筋症の1例	第12回日本心血管イン ターベンション学会学術 集会	2003	6
石橋史行1), 水野杏一1), 畑典武, 酒井俊太1), 今泉孝敬, 大場崇芳1), 横山真也, 高木元1), 清宮康嗣1), 稲見茂信1) {1} 千葉北総病院循環器センター}	急性冠症候群における冠血栓と No- flow / Slow flow 現象との関連 (血 管内視鏡による検討)	第12回日本心血管イン ターベンション学会学術 集会	2003	6

学 会 発 表

演者、所属	演題名	学会名	年	月
大場崇芳1), 酒井俊太1), 小川友裕1), 稲見茂信1), 石橋史行1), 掃部弘行1), 岡松健太郎1), 清宮康嗣1), 高野雅充1), 横山真也, 高木元1), 野村敦宣1), 今泉孝敬, 畑典武, 水野杏一1) {1)千葉北総病院循環器センター}	当院における冠動脈内血管内視鏡施行時の合併症の頻度 (1015手技での検討)	第12回日本心血管インターベンション学会学術集会	2003	6
高山英男, 加藤貴雄	致死性心室性不整脈の発生とQRSオルタナンスの関係: ウェーブレット変換を用いた解析	第23回ホルター心電図研究会	2003	6
村澤恒男, 酒井行直, 小野卓哉, 伊佐治剛, 網谷賢一, 山口朋祐, 西垣朝裕, 宗像一雄 (第二病院内科)	維持透析患者の血液透析に伴うQT dispersion および ARI dispersion の変動とその相違点	第48回 (社) 日本透析医学会学術集会・総会	2003	6
酒井行直, 網谷賢一, 村澤恒男, 宗像一雄, 門松豊1), 磯野友昭1), 尾崎傑1) {1)第二病院血液浄化療法室}	肝硬変による難治性腹水をコントロールし得た腹膜透析導入の1例	第48回 (社) 日本透析医学会学術集会・総会	2003	6
網谷賢一, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄, 門松豊1), 磯野友昭1) {1)血液浄化療法室}	維持透析患者における血液透析前後の細胞内外水分量の変化率とANP, BNPとの関連についての検討	第48回 (社) 日本透析医学会学術集会・総会	2003	6
磯野友昭1), 尾崎傑1), 門松豊1), 網谷賢一, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄 (第二病院内科)	新規型エンドホールタイプ・ダブルルーメンカテーテルと従来型ヘパリンコーティングタイプ・ダブルルーメンカテーテルとの比較検討	第48回 (社) 日本透析医学会学術集会・総会	2003	6
尾崎傑1), 磯野友昭1), 門松豊1), 網谷賢一, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄 {1)血液浄化療法室}	Pulse Wave Transit Time を用いた血液透析中の血圧変動予測	第48回 (社) 日本透析医学会学術集会・総会	2003	6
藤本啓志, 吉田博史, 青木亜佐子, 松下洋子, 中村純子, 神谷仁孝, 三松俊英, 徳山権一, 品田卓郎, 三浦洋司, 横山真也, 今泉孝敬, 畑典武	カテコラミン産生グロムス腫瘍にStanford A型急性大動脈解離を合併した1例	第188回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2003	6
小林宣明1), 本郷公英1), 田近研一郎1), 小川友裕1), 稲見茂信1), 石橋史行1), 清宮康嗣1), 大場崇芳1), 酒井俊太1), 野村敦宣1), 佐野純子1), 水野杏一1), 三松俊英, 徳山権一, 品田卓郎, 三浦洋司, 吉田博史, 横山真也, 今泉孝敬, 畑典武 {1)千葉北総病院内科}	肺血栓塞栓症を合併した急性大動脈解離症例	第188回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2003	6
小川晃生, 清野精彦, 山下照代, 緒方憲一, 高野照夫, 佐藤直樹1), 田中啓治1) {1)集中治療室}	各種心筋マーカーによる非ST上昇型急性冠症候群における微小心筋傷害の分析: 特にN terminal pro-BNPについて	第23回心筋梗塞研究会	2003	7
坪宏一, 高木啓倫, 藤田進彦, 山本剛, 佐藤直樹, 汲田紳一郎1), 隅崎達夫1) {1)放射線医学}	微小循環評価における ^{99m} Tc-MAA心筋SPECTの有用性の検討	第23回心筋梗塞研究会	2003	7
五十嵐亜希1), 菅谷寿理1), 山本雪貴美1), 吉田由紀子1), 加藤政利1), 竹田裕子1), 平野美子1), 中村利枝1), 斎藤公一1), 福岡長知, 美浦和代, 木村祐子, 牛島明子, 土田貴也, 愛須紀子, 馬淵浩輔, 高野照夫 {1)生理機能センター}	心筋梗塞例における運動療法が血中ビタミンC濃度に及ぼす影響	第9回日本心臓リハビリテーション学会	2003	7
菅谷寿理1), 山本雪貴美1), 五十嵐亜希1), 中村利枝1), 斎藤公一1), 福岡長知, 美浦和代, 木村祐子, 高野照夫 {1)生理機能センター}	心臓リハビリテーションおよび関連する研究において臨床検査技師のはたす役割	第9回日本心臓リハビリテーション学会	2003	7

学 会 発 表

演者、所属	演題名	学会名	年	月
加藤政利1), 中村利枝1), 山本雪貴美1), 吉田由紀子1), 竹田裕子1), 五十嵐亜希1), 平野美子1), 菅谷寿理1), 斎藤公一1), 福岡長知, 牛島明子, 美浦和代, 加藤祐子, 土田貴也, 愛須紀子, 馬淵浩輔, 高野照夫 {1)生理機能センター}	自転車エルゴメーターのペダル回転速度が換気応答に与える影響	第9回日本心臓リハビリテーション学会	2003	7
鮎澤理人, 山口朋禎, 伊佐治剛, 網谷賢一, 寺田秀人, 本郷公英, 岩本将人, 宗像一雄 (第二病院内科)	骨髄異形成症候群および原発性胆汁性肝硬変症の経過中に肺胞蛋白症を発症した1例	510回日本内科学会関東地方会	2003	7
宮本正章	重症難治性心血管疾患に対する自己骨髄細胞移植血管再生療法	第2回日本組織移植学会・学術集会	2003	8
竹田晋浩, 金徹, 小野寺英貴, 田中啓治, 井上哲夫1), 小川龍2) {1) (付属病院集中治療室) 千葉北総病院麻酔科, 2)麻酔科学}	急性肺水腫に対するNPPVの適応と限界	第25回日本呼吸療法医学会 第13回日本呼吸管理学会 合同学術集会	2003	8
坂根学, 竹田晋浩, 金徹, 高木啓倫, 小野卓哉, 田中啓治	ARDSに対するステロイド少量持続投与が有効であった1症例	第25回日本呼吸療法医学会 第13回日本呼吸管理学会 合同学術集会	2003	8
竹永清人, 伊佐治剛, 酒井行直, 岩原信一郎, 寺田秀人, 村澤恒男, 北村伸, 宗像一雄 (第二病院内科)	血漿交換療法が奏効し寛解に至った, P-ANCA 関連血管炎症候群による急性肺障害の1例	第12回日本集中治療医学会 関東甲信越地方会	2003	8
幸田修典, 福田令雄, 軸蘭智雄, 杖下隆哉, 高木啓倫, 仁科大, 大森裕也1), 林明聡, 藤井正大, 坪宏一, 藤田進彦, 小野寺英貴, 山本剛, 小野卓哉, 金徹, 池崎弘之2), 佐藤直樹, 竹田晋浩, 新田隆1), 田中啓治 {1) 外科学第2, 2)麻酔科学}	劇症型心筋症を合併したと考えられる大動脈人口弁機能不全の1症例	第12回日本集中治療医学会 関東甲信越地方会	2003	8
品田卓郎, 阿部新, 村井綱児, 岡崎怜子, 吉田博史, 大場崇芳, 横山真也, 星野公彦, 今泉孝敬, 畑典武	重症成人発症Still病に対し血液浄化を含めた集中治療を行い救命し得た1例	第12回日本集中治療医学会 関東甲信越地方会	2003	8
張雪君, 勝田悌実, 秋元敏雄1), 大須賀勝, 加藤良人, 長戸孝道, 清水秀治, 古明地弘和, 里村克章, 荒牧琢己 {1)実験動物管理室}	肝肺症候群における一酸化窒素の関与: 二次性胆汁性肝硬変ラットでの検討	第10回日本門脈圧亢進症学会総会	2003	9
加藤政利1), 中村利枝1), 山本雪貴美1), 吉田由紀子1), 竹田裕子1), 五十嵐亜希1), 平野美子1), 菅谷寿理1), 斎藤公一1), 本間博1), 福岡長知, 牛島明子, 加藤和代, 加藤祐子, 土田貴也, 愛須紀子, 馬淵浩輔, 高野照夫 {1)生理機能センター}	下肢エルゴメーター運動負荷試験におけるペダル回転速度の差異が換気応答に与える影響	第71回日本医科大学医学会総会	2003	9
五十嵐亜希1), 菅谷寿理1), 山本雪貴美1), 吉田由紀子1), 加藤政利1), 竹田裕子1), 平野美子1), 中村利枝1), 斎藤公一1), 本間博1), 福岡長知, 加藤和代, 加藤祐子, 牛島明子, 土田貴也, 愛須紀子, 馬淵浩輔, 高野照夫 {1)生理機能センター}	酸化ストレスの定量化における血中ビタミンC濃度測定の有用性	第71回日本医科大学医学会総会	2003	9
岩井宏樹1), 高木元, 福岡長知, 高野照夫 {1)医学部第5学年}	左右冠動脈左室交通症, 心室中隔欠損および卵円孔開存を合併した1例	第71回日本医科大学医学会総会	2003	9
松崎つや子1), 本間博1), 佐藤淳子1), 水瀬学1), 石井玲子1), 斎藤公一1), 横島友子, 大野忠明, 福岡祐美子, 安武ひろ子, 菅原博子, 伊藤恵子, 高野照夫 {1)生理機能センター}	Strain rate imaging法による肥大心筋収縮スタイルの検討	第71回日本医科大学医学会総会	2003	9
内谷栄一1), 野本俊一1), 百束比古1), 水野博司1), 宮本正章, 高野照夫 {1)形成外科・美容外科}	自家骨髄幹細胞含浸人工真皮を利用した難治性皮膚潰瘍の治療	第71回日本医科大学医学会総会	2003	9

学 会 発 表

演者、所属	演題名	学会名	年	月
瀧澤憲一1), 宮田朗1), 高山守正, 桃井貴裕 2), 安藤岳史3), 中村隆4), 五十嶋一成5) {1)日本医科大学第4学年, 2)同 第5学年, 3)麻酔科, 4)中村病院, 5)自衛隊東北方面総 監部}	中高年登山者における日常トレーニングの実態: 北アルプス山岳診療所の調査報告 (日本医科大学山岳医学研究会)	第71回日本医科大学医学 会総会	2003	9
安藤岳史1), 川本雅司2), 石川源3), 清水亨 4), 本澤達生5), 山本剛6), 大泉旭7), 森淳 8), 高山守正, 五十嶋一成9) {1)日本医科大 学麻酔科, 2)同病理学第1, 3)埼玉医科大学 川越医療センター, 4)東部地域病院麻酔科, 5)本澤医院, 6)集中治療室, 7)高度救命救急 センター, 8)整形外科, 9)自衛隊東北方面総 監部}	志賀高原ジャイアント診療所におけ る最近の応急診療患者の動向	第71回日本医科大学医学 会総会	2003	9
松本ゆうき1), 飯野幸永1), 水野杏一 {1)千 葉北総病院中央検査室}	閉塞性動脈硬化症の術後評価におけ るABIの有用性	第71回日本医科大学医学 会総会	2003	9
山口由香1), 飯野幸永1), 水野杏一 {1)千葉 北総病院中央検査室}	103補充現象におけるSISI検査と自記 オージオメトリーの結果の検討	第71回日本医科大学医学 会総会	2003	9
野口由紀1), 飯野幸永1), 水野杏一 {1)千葉 北総病院中央検査室}	ウイルス性脳炎	第71回日本医科大学医学 会総会	2003	9
木村祐子, 福岡長知, 牛島明子, 美浦和代, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 高野照夫, 中村利枝1), 加藤政利1), 菅谷寿理1) {1)生 理機能センター}	健康人における高回転数エルゴメー ター負荷は換気血流不均衡を伴わず に V_E/V_{CO_2} slopeを増大させる	第51回日本心臓病学会学 術集会	2003	9
土田貴也, 福岡長知, 愛須紀子, 牛島明子, 美浦和代, 加藤祐子, 馬淵浩輔, 高野照夫	慢性心不全患者における中枢性化学 受容体反射感受性亢進と運動負荷に 対するノルエピネフリンの分泌能お よび心拍反応性の改善	第51回日本心臓病学会学 術集会	2003	9
福岡長知, 美浦和代, 牛島明子, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 高野照夫, 五十嵐亜希1), 菅谷寿理1), 中村利枝1), 斎 藤公一1) {1)生理機能センター}	心筋梗塞患者に対する運動療法が酸 化ストレスマーカーに及ぼす影響	第51回日本心臓病学会学 術集会	2003	9
ズライガット ジハド, 高山守正, 山根吉人, 大野忠明, 高野仁司, 青木聡, 浅井邦也, 佐 藤直樹1), 中込明裕, 安武正弘, 草間芳樹, 高野照夫 {1)集中治療室}	右冠動脈下壁枝への経皮的中隔心筋 焼灼術が左室内圧較差軽減に有効で あった左室中部閉塞性肥大型心筋症 の1例	第51回日本心臓病学会学 術集会	2003	9
五十嵐亜希1), 福岡長知, 菅谷寿理1), 山本 雪貴美1), 吉田由紀子1), 中村利枝1), 斎藤 公一1), 美浦和代, 土田貴也, 馬淵浩輔, 高 野照夫 {1)生理機能センター}	心筋梗塞患者における酸化ストレス の指標としてのビタミンC: ビタミン C濃度・摂取量と過酸化脂質の関係	第51回日本心臓病学会学 術集会	2003	9
中村利枝1), 福岡長知, 加藤政利1), 五十嵐 亜希1), 菅谷寿理1), 斎藤公一1), 加藤祐 子, 牛島明子, 愛須紀子, 高野照夫 {1)生理 機能センター}	エルゴメーターのペダル回転速度が 運動負荷時の換気応答に及ぼす影響	第51回日本心臓病学会学 術集会	2003	9
美浦和代, 福岡長知, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 高野照夫	心筋梗塞後患者におけるアスコルビ ン酸投与後の運動負荷時ノルエピネ フリン分泌能及び心拍反応性の改善	第51回日本心臓病学会学 術集会	2003	9
土田貴也, 福岡長知, 愛須紀子, 牛島明子, 美浦和代, 加藤祐子, 馬淵浩輔, 高野照夫	化学受容体反射による安静時と運動 負荷時の血圧制御	第51回日本心臓病学会学 術集会	2003	9
今井英彦1), 清野精彦, 篠山重威2) {1)武蔵 大学経済学部, 2)浜松労災病院}	夜間Cheyne-stokes呼吸を合併する慢 性心不全症例に対する在宅夜間酸素 療法の医療経済効果の分析: CHF- HOT研究会の成績に基づいて	第51回日本心臓病学会学 術集会	2003	9

学 会 発 表

演者、所属	演題名	学会名	年	月
岡松健太郎, 水野杏一, 酒井俊太, 稲見茂信, 清宮康嗣, 石橋史行, 高木元, 佐野純子, 横山真也, 大場崇芳, 畑典武1) {1)千葉北総病院集中治療室}	Non-ST elevationACSにおけるTroponin Tと病変形態	第51回日本心臓病学会総会	2003	9
石橋史行, 水野杏一, 酒井俊太, 清宮康嗣, 小川友裕, 佐野純子, 野村敦宣, 大場崇芳, 稲見茂信 (千葉北総病院内科)	急性冠症候群の病因・病態・治療 2003発症予測: 黄色プラークと炎症の重要性	第51回日本心臓病学会総会	2003	9
石橋史行, 水野杏一, 佐野純子, 野村敦宣, 酒井俊太, 大場崇芳, 清宮康嗣, 稲見茂信, 小川友裕 (千葉北総病院内科)	加齢と急性冠症候群: 冠動脈内視鏡による黄色プラークの検討	第51回日本心臓病学会総会	2003	9
亀山幹彦1), 大野則彦1), 丸山光紀1), 緒方憲一1), 松本真1), 宮本新次郎1), 田寺長1), 鈴木健1), 新博次1), 岸田浩 {1)多摩永山病院内科}	本邦における薬剤性QT延長症候群によるtorsade de pointes症例の臨床的特徴	第20回日本心電学会学術集会	2003	9
谷口宏史, 小林義典, 宮内靖史, 岡崎怜子, 館岡克彦, 堀江格, 平澤康宏, 淀川顕司, 阿部純子, 岩崎雄樹, 森田典成, 林明聡, 大村和子, 小原俊彦, 平山悦之, 加藤貴雄, 岸田浩, 高野照夫	特発性左側心室頻拍における緩徐伝導路の空間的拡がり: カルト・システムを用いた検討	第20回日本心電学会学術集会	2003	9
森田典成1), 小林義典, 上野亮, 岡崎怜子, 館岡克彦, 谷口宏史, 堀江格, 平澤康宏, 淀川顕司, 阿部純子, 岩崎雄樹, 林明聡, 宮内靖史, 小原俊彦, 大村和子, 平山悦之, 新博次2), 加藤貴雄, 高野照夫 {1)集中治療室, 2)多摩永山病院内科}	心房粗動症例における右房分界核の横断伝導ブロックと解剖学的特徴	第20回日本心電学会学術集会	2003	9
館岡克彦, 岩崎雄樹, 小林義典, 堀江格, 谷口宏史, 阿部純子, 平澤康宏, 淀川顕司, 森田典成, 林明聡, 小野卓哉, 宮内靖史, 大村和子, 平山悦之, 斎藤寛和, 加藤貴雄, 岸田浩, 高野照夫	アルコール負荷head-up tilt試験の有用性	第20回日本心電学会学術集会	2003	9
淀川顕司, 小原俊彦, 高山英男, 岡崎怜子, 館岡克彦, 谷口宏史, 堀江格, 平澤康宏, 阿部純子, 岩崎雄樹, 森田典成, 小野卓哉, 宮内靖史, 八島正明, 平山悦之, 小林義典, 加藤貴雄, 岸田浩, 高野照夫	右脚ブロック症例における加算平均心電図および心電図周波数解析の臨床的意義	第20回日本心電学会学術集会	2003	9
小野卓哉, 斎藤寛和, 林明聡, 大村和子, 小林義典, イーガン1), ナトコヴァカサリン1), 田中啓治, 加藤貴雄, 岸田浩, 高野照夫, マリックマレック1) {1)セントジョージ病院心臓科学部門}	植え込み型除細動器植え込み群におけるT-wave morphology analysisの特徴	第20回日本心電学会学術集会	2003	9
岩崎雄樹, 山下武志1), 関口昭子1), 相良耕一1), 飯沼宏之1), 傳隆泰1), 小林義典, 加藤貴雄, 岸田浩, 高野照夫 {1)心臓血管研究所付属病院}	Glucocorticoid induced ion channel gene expression in rat atrium	第20回日本心電学会学術集会	2003	9
野村敦宣1), 小川友祐1), 稲見茂信1), 石橋史行1), 清宮康嗣1), 大場崇芳1), 酒井俊太1), 佐野純子1), 水野杏一1), 小林義典, 斎藤寛和, 新博次2), 加藤貴雄, 岸田浩, 高野照夫 {1)千葉北総病院循環器センター, 2)多摩永山病院内科}	Brugada型心電図波形の日内変動	第20回日本心電学会学術集会	2003	9
緒方憲一, 新博次, 井上博1), 相澤義房2) {1)富山医科薬科大学医学部第2内科, 2)新潟大学大学院循環器分野}	Brugada症候群の心電図診断におけるI群抗不整脈薬ピルジカイニド静注の意義: 不完全右脚ブロック症例を対象としたST上昇誘発試験	第20回日本心電学会学術集会	2003	9
山賀節子1), 西島美輝子1), 越谷美由紀1), 隠岐和美1), 荒木久美1), 荒井誠一1), 渡部紀子1), 高久貴子1), 新宅孝征1), 渋谷哲男2), 内田拓実, 宗像一雄 {1)第二病院中央検査室, 2)同 消化器病センター (第二病院内科)}	経胸壁心臓超音波検査におけるTVI法の有用性の検討	第71回日本医科大学医学会総会	2003	9

学 会 発 表

演者、所属	演題名	学会名	年	月
雪吹周生, 石井健輔, 大塚俊昭, 笠神康平, 小谷英太郎, 鈴木健, 新博次, 皆川規雄1) {1}隆生会皆川病院}	ニトログリセリンによる降圧作用と脈波伝播速度; 動脈硬化危険因子の影響	第35回日本動脈硬化学会総会	2003	9
雪吹周生, 吉田博史, 加藤活人, 宮地秀樹, 細川雄亮, 加藤浩司, 石井健輔, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新博次 (多摩永山病院内科)	HMG-CoA還元酵素阻害薬 (スタチン) の内膜増生抑制作用; ステント内/周縁部の比較	第35回日本動脈硬化学会総会	2003	9
稲見茂信, 石橋史行, 小川友裕, 岡松健太郎, 清宮康嗣, 高野雅充, 高木元, 大場崇芳, 酒井俊太, 水野杏一 (千葉北総病院内科)	冠動脈プラーク崩壊に対するスタチンの影響: 血管内視鏡での検討	第35回日本動脈硬化学会総会	2003	9
藤本啓志, 小谷英太郎, 宮本新次郎, 佐藤越, 松本真, 緒方憲一, 田寺長, 雪吹周生, 鈴木健, 新博次 (多摩永山病院内科)	大酒家にみられた完全房室ブロックの1例	第189回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2003	9
高橋直人, 竹永清人, 網谷賢一, 山口朋禎, 内田高浩, 星野公彦, 岩原信一郎, 宗像一雄, 内田拓実1) {1}牧田総合病院}	無症候性心筋虚血にMultiple Spontaneous Coronary Dissection を認めた1例	日本循環器学会第189回 関東甲信越地方会	2003	9
安武正弘1), 宮元正章1), 高野仁司1), 加藤活人1), 高野照夫1), 高木啓倫, 田中啓治, 落雅美2) {1}内科学第1, 2)外科学第2}	冠動脈バイパス術と骨髄単核細胞移植による血管新生治療により著明な心機能改善をみた虚血性心筋症の1例	第189回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2003	9
軸岡智雄, 仁科大, 山本剛, 坪宏一, 林明聡, 藤田進彦, 森田典成, 小野卓哉, 高木啓倫, 小野寺英貴, 金徹, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 田中啓治, 落雅美1), 菅野重人1), 花田有里子2), 山本保博2) {1}外科学第2, 2)高度救命救急センター}	心原性ショックをきたし経皮的心肺補助法にて救命し得た嵌頓性左房粘液腫の1症例	第189回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2003	9
小林宣明1), 三船俊英1), 田近研一郎1), 小川友裕1), 稲見茂信1), 石橋史行1), 清宮康嗣1), 大場崇芳1), 酒井俊太1), 野村敦宜1), 佐野純子1), 水野杏一1), 徳山権一, 品田卓郎, 吉田博史, 三浦洋司, 横山真也, 今泉孝敬, 畑典武 {1}千葉北総病院内科}	5FU治療中にたこつぼ心筋症を発症した1例	第189回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2003	9
佐々木朝子, 横山真也, 品田卓郎, 徳山権一, 三浦洋司, 吉田博史, 川口直美, 今泉孝敬, 畑典武	気管支ファイバー施行中に発症し, 冠血栓吸引により救命し得た重症心筋梗塞の1例	第17回千葉県重症患者管理研究会	2003	9
古明地弘和, 春日和美, 藤本啓志, 加藤良人, 長戸孝道, 清水秀治, 張雪君, 大須賀勝, 宮本正章, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己, 高野照夫	肝疾患における非侵襲的肝弾性度測定の有用性の検討	第40回日本臨床生理学会総会	2003	10
小林義典, 森田典成, 阿部純子, 林明聡, 岩崎雄樹, 宮内靖史, 平山悦之, 新博次, 加藤貴雄, 高野照夫	下位右房解剖学的峽部の伝導特性: 伝導方向による差異	第40回日本臨床生理学会総会	2003	10
板倉潮人1), 小野卓哉1), 佐藤直樹1), 高木啓倫1), 森田典成1), 藤井正大1), 坪宏一1), 藤田進彦1), 小野寺英貴1), 山本剛1), 金徹1), 竹田晋浩1), 田中啓治1), 高野照夫 {1}集中治療室}	OptiQを用いた連続心拍出量測定における異なる測定モードの有用性の比較検討	第40回日本臨床生理学会総会	2003	10
中村利枝1), 福岡長知, 加藤政利1), 菅谷寿理1), 斎藤公一1), 加藤祐子, 高野照夫 {1}生理機能センター}	エルゴメーター回転速度がVE/VCO ₂ slopeに及ぼす影響	第40回日本臨床生理学会総会	2003	10
牛島明子, 福岡長知, 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 高野照夫	運動負荷に対する心筋の電気的適応異常と運動障害: 運動負荷時心電図QT間隔から見た検討	第40回日本臨床生理学会総会	2003	9
大須賀勝, 勝田悌実, 張雪君, 秋元敏雄1), 加藤良人, 長戸孝道, 清水秀治, 古明地弘和, 里村克章, 荒牧琢己 {1}実験動物管理室}	門脈圧亢進症モデルとしての長期生存二次性胆汁性肝硬変ラットの有用性	第45回日本消化器病学会大会	2003	10

学会発表

演者、所属	演題名	学会名	年	月
横島友子, 本間博, 大野忠明, 福間祐美子, 安武ひろ子, 菅原博子, 伊藤恵子, 高野照夫, 松崎つや子1), 佐藤淳子1), 水瀬学1), 石井玲子1), 斉藤公一1) {1)生理機能センター}	Strain rate imagingによる肥大型心筋収縮様式の検討	日本超音波医学会第15回関東甲信越地方会	2003	10
牛島明子, 本間博, 大野忠明, 古明地弘和, 橋本英洋, 高野照夫, 天野康雄1), 隈崎達夫1), 松崎つや子2), 佐藤淳子2), 水瀬学2), 石井玲子2), 斉藤公一2) {1)放射線科, 2)生理機能センター}	間質性肺炎, 胸部大動脈瘤とともに偶然発見された心房中隔の脂肪性肥大の1例	日本超音波医学会第15回関東甲信越地方会	2003	10
小林宣明1), 三船俊英, 小川友裕, 田近研一郎, 稲見茂信, 清宮康嗣, 大場崇芳, 酒井俊太, 野村敦宣, 佐野純子, 水野杏一 {1)千葉北総病院集中治療室}	加齢と急性冠症候群: 冠動脈内視鏡による黄色プラークの検討	第17回日本心臓血管内視鏡学会	2003	10
小林宣明1), 三船俊英, 小川友裕, 田近研一郎, 稲見茂信, 清宮康嗣, 大場崇芳, 酒井俊太, 野村敦宣, 佐野純子, 水野杏一 {1)千葉北総病院集中治療室}	急性冠症候群の血管内視鏡による発症予測: 黄色プラークの重要性	第17回日本心臓血管内視鏡学会	2003	10
岡松健太郎1), 小林宣明1), 三船俊英1), 田近研一郎1), 小川友裕1), 稲見茂信1), 石橋史行1), 清宮康嗣1), 高野雅充1), 横山真也, 大場崇芳1), 酒井俊太1), 水野杏一1) {1)千葉北総病院循環器センター}	血管内視鏡による非ST上昇型急性冠症候群の病変形態の観察	第17回日本心臓血管内視鏡学会総会	2003	10
稲見茂信, 小林宣明, 三船俊英, 田近研一郎, 小川友裕, 石橋史行, 岡松健太郎, 清宮康嗣, 高野雅充, 横山真也, 大場崇芳, 酒井俊太, 水野杏一 {1)千葉北総病院循環器センター}	冠動脈プラーク崩壊に対するスタチンの効果	第17回日本心臓血管内視鏡学会総会	2003	10
稲見茂信1), 小林宣明1), 三船俊英1), 田近研一郎1), 小川友裕1), 石橋史行1), 岡松健太郎1), 清宮康嗣1), 高野雅充1), 横山真也, 大場崇芳1), 酒井俊太1), 水野杏一1) {1)千葉北総病院循環器センター}	無症候性プラーク破綻と高感度CRPの関連	第17回日本心臓血管内視鏡学会総会	2003	10
三船俊英 (千葉北総病院内科)	ステント留置術6年後に発症し, カテーテル検査中に急激に増悪して完全閉塞に至った遅発性血栓症の1例	第23回日本心臓血管インターベンション学会関東甲信越地方会	2003	10
高山守正	東京都におけるCCUネットワークの活動状況 (2002年度実績報告)	第23回東京CCU研究会	2003	11
山本剛1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 高野仁司, 高山守正, 高野照夫, 田島廣之2), 中沢賢2), 隈崎達夫2) {1)集中治療室, 2)放射線科}	急性肺塞栓症において“subacute”および“acute on chronic”と呼ばれる病態は存在するか?	第10回肺塞栓症研究会・学術集会	2003	11
伊佐治剛, 竹永清人, 網谷賢一, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄 (第二病院内科)	過去3年間に当科で経験したANCA関連腎炎の3例	日本医科大学医学会第111会例会	2003	11
菊池宏久1), 小谷英太郎, 木下宏文1), 今井和夫1), 新井健三1) {1)本庄総合病院内科}	NO ₂ ガス中毒により stage III (2nd acute phase)にまで進行した急性肺水腫の1例	第31回日本救急医学会総会	2003	11
佐藤越, 石川正也, 吉田博史, 緒方憲一, 小谷英太郎, 田寺長, 雪吹周生, 草間芳樹, 新博次	多摩永山病院内科における甲状腺疾患の疫学的調査	日本医科大学医学会第111回例会	2003	11
小林宣明1), 佐野純子1), 三船俊英1), 田近研一郎1), 小川友裕1), 稲見茂信1), 高野雅充1), 清宮康嗣1), 大場崇芳1), 酒井俊太1), 野村敦宣1), 今泉孝敬, 畑典武, 水野杏一1) {1)千葉北総病院循環器センター}	5FU投与後の冠動脈攣縮を証明し得たたこつば心筋症の1例	第23回循環器合同カンファレンス	2003	11

学会発表

演者、所属	演題名	学会名	年	月
白壁章宏, 藤本啓志, 大野忠明, 浅井邦也, 高木元, 高山守正, 高野照夫, 羽賀洋一), 佐地勉1) {1)東邦大学第一小児科}	二期的施行のPTSMAが奏功した左室流出路兼中流部閉塞による重症閉塞性肥大型心筋症の小児例	第190回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2003	12
細川雄亮1), 宮地秀樹1), 加藤活人1), 奥田小百合1), 伊藤憲祐1), 石川正也1), 加藤浩司1), 亀山幹彦1), 吉田博史1), 石井健輔1), 佐藤越1), 松本真1), 緒方憲一1), 宮本新次郎1), 小谷栄太郎1), 田寺長1), 雪吹周夫1), 草間芳樹1), 新博次1), 佐々木朝子, 丸山光紀 {1)多摩永山病院内科}	徐脈性不整脈に右室ペースングを挿入したところ左室奇異性収縮を生じ, うつ血性心不全を発症した症例	第190回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2003	12
岩井宏樹1), 高木元, 福間長知, 高野照夫 {1)医学部第5学年}	左右冠動脈左室交通症, 心室中隔欠損症及び卵円孔開存症を合併した1例	第190回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2003	12
田口志保1), 藤田進彦1), 森田典成1), 高木啓倫1), 藤田正大1), 坪宏一1), 山本剛1), 小野卓哉1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 村田広茂, 高木元, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫, 佐々木孝2), 矢島俊巳2), 清水一雄2) {1)集中治療室, 2)外科学第2}	特発性心室細動に対しカテーテルアブレーションが有効であった1症例	第190回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2003	12
石井健輔, 宮本新次郎, 丸山光紀, 緒方憲一, 佐藤越, 松本真, 小谷英太郎, 田寺長, 雪吹周生, 草間芳樹, 鈴木健, 新博次, 山本英希1) {1)多摩永山病院外科}	金属アレルギーによりペースメーカー植込みに難渋したダウン症候群の1例	第190回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2003	12
佐野純子, 小林宣明1), 三松俊英, 小川友裕, 稲見茂信, 高野雅充, 清宮康嗣, 大場崇芳, 野村敦宣, 酒井俊太, 水野杏一 {1)千葉北総病院集中治療室}	99mTc-HMDP骨シンチグラムの心筋集積により診断された無症候性心筋虚血の1例	第190回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2003	12
横山真也1), 清宮康嗣, 稲見茂信, 徳山権一1), 品田卓郎1), 三浦洋司1), 吉田博史1), 石川昌弘1), 川口直美1), 酒井俊太, 今泉孝敬1), 畑典武1) {1)千葉北総病院集中治療室}	気管支ファイバー施行中に発症し, 冠血栓吸引により救命し得た重症心筋梗塞の1例	第190回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2003	12
佐々木朝子, 横山真也, 清宮康嗣1), 稲見徹, 徳山権一, 品田卓郎, 三浦洋司, 吉田博史, 石川昌弘, 川口直美, 酒井俊太1), 今泉孝敬, 畑典武 {1)千葉北総病院内科}	気管支ファイバー施行中に発症し, 冠血栓吸引により救命し得た重症心筋梗塞の1例	第190回日本循環器学会 関東甲信越地方会	2003	12
小杉宗範, 小原俊彦, 中込明裕, 大須賀勝, 高野照夫, 藤田進彦1), 田中啓治1) {1)集中治療室}	心タンポナーデによる呼吸困難を契機に診断されたSLEの1例	第514回日本内科学会 関東地方会	2003	12
高山守正, 高野照夫 {1)東京都CCU連絡協議会事務局}	急性心血管疾患への地域救急患者搬入システム構築においてCCUに何を求めるか? 東京都におけるCCUネットワーク組織再編を通して	第17回日本冠疾患学会学術集会	2003	12
山本剛1), 高木啓倫1), 坪宏一1), 藤田進彦1), 佐藤直樹1), 中込明裕1), 安武正弘, 草間芳樹, 高山守正, 田中啓治1), 高野照夫 {1)集中治療室}	高齢者非ST上昇型急性冠症候群に対する早期侵襲的治療は有効か?	第17回日本冠疾患学会学術集会	2003	12
雪吹周生, 石井健輔, 大塚俊昭, 笠神康平, 小谷英太郎, 鈴木健, 新博次, 皆川規雄1) {1)隆盛会 皆川病院}	ニトログリセリンによる降圧作用と脈波伝播速度; 動脈硬化危険因子の影響	第17回日本冠疾患学会学術集会	2003	12
山本剛, 高木啓倫, 坪宏一, 藤田進彦, 佐藤直樹, 中込明裕1), 安武正弘1), 草間芳樹1), 高山守正1), 田中啓治, 高野照夫1) {1)内科学第1}	高齢者非ST上昇型急性冠症候群に対する早期侵襲的治療は有効か?	第17回日本冠疾患学会学術集会	2003	12

学 会 発 表

演者、所属	演題名	学会名	年	月
神谷正孝, 高山守正, 川嶋修司, 渡井俊之, 山根吉人, 高野仁司, 青木聡, 浅井邦也, 佐藤直樹1), 安武正弘, 中込明裕, 草間芳樹, 高野照夫, 桧山一弘2), 落雅美2) {1)集中治療室, 2)外科学第2}	超高齢者の重症冠動脈障害へのカテーテル治療または外科治療施行後遠隔期の身体機能と感情面の評価	第17回日本冠疾患学会学術集会	2003	12
山本剛1), 高木啓倫1), 坪宏一1), 藤田進彦1), 佐藤直樹1), 中込明裕1), 安武正弘1), 草間芳樹1), 高山守正1), 田中啓治2), 高野照夫1) {1)内科学第1, 2)集中治療室}	高齢者非ST上昇型急性冠症候群に対する早期侵襲的治療は有効か?	第17回日本冠疾患学会学術集会	2003	12
稲見茂信1), 小林宣明1), 三船俊英1), 田近研一郎1), 小川友裕1), 石橋史行1), 岡松健太郎1), 清宮康嗣1), 高野雅充1), 大場崇芳1), 横山真也, 酒井俊太1), 今泉孝敬, 畑典武, 水野杏一1) {1)千葉北総病院循環器センター}	冠動脈プラーク崩壊に対するスタチンの効果	第17回日本冠疾患学会総会	2003	12
田近研一郎1), 小林宣明1), 三船俊英1), 稲見茂信1), 小川友裕1), 石橋史行1), 岡松健太郎1), 清宮康嗣1), 高野雅充1), 大場崇芳1), 横山真也, 酒井俊太1), 今泉孝敬, 畑典武, 水野杏一1) {1)千葉北総病院循環器センター}	プラーク崩壊と高感度CRPの関連	第17回日本冠疾患学会総会	2003	12
岡松健太郎1), 稲見茂信1), 清宮康嗣1), 大場崇芳1), 横山真也, 酒井俊太1), 佐野純子1), 野村敦宣1), 今泉孝敬, 畑典武, 水野杏一1) {1)千葉北総病院循環器センター}	非ST上昇型急性冠症候群におけるTroponin Tと病変形態	第17回日本冠疾患学会総会	2003	12
清宮康嗣1), 小川友裕1), 田近研一郎1), 稲見茂信1), 高野雅充1), 大場崇芳1), 野村敦宣1), 酒井俊太1), 佐野純子1), 今泉孝敬, 畑典武, 水野杏一1) {1)千葉北総病院循環器センター}	急性冠症候群におけるプラーク破綻部位の検討	第17回日本冠疾患学会総会	2003	12
大須賀恵美子, 玉地寛光, 早川弘一, 他(久我山病院内科)	高血圧患者における動脈硬化性病変の評価ー細動脈と中動脈ー	第 回日本臨床薬理学会	2003	12
有沢紀子1), 高附真樹子1), 安野智子1), 西村貴子1), 大須賀恵美子2), 玉地寛光2), 早川弘一2), 他(1)北里研究所臨床薬理研究所、2)久我山病院内科)	高血圧患者におけるクレアチニン・クリアランスの予測性			
上原隆志, 日野光紀, 水野杏一, 小野靖, 田中庸介, 樫戸律子, 上鶴里央子, 北村和広(千葉北総病院内科)	Nocardia farcinicaおよびMycobacterium fortuitumによる慢性の感染症プラを伴う肺炎の1例	第16回千葉感染症治療研究会	2003	12
佐藤越, 石川正也, 吉田博史, 緒方憲一, 小谷英太郎, 田寺長, 新博次	内科外来通院中の甲状腺機能低下症とその臨床的背景の検討	第38回日本成人病学会	2004	1
三船俊英, 酒井俊太, 小林宣明, 小川友裕, 田近研一郎, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 野村敦宣, 佐野純子, 水野杏一(千葉北総病院内科)	心筋梗塞回復期に施行された冠動脈造影および血管内超音波では診断できなかった多量冠動脈内残存血栓の1例	第14回日本心血管画像動態学会	2004	1
横山真也, 吉岡正人1), 中村純子, 松下洋子, 神谷仁孝, 畑典武, 田中宣威1) {1)千葉北総病院外科}	PMX-DHPが有効と考えられたARDS, DICを併発した重症急性肺炎の1例	第8回エンドトキシン血症救命治療研究会	2004	1
青木亜佐子, 岩崎雄樹, 宮内靖史, 福間長知, 小林義典, 清野精彦, 高野照夫	拡張型心筋症に伴った家族性房室ブロックの1例	第191回日本循環器学会関東甲信越地方会	2004	2
山下直子1), 山本剛1), 牧野晃1), 森田典成1), 高木啓倫1), 坪宏一1), 藤井正大1), 藤田進彦1), 小野卓哉1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 高野照夫, 新田隆2), 落雅美2), 田中邦夫3) {1)集中治療室, 2)外科学第2, 3)博慈会記念総合病院循環器内科}	頻脈性心房細動を契機に早期に診断された外傷性三尖弁閉鎖不全症の1例	第191回日本循環器学会関東甲信越地方会	2004	2

学会発表

演者、所属	演題名	学会名	年	月
高木啓倫, 宮本正章, 小鹿野道雄, 山下照代, 加藤活人, 宗像亮, 淀川顯司, 藤田進彦, 高野仁司, 安武正弘, 高野照夫, 田近賢二1), 檀和夫1), 坂本篤裕2), 小川龍2), 汲田伸一郎3), 隈崎達夫2), 落雅美3), 田中茂夫3) {1)内科学第3, 2)麻酔科, 3)放射線科, 4)外科学第2}	自己骨髄幹細胞移植による血管新生療法の成績	日本医科大学医学会第109回例会	2004	2
川見典之, 城所秀子, 田村秀樹, 江本直也, 岸田輝幸, 水野杏一 (千葉北総病院内科)	便秘, 全身倦怠感と意識障害を契機に発見された汎下垂体機能低下症の1例	日本医科大学医学会第112回例会	2004	2
田近研一郎, 小林宣明, 三船俊英, 小川友裕, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 酒井俊太, 野村敦宣, 佐野純子, 水野杏一 (千葉北総病院内科)	前立腺癌による99mTc-HMDP骨シンチグラムの心筋集積を認めた1例	日本医科大学医学会第112回例会	2004	2
山本真功, 野村敦宣, 平出智晴, 酒寄修, 水野杏一, 濱本真 (千葉北総病院内科)	リウマチ性多発筋痛症で発病した成人型スティル病の1例	日本医科大学医学会第112回例会	2004	2
佐々木朝子1), 横山真也1), 徳山権一1), 椎葉邦人1), 石川昌弘1), 今泉孝敬1), 畑典武1), 森本耕三2), 小野靖1), 清宮康嗣, 酒井俊太, 日野光紀, 水野杏一 {1)千葉北総病院集中治療室, 2)内科学第1}	気管支ファイバー施行中に発病し, 冠動脈血栓吸引により救命し得た重症心筋梗塞の1例	日本医科大学医学会第112回例会	2004	2
渥美健一郎1), 日野光紀1), 上鶴里央子1), 楢戸律子1), 上原隆志1), 小俣雅稔1), 田中庸介1), 小野靖1), 吉野直之1), 大秋美治2) {1)千葉北総病院呼吸器病センター, 2)同病理部}	多発結節影を呈し胸腔鏡下生検にて診断した肺MALT Lymphomaの1例	日本医科大学医学会第112回例会	2004	2
東春香, 古明地弘和, 加藤良人, 清水秀治, 張雪君, 大須賀勝, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己	限局性強皮症合併原発性胆汁性肝硬変におきた門脈肺高血圧症にBeraprost sodiumが有効であった1例	第36回臨床肝臓懇話会	2004	3
小野卓哉1), 斎藤寛和, 森田典成1), 佐藤直樹1), 竹田晋浩1), 小林義典, マリックマレック2), 田中啓治1), 高野照夫 {1)集中治療室, 2)ロンドン大学}	QT dispersionは心疾患のrisk stratification有用か? : T wave morphology analysisと比較して	第31回日本集中治療医学会学術集会	2004	3
森田典成1), 藤田進彦1), 田中啓治1), 山本剛1), 小野卓哉1), 金徹1), 佐藤直樹1), 竹田晋浩1), 小林義典, 高野照夫 {1)集中治療室}	繰り返しアダムスストークス発作を生じる特発性心室細動に対してアブレーションを行い救命した1例	第31回日本集中治療医学会学術集会	2004	3
坪宏一1), 佐藤直樹1), 山本剛1), 森田典成1), 高木啓倫1), 藤井正大1), 藤田進彦1), 小野卓哉1), 田中啓治1), 高野照夫 {1)集中治療室}	急性大動脈解離におけるD-dimer迅速定量測定キット(Cardiac D-dimer)の意義	第31回日本集中治療医学会学術集会	2004	3
山本剛1), 高木啓倫1), 森田典成1), 坪宏一1), 藤田進彦1), 小野卓哉1), 佐藤直樹1), 田中啓治1), 高野照夫, 田島廣之2) {1)集中治療室, 2)放射線科}	高度の肺高血圧を伴った急性肺塞栓症例の検討	第31回日本集中治療医学会学術集会	2004	3
坂本篤裕1), 後藤吉次1), 池崎弘之1), 中西一浩1), 竹田晋浩, 小川龍1) {1)麻酔科学}	炎症性サイトカインによる心機能抑制におけるガス状メディエータの相互作用	第31回日本集中治療医学会学術集会	2004	3
勝野暁1), 上田純志1), 幸田修典2), 坪宏一, 相本隆幸1), 佐藤直樹, 竹田晋浩, 内田英二1), 田尻孝1), 田中啓治 {1)外科学第1, 2)麻酔科学}	腹臥位により著明に改善した呼吸障害の1例	第31回日本集中治療医学会学術集会	2004	3
金徹, 幸田修典, 杖下隆哉, 藤井正大, 青砥泰二2), 佐藤直樹, 竹田晋浩, 野呂瀬嘉彦3), 小川龍1), 田中啓治 {1)麻酔科学, 2)中央検査部, 3)微生物学・免疫学}	当院集中治療室における抗生剤使用基準設定の効果: 特に簡易抗生剤感受性判定キットの有用性について	第31回日本集中治療医学会学術集会	2004	3

学 会 発 表

演者、所属	演題名	学会名	年	月
小野寺英貴, 幸田修典, 金博子, 金徹, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 宮下正夫1), 田尻孝1), 小川龍2), 田中啓治 {1)外科学第1, 2)麻醉科学}	術後顆粒球減少症をきたした食道癌の1症例	第31回日本集中治療医学会学術集会	2004	3
田中啓治, 上嶋健治, 川名正敏, 公文啓二, 茅野眞男, 長尾建, 林田憲明, 平澤邦彦, 本田喬, 宮崎俊一	わが国における急性心筋梗塞の地域別発症状況: 全国アンケート調査の集計結果	第31回日本集中治療医学会学術集会	2004	3
横山真也, 近藤麻加, 加納稔子, 今泉孝敬, 川口直美, 吉田博史, 石川昌弘, 品田卓郎, 徳山権一, 畑典武	長期中心静脈栄養患者に発症する胆嚢病変について	第31回日本集中治療医学会学術集会	2004	3
Ohno T, Honma H, Munakata R, Yoshikawa M, Yokoshima T, Fukuma Y, Yasutake H, Itoh K, Takayama M, Takano T	Effects of percutaneous transluminal septal myocardial ablation on myocardial deformation in patients with hypertrophic obstructive cardiomyopathy using ultrasonic strain measurements	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Setsuta K1), Seino Y, Takano T {1)Tokyo Metropolitan Komagome Hospital}	Is there any prognostic difference in ongoing myocardial damage between ischemic and non-ischemic chronic heart failure?	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Okumura S, Kawabe J1), Takagi G, Takano T, Ishikawa Y2) {1)Department of 1st Internal Medicine, Asahikawa Medical College, 2)Department of Cardiovascular Research, Yokohama City University, Graduate School of Medical Science }	Disruption of the type 5 adenylyl cyclase gene preserves cardiac function against pressure overload	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Nakagomi A, Hirasawa Y, Yamane Y, Takagi G, Takano H, Aoki S, Asai K, Endoh Y, Yasutake M, Kusama Y, Takayama M, Takano T	Statins therapy attenuates monocyte proinflammatory cytokines production by C-reative protein and reduces cardiac events in patients with chronic heart failure	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Yodogawa K, Morita N, Ohara T, Takayama H, Ogano M, Okazaki R, Ueno A, Tateoka K, Horie T, Taniguchi H, Hirasawa Y, Abe J, Iwasaki Y, Maruyama M, Ono T, Miyauchi Y, Hirayama Y, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T	A new electrographical approach for differential diagnosis between ARVC and Brugada syndrome	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Abe J, Kobayashi Y, Ogano M, Okazaki R, Ueno A, Tateoka T, Horie T, Taniguchi H, Hirasawa Y, Yodogawa K, Iwasaki Y, Morita N, Hayashi M, Miyauchi Y, Ohmura K, Hirayama Y, Katoh T, Takano T	Signal-averaged P wave in patients with paroxysmal atrial fibrillation provoked by focal repetitive atrial excitation	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Miyauchi Y, Kobayashi Y, Ogano M, Okazaki R, Ueno K, Tateoka K, Horie T, Taniguchi H, Yodogawa K, Hirasawa Y, Abe J, Iwasaki Y, Hayashi M, Maruyama M, Morita N, Ohara T, Katoh T, Takano T	Electrophysiological characteristics of the posterior border of Koch's triangel in relation to the development of atrioventricular nodal reentrant tachycardia	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Taniguchi H, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Ogano M, Okazaki R, Ueno A, Tateoka K, Horie T, Yodogawa K, Hirasawa Y, Abe J, Morita N, Iwasaki Y, Ohara T, Yashima M, Hirayama Y, Katoh T, Takano T	Three-dimensional distribution of the mid-diastolic and pre-systolic potentials during idiopathic left ventricular tachycardia	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3

学 会 発 表

演者、所属	演題名	学会名	年	月
Iwasaki Y, Yamashita T1), Sekiguchi A1), Hatano S1), Sagara K1), Iinuma H1), Aizawa T1), Fu L-T1), Kobayashi Y, Katoh T, Takano T {1)The Cardiovascular Institute}	HCN4 transcripts and proteins are abundantly expressed in rat pulmonary veins	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Horie T, Kobayashi Y, Ogano M, Okazaki R, Ueno A, Tateoka K, Taniguchi H, Yodogawa K, Hirasawa Y, Abe J, Iwasaki Y, Morita N, Hayashi M, Maruyama M, Ohmura K, Ohara T, Katoh T, Takano T	Adenosine-sensitive atrial tachycardia involving atrioventricular nodal slow pathway	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Horie T, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Ogano M, Okazaki R, Ueno A, Tateoka K, Taniguchi H, Yodogawa K, Hirasawa Y, Abe J, Iwasaki Y, Morita N, Hayashi M, Maruyama M, Ohara T, Ohmura K, Katoh T, Talano T	Identification of the critical narrow isthmus of macroreentrant atrial tachycardia using electroanatomical mapping system. Implication of "one burn" ablation	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Yamashita T, Seino Y, Ogawa A, Fukushima M, Ogata K, Yasutake M, Takano T	NT-proBNP is a novel biomarker of integrated cardio-renal function for risk stratification in patients with acute coronary syndrome	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Okumura S, Kawabe J1), Takagi G, Takano T, Ishikawa Y2) {1)1st Department of Internal Medicine, Asahikawa Medical College, 2)Department of Cardiovascular Research, Yokohama City University, Graduate School of Medical Sciences}	β-adrenergic and muscarinic regulation of the heart requires type 5 adenylyl cyclase	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Hirasawa Y, Nakagomi A, Kobayashi Y, Okazaki R, Ueno A, Tateoka K, Horie T, Taniguchi H, Yodogawa K, Abe J, Morita N, Iwasaki Y, Miyauchi Y, Aoki S, Ohra T, Yashima M, Hirayama y, Katoh T, Takano T	Amiodarone reduces monocyte proinflammatory cytokines production and improves cardiac function in patients with idiopathic dilated cardiomyopathy and ventricular tachycardia	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Takagi H1), Yasutake M, Morita N1), Hayashi M, Akutsu K1), Fujita N1), Yamamoto T1), Ono T1), Satoh N1), Tanaka K1), Takano T {1)Department of ICU/CCU}	Plasma urotensin II in patients with acute heart failure	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Morita N1), Takagi H1), Fujii M1), Akutsu K1), Fujita N1), Yamamoto T1), Ono T1), Satoh N1), Tanaka K1), Iwasaki Y, Hayashi M, Miyauchi Y, Hirayama Y, Kobayashi Y, Takayama M, Katoh T, Takano T, Nitta T2), Ochi M2), Shimizu K2) {1)The Coronary Care Unit, 2)The Second Dept of Surgery}	Efficacy of biventricular pacing using epicardial lead system in patients with chronic heart failure	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Kamiya M, Satoh N1), Tokuyama K, Asai K, Tanaka K1), Takano T {1)Coronary Care Unit}	Is the combination therapy with colforsin daropate and landiolol useful in acute myocardial damage?	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Yodogawa K, Seino Y, Ogano M, Okazaki R, Ueno A, Tateoka K, Horie T, Taniguchi H, Hirasawa Y, Abe J, Morita N, Iwasaki Y, Maruyama M, Takayama H, Miyauchi Y, Hirayama Y, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T	Non-invasive detection of latent cardiac sarcoidosis using signal averaged electrocardiogram	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3

学 会 発 表

演者、所属	演題名	学会名	年	月
Tsuchida T, Oikawa K, Aisu N, Kato Y, Kato K, Ushijima A, Mabuchi K, Takano T	The relation between impaired response of norepinephrine to exercise and peripheral 123I-MIBG imaging in chronic heart failure	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Takano M1), Kobayashi N1), Mifune T1), Ogawa T1), Tajika K1), Inami S1), Seimiya K1), Ohba T1), Yokoyama S, Sakai S1), Nomura A1), Sano J1), Hata N, Mizuno K1) {1}Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital}	Changes in Coronary Plaque Color and Morphology by Lipid-Lowering Therapy with Atrvastatin: Serial Evaluation by Coronary Angioscopy	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Okamatsu K1), Mizuno K1), Inami S1), Seimiya K1), Takano M1), Yokoyama S, Ohba T1), Sakai S1), Nomura A1), Sano J1), Hata N {1}Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital}	The Effectiveness of Distal-protect Devices in Acute Coronary Syndromes - The Relationship between Coronary Thrombosis and TIMI Frame Counts	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Inami S1), Kobayashi N1), Mifune T1), Tajika K1), Ogawa T1), Ishibashi F1), Okamatsu K1), Seimiya K1), Takano M1), Yokoyama S, Ohba T1), Sakai S1), Imaizumi T, Hata N, Mizuno K1) {1}Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital}	Statins prevent coronary plaque disruption	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Semiya K1), Kobayashi N1), Mifune T1), Tajika K1), Ogawa T1), Inami S1), Takano M1), Ohba T1), Yokoyama S, Sakai S1), Nomura A1), Sano J1), Imaizumi T, Hata N, Mizuno K1) {1}Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital}	Significance of Plaque Disruption Site in Acute Coronary Syndrome	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Setsuta K1), Arao M1), Imai T1), Seino Y, Takano T {1}Tokyo Metropolitan Komagome Hospital}	Ongoing myocardial cell membrane damage in patients with chronic heart failure: analysis by heart-type fatty acid binding protein and troponin T	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Kamiya M, Takayama M, Kawashima S, Shibui T, Yamane Y, Takagi G, Takano H, Aoki S, Asai K, Satoh N, Yasutake M, Nakagomi A, Kusama Y, Takano T, Hinokiyama K1), Ochi M1) {1}The Second Department of Surgery}	Evaluation of functional and emotional status long after catheter or surgical coronary revascularization in octogenarian with severe coronary artery disease	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Kato K, Fukuma N, Ushijima A, Kimura Y, Aisu N, Tsuchida T, Mabuchi K, Takano T	Ascorbic acid improves sympathetic dysfunction in the patients with decreased ascorbic acid concentration after myocardial infarction	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Fukuma N, Tsuchida T, Ushijima A, Kato K, Kimura-Kato Y, Aisu N, Mabuchi K, Takano T	Baroreceptor reflex plays a role in encouragement of blood pressure elevation in later stage of exercise	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Katou K, Fukuma N, Ushijima A, Kimura Y, Aisu N, Tsuchida T, Mabuchi K, Takano T	Effects of ascorbic acid on sympathetic function in patients with heart failure after myocardial infarction	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3

学 会 発 表

演者、所属	演題名	学会名	年	月
Sugaya J1), Fukuma N, Yamamoto Y1), Igarashi A1), Nakamura T1), Saitoh K1), Ushijima A, Kato K, Kimura-Kato Y, Tsuchida T, Aisu N, Mabuchi K, Takano T {1)Physiological Examination Center}	Mental stress affects the production of nitric oxide and cytokine in patients with acute myocardial infarction	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Ueno A, Kobayashi Y, Ogano M, Okazaki R, Tateoka K, Horie T, Taniguchi H, Abe J, Hirasawa Y, Yodagawa K, Iwasaki Y, Morita N, Maruyama M, Miyauchi Y, Ohara T, Hirayama Y, Katoh T, Takano T	Role of electrophysiological study in risk stratification of sudden death in patients with dilated cardiomyopathy and non-sustained ventricular tachycardia	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Yamamoto T1), Takagi H1), Morita N1), Akutsu K1), Fujita N1), Ono T1), Satoh N1), Tanaka K1), Yasutake M, Takano T, Tajima H2) {1)Intensive and Coronary Care Unit, 2)Department of Radiology}	Aggressive catheter treatment interrupts development of persistent pulmonary hypertension even in "subacute" massive pulmonary embolism patients	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Tateoka K, Kobayashi Y, Okazaki R, Ueno A, Horie T, Taniguchi H, Abe J, Hirasawa Y, Yodogawa K, Morita N, Maruyama M, Ono T, Miyauchi Y, Ohara T, Ohsaka M, Hirayama Y, Saitoh H, Katoh T, Takano T	The usefulness of alcohol head-up tilt test in patients with alcohol related syncope	The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2004	3
Takano M, Kobayashi N, Mifune T, Ogawa T, Tajika K, Inami S, Seimiya K, Ohba T, Yokoyama S1), Sakai S, Nomura A, Sano J, Hata N1), Mizuno K {1)千葉北総病院集中治療室}	Changes in Coronary Plaque Color and Morphology by Lipid Lowering Therapy with Atorvastatin: Serial Evaluation by Coronary Angioscopy	第68回日本循環器学会	2004	3
Setsuta K1), Arao M1), Seino Y, Takano T {1)Tokyo Metropolitan Komagome Hospital}	Ongoing myocardial damage in patients with hypertensive heart disease without left ventricular systolic dysfunction	The 66th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2002	4
Setsuta K1), Seino Y, Ogawa T, Takano T {1)Tokyo Metropolitan Komagome Hospital}	Persistence of ongoing myocardial damage predicts poor long-term prognosis in patients with chronic heart failure	The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2003	3
Setsuta K1), Arao M1), Imai T1), Seino Y, Takano T {1)Tokyo Metropolitan Komagome Hospital}	Ongoing myocardial damage in patients with hypertensive left ventricular hypertrophy without systolic dysfunction also predicts future cardiac events	The 67th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	2003	3
Miura Y1), Morio H1), Hata N, Makino T1), Kuwano T1), Touhira H1), Fukunaga M1), Katada S1), Yasue K1), Suenaga K1), Tsukui I1) {1)Japan Aeromedical Research Center}	The nationwide survey of venous thromboembolism after air travel in Japan	4th Asia Pacific Congress of Aerospace Medicine (Tsukuba)	2002	10

編集後記

今年はアテネオリンピックで日本国中が沸いたのも束の間、台風、地震、水害と天変地異に見舞われる年となりました。第一内科医局も新研修医制度や総合救急外来いわゆる ER 当直開始、診療報酬包括化、さらにリスクマネジメントや関連病院の問題など様々な対応を迫られる激動の一年となりました。

各部署における慢性的な医師不足に加えて、学位が終わったのに留学できない、下級生を指導する中堅がいないなど様々な苦情をいただいております。しかし新研修医制度のために平成 17 年も引き続き正式の入局者がいないため人事面では、これまでで最も苦しい年になりそうです。何とか平成 17 年を乗り切り、18 年に多くの入局者があればこれら多くの問題を解決する糸口が見いだせそうです。皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

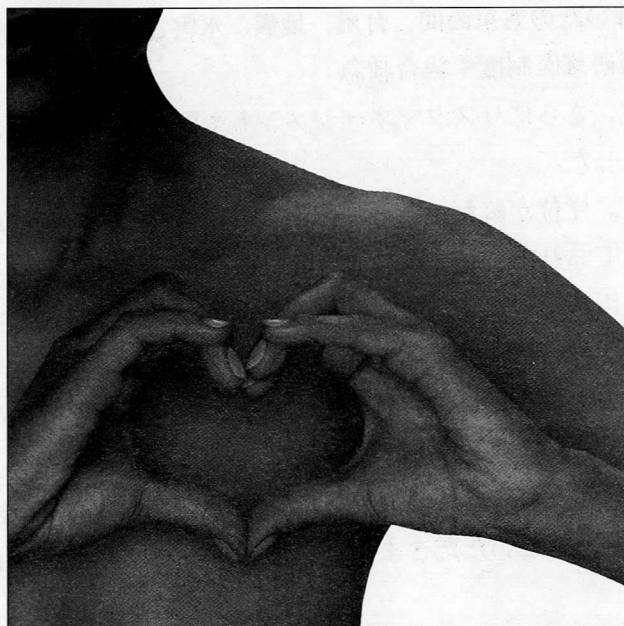
今回も本号刊行にあたり、多忙な秘書業務のかたわら原稿整理をしてくださいました秘書の吉田さん、小暮さん、また短時間のうちに原稿をお寄せいただきました先生方に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

平成 16 年 12 月 8 日
第一内科医局長 平山悦之



ループだから即効性がある
アゾセミドだからゆっくと持続性がある

だからダイアート



持続型ループ利尿剤

薬価基準収載

ダイアート[®] 錠60mg 錠30mg
(アゾセミド錠) 指定医薬品

■禁忌(次の患者には投与しないこと)

- (1) 無尿の患者
- (2) 肝性昏睡の患者
- (3) 体液中のナトリウム、カリウムが明らかに減少している患者
- (4) テルフェナジン又はアステミゾールを投与中の患者
- (5) スルフォンアミド誘導体に対し過敏症の既往歴のある患者

■効能・効果

心性浮腫(うっ血性心不全)、腎性浮腫、肝性浮腫

■用法・用量

●ダイアート錠60mg

通常成人1日1回1錠(アゾセミドとして60mg)を経口投与する。

なお、年齢・症状により適宜増減する。

●ダイアート錠30mg

通常成人1日1回2錠(アゾセミドとして60mg)を経口投与する。

なお、年齢・症状により適宜増減する。

■使用上の注意

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 進行した肝硬変症のある患者
 - (2) 重篤な冠硬化症又は脳動脈硬化症のある患者
 - (3) 重篤な腎障害のある患者
 - (4) 肝疾患・肝機能障害のある患者
 - (5) 本人又は両親、兄弟に痛風、糖尿病のある患者
 - (6) 下痢、嘔吐のある患者
 - (7) 手術前の患者
 - (8) セファロスポリン系抗生物質、アミノグリコシド系抗生物質、ジギタリス剤、糖質副腎皮質ホルモン剤、ACTH、サリチル酸誘導体又は非ステロイド性消炎鎮痛剤の投与を受けている患者
 - (9) 減塩療法時の患者
 - (10) 高齢者
 - (11) 小児等
- (1)～(11)項は「副作用」の項参照

2. 重要な基本的注意

- (1) 本剤の利尿効果は急激にあらわれることがあるので、電解質失調、脱水に十分注意し、少量から投与を開始して、徐々に増量すること。
- (2) 連用する場合、電解質失調があらわれることがあるので定期的に検査を行うこと。
- (3) 夜間の休息が特に必要な患者には、夜間の排尿を避けるため、午前中に投与することが望ましい。

3. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等

- ・昇圧アミン(ノルエピネフリン、エピネフリン)
- ・ツボクラリン及びその類似作用物質(塩化ツボクラリン)
- ・降圧剤(ACE阻害剤、 β -遮断剤等)
- ・アミノグリコシド系抗生物質(硫酸ゲンタマイシン、硫酸アミカシン等)
- ・シスプラチン
- ・セファロスポリン系抗生物質(セファロチンナトリウム、セファロリン等)
- ・アミノグリコシド系抗生物質(硫酸ゲンタマイシン、硫酸アミカシン等)
- ・ジギタリス剤(ジギタキシン、ジギトキシン)
- ・糖質副腎皮質ホルモン剤(ヒドロコルチゾン等)
- ・ACTH
- ・グリチルリチン製剤
- ・甘草含有製剤
- ・糖尿病用剤(スルホニルウレア剤、インスリン)
- ・リチウム(炭酸リチウム)
- ・サリチル酸誘導体(アスピリン、サリチル酸ナトリウム)
- ・非ステロイド性消炎鎮痛剤(インドメタシン等)
- ・尿酸排泄促進剤(プロベネド)
- ・カルバマゼピン

4. 副作用

総症例10,146例中、副作用が報告されたのは458例(4.51%)であった。主な症状は、高尿酸血症184件(1.81%)、低カリウム血症128件(1.26%)、BUN上昇75件(0.74%)、クレアチニン上昇44件(0.43%)であった。

[再審査終了時]

なお、本項には頻度が算出できない副作用報告を含む。

	頻度不明	0.1～5%未満	0.1%未満
代謝異常 ^{注1)}		電解質失調(低カリウム血症、低ナトリウム血症、低クロール性アルカローシス等)、高尿酸血症	高血糖症、高コレステロール血症、高トリグリセリド血症
過敏症 ^{注2)}			発疹
消化器	肺炎 ^{注3)} (血清アミラーゼ値上昇)		嘔気、嘔吐、食欲不振、胃部不快感、下痢、腹痛、口渇
血液 ^{注2)}			血小板減少
肝臓 ^{注2)}		GOT上昇、GPT上昇、ALP上昇	ビリルビン値上昇
腎臓 ^{注1)}		BUN上昇、クレアチニン上昇	
泌尿器			頻尿
精神神経系			めまい、耳鳴、頭痛
その他			脱力感、倦怠感、筋痙攣、関節痛

注1) 異常が認められた場合には減量又は休薬等の適切な処置を行うこと。

注2) 症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

注3) 肺炎があらわれるとの報告があるので、血清アミラーゼ値の上昇に注意すること。

※その他の使用上の注意等は添付文書をご覧ください。



資料請求先

株式会社 三和化学研究所

本社/名古屋市東区東外堀町35番地 〒461-8631

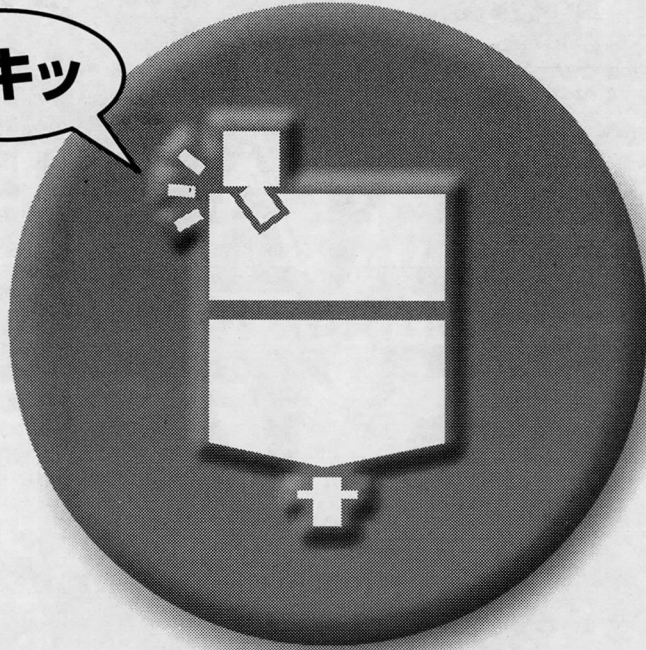
TEL(052)951-8130 FAX(052)950-1305

●ホームページ <http://www.skk-net.com/>

2001年10月改訂

ビタミン配合型TPNあらわる!

ポキッ



警告

ビタミンB₁欠乏症と思われる重篤なアシドーシスが発現した場合には、直ちに100~400mgのビタミンB₁製剤を急速静脈内投与すること。また、高カロリー輸液療法を施行中の患者では、基礎疾患及び合併症に起因するアシドーシスが発現することがあるので、症状があらわれた場合には高カロリー輸液療法を中断し、アルカリ化剤の投与等の処置を行うこと。

禁忌(次の患者には投与しないこと)

- (1) 本剤又は本剤配合成分に過敏症の既往歴のある患者
- (2) 血友病の患者
- (3) 乳酸血症の患者
- (4) 高ナトリウム血症の患者
- (5) 高クロール血症の患者
- (6) 高カリウム血症、乏尿、アジソン病、高窒素血症の患者
- (7) 高リン血症、副甲状腺機能低下症の患者
- (8) 高マグネシウム血症、甲状腺機能低下症の患者
- (9) 高カルシウム血症の患者
- (10) 肝性昏睡又は肝性昏睡のおそれのある患者
- (11) 重篤な腎障害のある患者
- (12) アミノ酸代謝異常のある患者

【効能又は効果】

経口、経腸管栄養補給が不能又は不十分で、経中心静脈栄養に頼らざるを得ない場合の水分、電解質、カロリー、アミノ酸及びビタミンの補給。

【用法及び用量】

●フルカリック1号 本剤は経中心静脈栄養療法の開始時で、耐糖能が不明の場合や耐糖能が低下している場合の開始液として、あるいは侵襲時等で耐糖能が低下しており、ブドウ糖を制限する必要がある場合の維持液として用いる。通常、成人には1日1806mLを24時間かけて中心静脈内に持続点滴注入する。なお、年齢、症状、体重により適宜増減する。
●フルカリック2号 本剤は経中心静脈栄養療法の維持液として用いる。通常、成人には1日2006mLを24時間かけて中心静脈内に持続点滴注入する。なお、年齢、症状、体重により適宜増減する。
●フルカリック3号 本剤は経中心静脈栄養療法の維持液として用いる。通常、成人には1日2206mLを24時間かけて中心静脈内に持続点滴注入する。なお、年齢、症状、体重により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
- (1) 腎障害のある患者 (2) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、蕁麻疹等のアレルギー

一を起こしやすい体質を持つ患者 (3) 薬物過敏症の既往歴のある患者 (4) 菌血症の患者 (5) 脱水症の患者 (6) 重症熱傷のある患者 (7) 心不全のある患者 (8) 閉塞性尿路疾患により尿量が減少している患者 (9) 糖尿病の患者 (10) 尿崩症の患者 (11) 高度のアシドーシスのある患者 (12) 肺炎、肺硬化症、肺腫瘍等の肺障害のある患者 (13) 妊婦 (14) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児

2. 重要な基本的注意

(1) 高カロリー輸液療法用の栄養輸液として組成を固定しているので、重篤な肝障害、腎障害等の特殊な輸液組成を必要とする疾患には使用しないこと。(2) 高血糖、尿糖のおそれがあるので、ブドウ糖濃度の低い製剤から投与するなど、ブドウ糖濃度を徐々に高めること。(3) フルカリック2号及びフルカリック3号の急激な投与の中止により低血糖を起こすおそれがあるので、投与を中止する場合にはブドウ糖濃度の低い製剤を使用するなど、ブドウ糖濃度を徐々に下げること。(4) フルカリック1号は、耐糖能が不明の場合及び病態により耐糖能が低下している場合の高カロリー輸液療法の開始液として用いる。また、侵襲時等で耐糖能が低下しており、熱量制限の必要がある場合には、高カロリー輸液療法の維持液として用いる。フルカリック2号は、通常の熱量が必要な患者の維持液として用いる。フルカリック3号は、必要熱量の高い患者の維持液として用いる。

3. 相互作用

併用注意(併用に注意すること) 強心配糖体・レボドパ・ワルファリン

4. 副作用

経口、経腸管栄養補給が不能な術後患者を対象とした53例の臨床試験において、5例(9.4%)に副作用が認められた。その内訳は、下肢発赤、皮疹、AST(GOT)上昇、ALT(GPT)上昇、γ-GTP上昇、LDH上昇、カリウム上昇、血糖値上昇が各1件(1.9%)であった(承認時)。

(1) 重大な副作用 1) アシドーシス 重篤なアシドーシスがあらわれることがある(「警告」の項参照)。2) ショック、アナフィラキシー様症状 ショック、アナフィラキシー様症状を起こすことがあるので、観察を十分に行い、血圧低下、意識障害、呼吸困難、チアノーゼ、悪心、胸内苦悶、顔面潮紅、掻痒感、発汗等があらわれた場合には、直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3) 高血糖 本剤は高濃度のブドウ糖含有製剤なので、過度の高血糖、高浸透圧利尿、口渴があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合にはインスリン投与等の適切な処置を行うこと。

※その他の使用上の注意等は製品添付文書をご覧ください。

高カロリー輸液用 総合ビタミン・糖・アミノ酸・電解質液 薬価基準収載

フルカリック® 1号 2号 3号

FULCALIQ® 1・2・3

田辺製薬株式会社・テルモ株式会社共同開発品

【指定医薬品】

(資料請求先)

TERUMO®

テルモ株式会社・東京都渋谷区幡ヶ谷2-44-1

FULCALIQ、フルカリックは田辺製薬株式会社の登録商標です。

(資料請求先)

田辺製薬

田辺製薬株式会社・大阪市中央区道修町3丁目2番10号

2004年1月作成

THE ARB DIOVAN

選択的AT₁受容体ブロッカー

選ばれしもの。

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人

【効能又は効果】

高血圧症

【用法及び用量】

通常、成人にはバルサルタンとして40～80mgを1日1回経口投与する。なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが、1日160mgまで増量できる。

【使用上の注意】(一部抜粋)

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 両側性腎動脈狭窄のある患者又は片腎で腎動脈狭窄のある患者(「2. 重要な基本的注意」(1)の項参照)
- (2) 高カリウム血症の患者(「2. 重要な基本的注意」(2)の項参照)
- (3) 重篤な腎機能障害のある患者(腎機能障害を悪化させるおそれがあるため、血清クレアチニン値が3.0mg/dL以上の場合には、投与量を減らすなど慎重に投与すること。)
- (4) 肝障害のある患者、特に胆汁性肝硬変及び胆汁うっ滞のある患者(本剤は主に胆汁中に排泄されるため、これらの患者では血中濃度が上昇するおそれがあるため、用量を減らすなど慎重に投与すること。外国において、軽度～中等度の肝障害患者でバルサルタンの血漿中濃度が、健康成人と比較して約2倍に上昇することが報告されている。)
- (5) 脳血管障害のある患者(過度の降圧が脳血流不全を引き起こし、病態を悪化させるおそれがある。)
- (6) 高齢者

2. 重要な基本的注意

- (1) 両側性腎動脈狭窄のある患者又は片腎で腎動脈狭窄のある

患者においては、腎血流量の減少や糸球体濾過圧の低下により急速に腎機能を悪化させるおそれがあるので、治療上やむを得ないと判断される場合を除き、投与は避けること。

- (2) 高カリウム血症の患者においては、高カリウム血症を増悪させるおそれがあるので、治療上やむを得ないと判断される場合を除き、投与は避けること。

また、腎機能障害、コントロール不良の糖尿病等により血清カリウム値が高くなりやすい患者では、高カリウム血症が発現するおそれがあるので、血清カリウム値に注意すること。

- (3) 本剤の投与によって、初回投与後、一過性の急激な血圧低下(失神及び意識喪失等を伴う)を起こすおそれがあるので、そのような場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、特に次の患者では低用量から投与を開始し、増量する場合は患者の状態を十分に観察しながら徐々に行うこと。

1) 血液透析中の患者

- 2) 利尿降圧剤投与中の患者(特に重度のナトリウムないし体液量の減少した患者(まれに症候性の低血圧が生じることがある))

3) 厳重な減塩療法中の患者

- (4) 本剤を含むアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬投与中に肝炎等の重篤な肝障害があらわれたとの報告がある。肝機能検査を実施するなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

- (5) 手術前24時間は投与しないことが望ましい。

- (6) 降圧作用に基づくめまい、ふらつきがあらわれることがあるので、高所作業、自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には注意すること。

3. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

- 薬剤名等
カリウム保持性利尿剤:スピロラクトン、トリウムテン等 カリウム補給剤:塩化カリウム(血清カリウム値が上昇することがあるので血清カリウム濃度に注意すること。)

4. 副作用

承認時までの調査556例中、自他覚症状が68例(12.2%)、臨床検査値異常が58例(10.4%)、計120例(21.6%)に副作用が認められた。

主な自他覚症状は、めまい14件(2.5%)、腹痛9件(1.6%)、咳嗽7件(1.3%)等であった。また、主な臨床検査値異常はALT(GPT)上昇18件(3.2%)、CK(CPK)上昇17件(3.1%)、AST(GOT)上昇14件(2.5%)等であった。

市販後の使用成績調査6,478例中、自他覚症状が324例(5.0%)、臨床検査値異常が214例(3.3%)、計502例(7.7%)に副作用が認められた。主な自他覚症状は、めまい57件(0.9%)、頭痛24件(0.4%)、動悸10件(0.2%)等であった。また、主な臨床検査値異常は、血中尿酸値上昇33件(0.5%)、BUN上昇30件(0.5%)、血清クレアチニン上昇27件(0.4%)等であった。

(承認時まで及び市販後2003年5月までの集計)

(1) 重大な副作用

次のような副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

- 1) 血管浮腫(頻度不明): 顔面、口唇、咽頭、舌の腫脹等が症状としてあらわれることがあるので観察を十分に行うこと。

2) 肝炎(頻度不明)

3) 腎不全(頻度不明)

- 4) 高カリウム血症(0.1%未満): 重篤な高カリウム血症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、直ちに適切な処置を行うこと。

5) 過度の血圧低下に伴う失神・意識喪失(頻度不明)

6) 血小板減少(0.1%未満)

- 7) 間質性肺炎(頻度不明): 発熱、咳嗽、呼吸困難、胸部X線異常等を伴う間質性肺炎があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。

その他の使用上の注意等詳細については、製品添付文書をご覧ください。



ディオバン錠 80mg
40mg

指定医薬品

要指示医薬品

注意 - 医師等の処方せん・指示により使用すること

DIOVAN

バルサルタン錠

NOVARTIS

販売

(資料請求先)

ノバルティス ファーマ 株式会社
東京都港区西麻布4-17-30 〒106-8618

NOVARTIS DIRECT

0120-003-293

受付時間: 月～金 9:00～18:00

www.diovan.jp

製造: 日本チバガイギー株式会社

おとして、抑える。

確かな降圧へのサイン **Play Coniel**

高血圧症・狭心症治療剤（持続性Ca拮抗薬）

劇薬／指定医薬品／要指示医薬品*

〈薬価基準収載〉

コニール錠 2・4・8

Coniel Tablets

塩酸ベニジピン製剤2mg・4mg・8mg錠

*注意・医師等の処方せん・指示により使用すること

1 電位依存性のCaチャネルのDHP結合部位に主としてMembrane approachで強力に結合し、細胞内へのCa²⁺流入を抑制する。

2 1日1回投与で、確実に安定した降圧効果を示す。

3 狭心症に対しても優れた効果が期待できる。

4 主な副作用は、末梢血管拡張作用に基づく動悸、顔面紅潮、ふらつき、頭重・頭重感、頭痛等である。

* 4mg錠は二分割しやすいSnap Tap錠です。

【効能・効果】

高血圧症、腎実質性高血圧症
狭心症

【用法・用量】

1. 高血圧症、腎実質性高血圧症

通常、成人には塩酸ベニジピンとして1日1回2～4mgを朝食後経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減するが、効果不十分な場合には、1日1回8mgまで増量することができる。

ただし、重症高血圧症には1日1回4～8mgを朝食後経口投与する。

2. 狭心症

通常、成人には塩酸ベニジピンとして1回4mgを1日2回朝・夕食後経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

- 1) 心原性ショックの患者〔症状が悪化するおそれがある。〕
- 2) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- 1) 過度に血圧の低い患者
- 2) 重篤な肝機能障害のある患者〔肝機能障害が悪化するおそれがある。〕
- 3) 高齢者

2. 重要な基本的注意

- 1) カルシウム拮抗剤の投与を急に中止したとき、症状が悪化した症例が報告されているので、本剤の休薬を要する場合は徐々に減量し、観察を十分に行うこと。
また、患者に医師の指示なしに服薬を中止しないように注意すること。
- 2) 本剤の投与により、過度の血圧低下を起こし、一過性の意識消失等があらわれるおそれがあるので、そのような場合には減量又は休薬するなど適切な処置を行うこと。
- 3) 降圧作用に基づくめまい等があらわれることがあるので、高所作業、自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には注意させること。

3. 相互作用

併用注意（併用に注意すること）

- 1) 他の降圧剤
- 2) ジゴキシン
- 3) シメチジン
- 4) リファンピシン
- 5) グレープフルーツジュース

4. 副作用

1) 重大な副作用

肝機能障害、黄疸（頻度不明）：AST（GOT）、ALT（GPT）、γ-GTPの上昇等を伴う肝機能障害や黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

*その他の「使用上の注意」は製品添付文書をご参照ください。



KYOWA

製造発売元

〔資料請求先〕

協和発酵工業株式会社

東京都千代田区大手町1-6-1

<http://iyaku.kyowa.co.jp/>

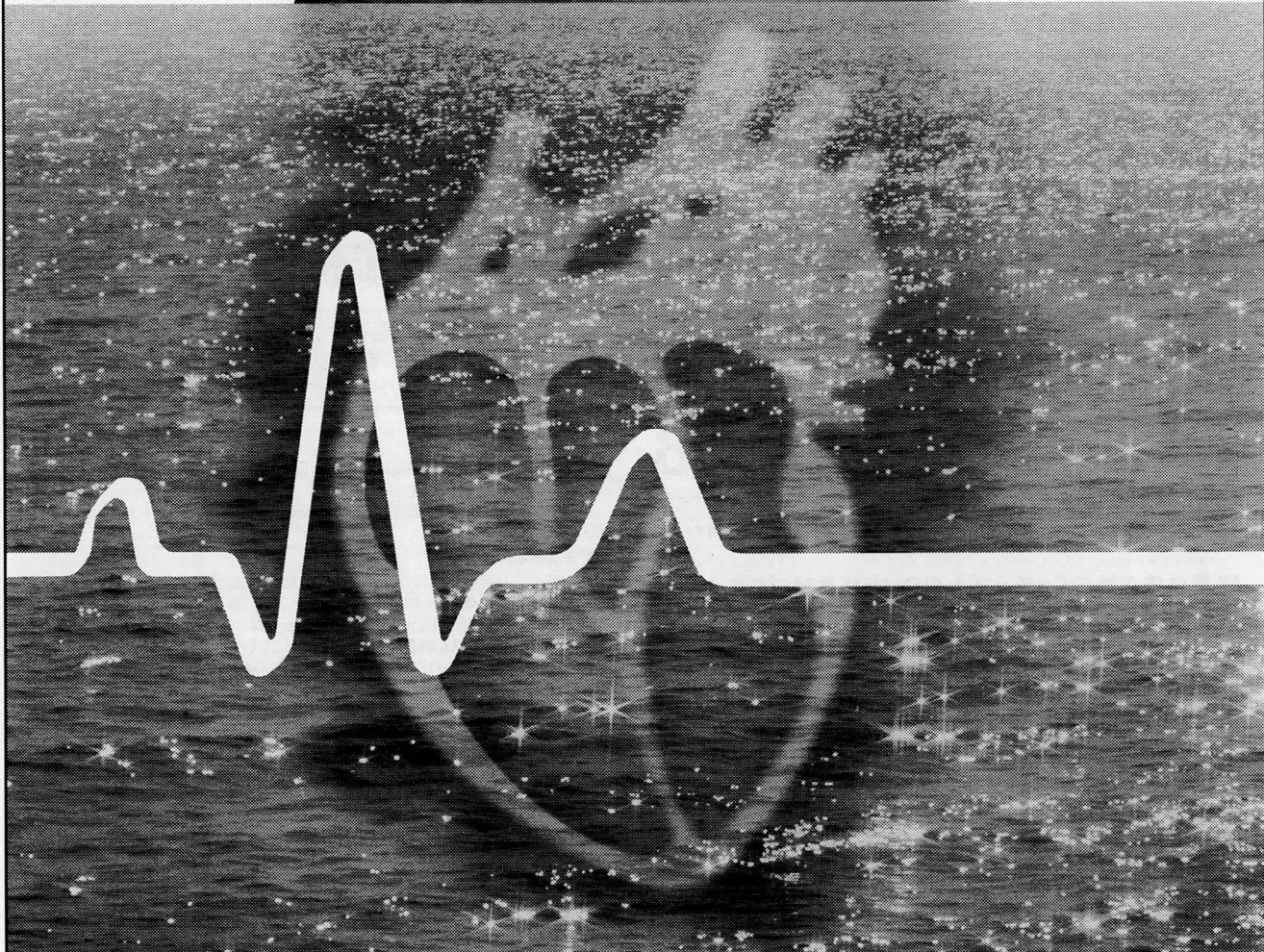
不整脈治療剤 塩酸アミオダロン製剤

毒薬
指定医薬品
要指示医薬品^(注)

アンカロン[®]錠100

注) 注意-医師等の処方せん・指示により使用すること

薬価基準収載



※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書等をご参照ください。



販売元〔資料請求先〕

大正富山医薬品株式会社
〒170-8635 東京都豊島区高田3-25-1

提携・学術宣伝

サノフィ・サンテラボ株式会社
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井3-23 文藝春秋新館



製造元

大正製薬株式会社
〒170-8633 東京都豊島区高田3-24-1

技術導入・販売提携

大正・サノフィ・サンテラボ製薬株式会社

2004.04
AC63A4M

高血圧治療に かがやく星



【禁忌】(次の患者には投与しないこと)

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人〔妊婦、産婦、授乳婦等への投与〕の項参照]

効能・効果 高血圧症

用法・用量 通常、成人にはオルメサルタン メドキシニルとして10~20mgを1日1回経口投与する。なお、1日5~10mgから投与を開始し、年齢、症状により適宜増減するが、1日最大投与量は40mgまでとする。

使用上の注意

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1) 両側性腎動脈狭窄のある患者又は片腎で腎動脈狭窄のある患者〔「重要な基本的注意」の項参照〕 (2) 高カリウム血症の患者〔「重要な基本的注意」の項参照〕 (3) 重篤な腎機能障害のある患者〔腎機能を悪化させるおそれがある。血清クレアチニン値が3.0mg/dL以上の患者での十分な使用経験はないので、このような患者に対しては状態を観察しながら慎重に投与すること。〕 (4) 肝機能障害のある患者〔外国において、軽度又は中等度の肝機能障害患者でオルメサルタンの血漿中濃度(AUC)が、健康な成人と比較してそれぞれ1.1倍と1.7倍に上昇することが報告されている。〕 (5) 脳血管障害のある患者〔過度の降圧が脳血流不全を惹起し、病態を悪化させるおそれがある。〕 (6) 高齢者〔「高齢者への投与」の項参照〕

2. 重要な基本的注意 (1) 両側性腎動脈狭窄のある患者又は片腎で腎動脈狭窄のある患者においては、腎血流量の減少や糸球体過剰の低下により急速に腎機能を悪化させるおそれがあるので、治療上やむを得ないと判断される場合を除き、使用は避けること。 (2) 高カリウム血症の患者においては、高カリウム血症を増悪させるおそれがあるので、治療上やむを得ないと判断される場合を除き、使用は避けること。また、腎機能障害、コントロール不良の糖尿病等により血清カリウム値が高くなりやすい患者では、高カリウム血症が発現するおそれがあるので、血清カリウム値に注意すること。 (3) 本剤の投与によって、一過性の急激な血圧低下を起こすおそれがあるので、そのような場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、特に次の患者では低用量から投与を開始し、増量する場合は患者の状態を十分に観察しながら徐々に投与を行うこと。 1) 血液透析中の患者 2) 利尿剤併用中の患者 3) 厳重な減塩療法中の患者 (4) 本剤を含むアンジオテンシンII受容体拮抗剤投与中に重篤な肝機能障害があらわれたとの報告がある。肝機能検査を実施するなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。 (5) 手術前24時間は投与しないことが望ましい。 (6) 降圧作用に基づくめまい、ふらつきがあらわれることがあるので、高所作業、自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には注意させること。

3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること) カリウム保持性利尿剤:スピロラクトン、トリアムテレン等 カリウム補給剤:塩化カリウム等

4. 副作用 総症例569例中65例(11.4%)に自覚症状の副作用が認められた。その主なものは、立ちくらみ(1.9%)、ふらつき感(1.6%)、めまい(1.4%)であった。臨床検査値異常変動の副作用は15.5%(87/563例)に認められ、その主なものはY-GTP上昇(3.7%1/27例)、尿酸上昇(3.1%17/553例)、血清カリウム上昇(2.9%16/557例)、ALT(GPT)上昇(2.7%15/555例)、トリグリセリド上昇(2.6%1/39例)、BUN上昇(2.3%13/554例)、AST(GOT)上昇(2.2%12/555例)、ヘモグロビン減少(1.4%8/554例)、赤血球減少(1.3%7/555例)、ヘマトクリット減少(1.1%6/554例)であった。(承認時)

(1) **重大な副作用** 1) **血管浮腫**(頻度不明^{※1)}:顔面、口唇、咽頭、舌の腫脹等が症状としてあらわれることがあるので観察を十分に行うこと。2) **腎不全**(頻度不明^{※1)} 3) **高カリウム血症**(頻度不明^{※1)}:重篤な高カリウム血症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、直ちに適切な処置を行うこと。4) **失神**(0.18%)、**意識消失**(頻度不明^{※1)}:過度の血圧低下に伴う失神、一過性の意識消失があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。5) **肝機能障害**(0.18%)、**黄疸**(頻度不明^{※1)}:AST(GOT)、ALT(GPT)、Y-GTPの上昇等の肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	副作用の頻度	
	1~5%未満	1%未満
過敏症 ^{※2)}		発疹
血液	赤血球数減少、ヘモグロビン減少、ヘマトクリット減少	白血球数増加、血小板数減少
精神神経系	めまい、立ちくらみ、ふらつき感	頭痛、頭重感、眠気
消化器		軟便
肝臓	ALT(GPT)上昇、AST(GOT)上昇、Y-GTP上昇、LDH上昇	ALP上昇
泌尿器	BUN上昇	血清クレアチニン上昇、尿蛋白、尿沈渣
その他	CK(CPK)上昇、CRP上昇、トリグリセリド上昇、血清カリウム上昇、尿酸上昇	全身倦怠感、咳嗽

注1) 海外のみで認められている副作用については頻度不明とした。

注2) 投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

5. 高齢者への投与 (1) 高齢者では一般に過度の降圧は好ましくないとされているので、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること〔脳梗塞等が起こるおそれがある。〕。(2) 75歳以上の高齢者の使用経験は限られているので、患者の状態を十分に観察し、開始用量を5mgとするなど考慮すること。(3) 65歳未満の非高齢者と65歳以上の高齢者において本剤の降圧効果及び副作用に差はみられなかった。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと〔動物実験(ラット)で、妊娠中期以降の投与において胎児及び新生児の低体重、生後分化の遅延が報告されている。〕。(2) 授乳中の婦人への投与を避け、やむを得ず投与する場合には授乳を中止させること〔動物実験(ラット)で乳汁中への移行が認められている。〕。

7. 小児等への投与 低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない(使用経験がない)。

8. 適用上の注意 薬剤交付時:PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

●上記以外の使用上の注意等は製品添付文書をご覧ください。



高親和性AT₁レセプターブロッカー

薬価基準収載

オルメテック錠 20mg 10mg

指定医薬品 要指示医薬品:注意—医師等の処方せん・指示により使用すること
一般名/オルメサルタン メドキシニル



製造販売元(資料請求先)

三共株式会社

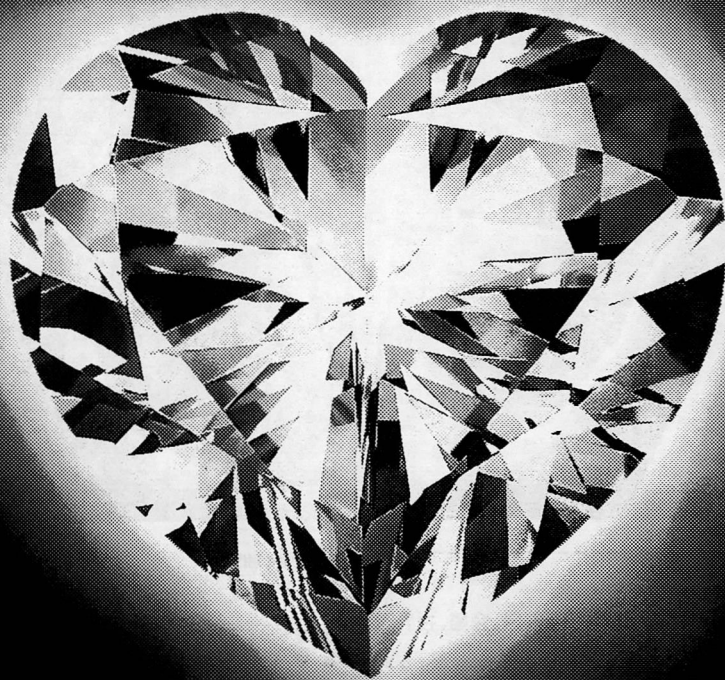
SANKYO 〒103-8426 東京都中央区日本橋本町3-5-1



プロモーション提携

株式会社 三和化学研究所

SKK 〒461-8631 名古屋市中区東外堀町35番地



BLOPRESS[®]

持続性アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤

指定医薬品 要指示医薬品[※]

薬価基準収載



ブロプレス錠[®] 2.4 8.12

(一般名: カンデサルタン シレキセチル錠) 注) 注意—医師等の処方せん・指示により使用すること

本剤の効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は添付文書をご参照ください。

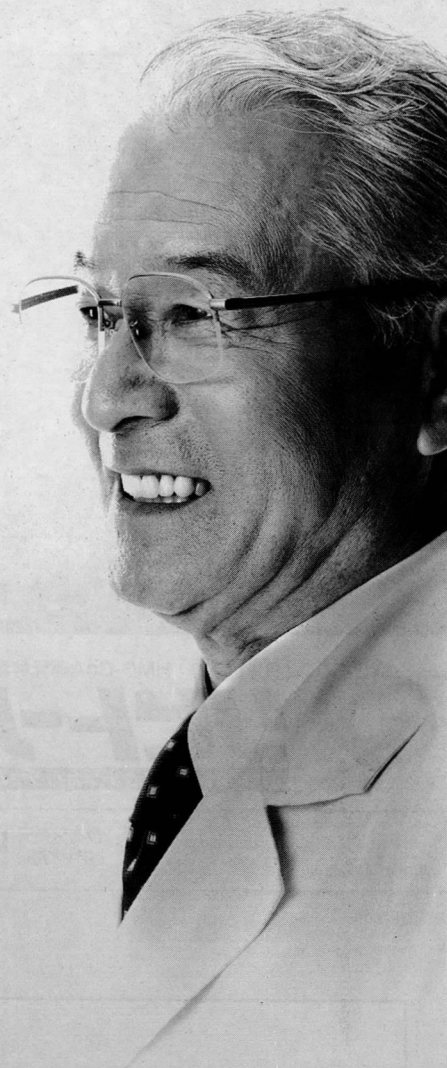
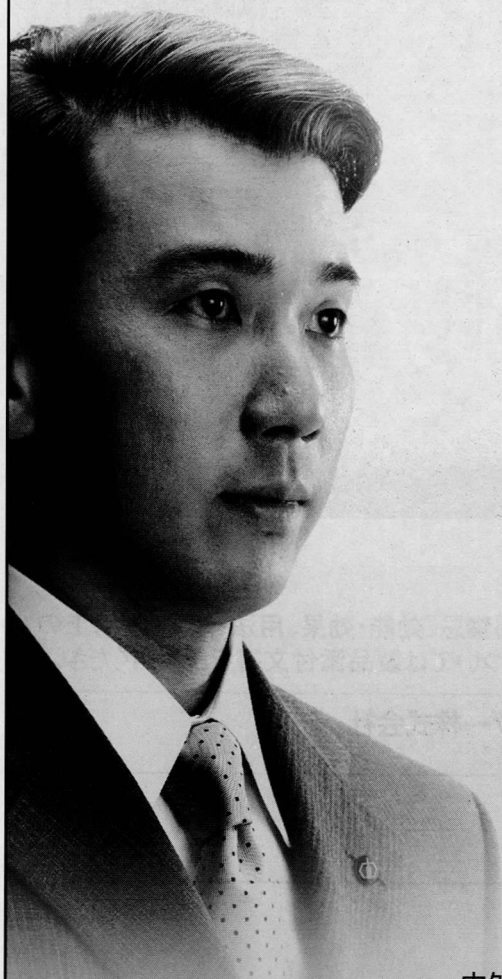
〔資料請求先〕



武田薬品工業株式会社

〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号
<http://www.takeda.co.jp/>

情報提供のその先に、
「心」豊かなQOLを願っています。



中外製薬の循環器領域製品ラインナップ

狭心症治療剤
指定医薬品、要指示医薬品*

薬価基準収載

シグマート錠 2.5mg・5mg
ニコランジル製剤

ジギタリス配糖体製剤
劇薬、指定医薬品

薬価基準収載

ジゴシン錠 0.125mg・0.25mg
日本薬局方ジゴキシン錠

徐放性不整脈治療剤
劇薬、指定医薬品、要指示医薬品*

薬価基準収載

リスモダン R錠 150mg
リン酸ジソピラミド錠

強心配糖体製剤
劇薬、指定医薬品

薬価基準収載

ラニラピッド錠 0.05mg・0.1mg
メチルジゴキシン製剤

アンジオテンシン変換酵素阻害剤
指定医薬品、要指示医薬品*

薬価基準収載

プレラン 0.5mg錠・1mg錠
トランドラプリル製剤

高血圧・狭心症・不整脈治療剤
劇薬、指定医薬品、要指示医薬品*

薬価基準収載

アセタノールカプセル 100・200
塩酸アセプトロール製剤

「効能・効果」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、
「禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意」等については製品添付文書をご参照下さい。 ※注意—医師等の処方せん・指示により使用すること



中外製薬

〔資料請求先〕

〒104-8301 東京都中央区京橋2-1-9

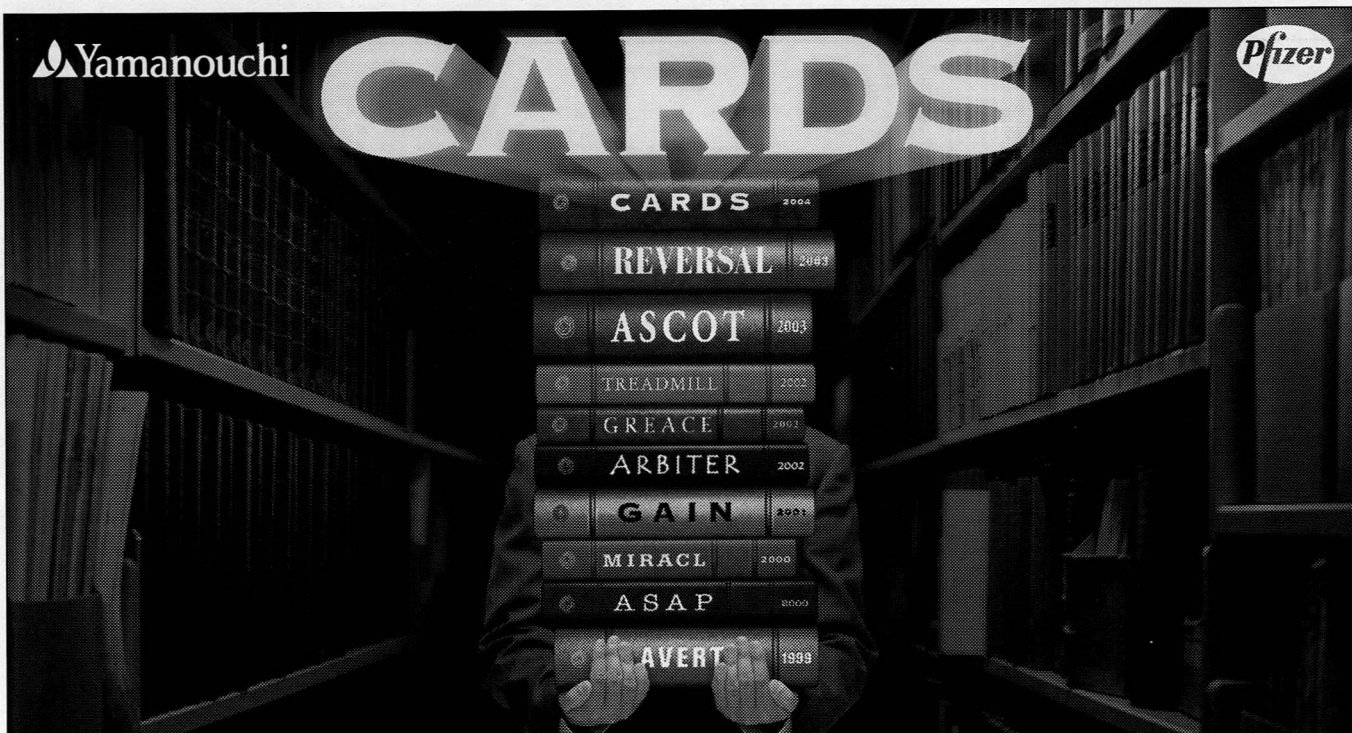
Roche ロシュ グループ

2003年10月作成

Yamanouchi

CARDS

Pfizer



指定医薬品 HMG-CoA還元酵素阻害剤

リピートール錠 5mg 10mg
アトルバスタチンカルシウム水和物 薬価収載

●禁忌、原則禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。

製造発売元 **山之内製薬株式会社** 販売提携 **ファイザー株式会社**
[資料請求先] 〒103-8411 東京都中央区日本橋本町2-3-11 〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7

04/6作成 A4½ D.02

創る

私たちは創る心を大切にします

病院関係印刷物
学会関係印刷物
教室記念誌・教授退任記念誌
パンフレットなど印刷物全般



伊豆アート印刷株式会社

〒104-0043 東京都中央区湊1-6-2
TEL 03-3553-8088
FAX 03-3553-8089
E-mail : yamada@izuart.co.jp (担当：山田)

1999 **ELITE II**
Evaluation of Losartan
in the Elderly Study I

2001 **RENAL**
Reduction of Endpoints in NIDDM with
A-II Antagonist Losartan

2002 **LIFE**
The Losartan Intervention For Endpoint
Reduction in Hypertension Study

2002 **OPTIMAL**
Optimal Therapy In Myocardial infarction
with the Angiotensin II Antagonist Losartan

A-IIアンタゴニスト

ニューロタン錠50

NU-LOTAN® (ロサルタンカルウム錠)〈薬価基準収載〉

指定医薬品・要指示医薬品：注意 — 医師等の処方せん・指示により使用すること

本剤のご使用にあたり、[使用上の注意]等詳細については、製品添付文書をご参照ください。

製造販売元【資料請求先】

万有製薬株式会社

〒103-8416 東京都中央区日本橋本町2-2-3
ホームページ <http://www.banyu.co.jp/>

©Trademark of Merck & Co., Inc. Whitehouse Station, N.J., U.S.A.
2004年7月作成 07-09CZR 04-J4723J

Meijiの主要抗菌薬

薬価基準収載

経口用セフェム系抗生物質製剤 指定医薬品、要指示医薬品^{注)}

CDTR-PI メイアクト錠100
MS小児用細粒
セフジトレン ピボキシル錠・散

セフェム系抗生物質製剤 指定医薬品、要指示医薬品^{注)}

注射用メイセリン®
注射用セフミノクスナトリウム

カルバペネム系抗生物質製剤 指定医薬品、要指示医薬品^{注)}

オメガシン® 点滴用0.3g 点滴用0.3gバッグ
注射用ヒアベネム

ホスホマイシン系抗生物質製剤 指定医薬品、要指示医薬品^{注)}

FOM ホスミシン® S バッグ1g点滴静注用・バッグ2g点滴静注用
静注用/キット2g/耳科用
注射用ホスホマイシンナトリウム・局所外用ホスホマイシンナトリウム

ホスミシン® 錠250・500
ドライシロップ200・400
ホスホマイシンカルシウム錠・シロップ用ホスホマイシンカルシウム

グリコヘプチド系抗生物質製剤 指定医薬品、要指示医薬品^{注)}

点滴静注用バンコマイシン0.5「MEEK」
注射用塩酸バンコマイシン

アミノグリコシド系抗生物質製剤 創薬、指定医薬品、要指示医薬品^{注)}

ABK AMCSA ハベカシン®注射液
硫酸アルベカシン注射液

アミノグリコシド系抗生物質製剤 創薬、指定医薬品、要指示医薬品^{注)}

パニマイシン®注射液/注射用点眼液
硫酸ジベカシン注射液・注射用硫酸ジベカシン
硫酸ジベカシン点眼液

マクロライド系抗生物質製剤 指定医薬品、要指示医薬品^{注)}

MOA ミオカマイシン®錠200
ドライシロップ100・200
酢酸ミデカマイシン錠・シロップ用 酢酸ミデカマイシン

広範囲経口抗菌製剤 指定医薬品、要指示医薬品^{注)}

スオード®錠100
フルリフロキサシン錠

ニューキノロン系注射用抗菌剤 指定医薬品、要指示医薬品^{注)}

CPFX シプロキサ®注 200mg 300mg
シプロフロキサシン製剤

注) 注意—医師等の処方せん・指示により使用すること
効能・効果、用法・用量、禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意等の詳細については添付文書をご参照ください。

製造販売元
(資料請求先)

明治製薬株式会社
〒104-8002 東京都中央区京橋 2-4-16

作成：2004.11

“人にやさしい”

総合医療環境をコーディネート



お客さまとのコミュニケーションを大切にし…

- 医療社会の将来を見据えた製品研究や環境の提案
- 高品質でタイムリーな製品の開発・供給
- レスポンスの良いアフターサービス

を積極的にすすめてまいります。



本 社 / 〒113-8483 東京都文京区本郷3-39-4 TEL (03) 3815-2121(代) <http://www.fukuda.co.jp>
お客様窓口 / ☎ (03) 5802-6600 / 受付時間 月～金曜日(祝祭日、休日を除く) 9:00～17:00
●医用電子機器の総合メーカー **フクダ電子株式会社**